

## Typology of Person Category in Deixis (II) : The Types of Person Category and It's Distribution in the World

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉田, 集而 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15021/00004454">https://doi.org/10.15021/00004454</a>

## 会話場面における人の概念の類型論 (II)

—その類型と類型の世界的分布—

吉 田 集 而\*

Typology of Person Category in Deixis (II)  
—The Types of Person Category and It's Distribution in the World—

Shuji YOSHIDA

This paper describes the typology of person deictics, and exemplifies the new universal person deictic system discussed previously [YOSHIDA 1982]. It also examines the co-relationship between typology and language groups.

Using 1129 languages (and/or dialects), 9 Basic Types, 23 Derivative Types and 2 Duality Dominant Types are recognized. The Basic Type is not formulated statistically, as was Ingram's methodology (1978), but theoretically. When all possible terms within a particular person deictic system exist, the type which has the terms is identified as a Basic Type. For example, a system in which Loquent person and Audient person have both 'singularity' and 'plurality' forms, belongs to a Basic Type, but a system in which Audient person has only one term in spite of Loquent person having 'singularity' and 'plurality' forms, as in English, is identified as a Derivative Type. Basic Types are divided into two; Dialoquent Person Type (D-Type) and Non-Dialoquent Person Type (ND-Type). ND-Type lacks a Dialoquent person category whereas D-Type has one. D-Type is subdivided into two; Singularity Dialoquent Person Type (Ds-Type) and Non-Singularity Dialoquent Person Type (Dns-Type). Only infrequently among the world's languages does a 'singularity' form of Dialoquent person occur. However, this occurs more often among the Minor Languages of the Philippines [REID 1971], as in Hanunóo [CONKLIN 1962]. This is the Ds-Type. The other system has a Dialoquent person and belongs to the Dns-Type.

\* 国立民族学博物館第2研究部

The Derivative Type is that in which one or more terms are absent from the terms of Basic Type or occur in addition to those terms. Since these types appear to be genetically derived from Basic Types, they are called here Derivative Type. Only 68 samples out of 1141 (6.0%) languages treated here are identified as Derivative Type, indicating that in them human recognition is rational.

Two samples do not distinguish between singularity and plurality forms despite the clear existence of a duality form. This is the Duality Dominant Type, and it is noteworthy that this type has the Dialoquent person. Although the 'duality' form regularly appears following distinction between 'singularity' and 'plurality' forms, it shows that the 'duality' form in deictic system is closely related with the Dialoquent person category, and that the 'duality' form might be independent of other number systems, although not universally so.

Most language groups exhibit particular characteristics in the typology of person deictic system. For example, the dominant types of Austronesian are 5Dns (Dns type with 5 terms) and 6Ds types. Papuan is 5ND type, Australian is 8Dns, Indo-European is 4ND, Afro-Asiatic is 4ND, Nilo-Saharan is also 4ND, and so on. It seems that the notion of person deictics is strongly retained from the ancestral language among the most language groups.

Sometimes, sub-groups have different characteristics that set them apart from the groups. For example, Koman is identified as 5Dns dominant type although Nilo-Saharan as a group is identified as 4ND dominant type. Hence, sub-group level analysis might reflect more precisely the actual features of the samples. D-Type and ND-Type are adopted for simplification and to clarify the basic notion of the deictic person system. A distribution map of the types on the analysed above is provided Fig. 30. The map suggests three hypothesis regarding the origins of the notion of Dialoquent person category. One may be a Yúnnánese (the southwestern part of China) origin, from where the notion of the category diffused westwards (Munda and Dravidian), southwards (Kam-Tai, Austro-Asiatic without Munda and Austronesian) and northeastwards (Altaic and American languages). The second is that the origin might have been the ancestral language of Chado-Hamitic. This is the African center of the Dialoquent person category, and the notion of the category spread from an uncertain geographical locality of the ancestral language to Koman, Kordofanian, Eastern Sudanic, Adamawa-

Eastern, West Atlantic and Khoisan. The third hypothesis is an Australian origin. Although these hypothesis remain speculative, they are valuable for testing the substratum of general human recognition from the macro-perspective. [Key word: Cognitive Anthropology, universality, world's languages, typology, origin and deixis]

(Please observe that the title of the first paper in this series should read "Typology of Person Category in Deixis (I)".)

- |                  |                       |
|------------------|-----------------------|
| 0. はじめに          | 2.3. 2数性卓越型           |
| 1. 方法論           | 3. 分布論                |
| 1.1. 資料          | 3.1. 各論               |
| 1.2. 表記法         | 3.1.1. オセアニア          |
| 1.3. 人称と数のとりあげ方  | 3.1.2. ユーラシア          |
| 1.4. 基本的類型と派生的類型 | 3.1.3. アフリカ           |
| 2. 類型論           | 3.1.4. アメリカ           |
| 2.1. 基本的類型       | 3.1.5. 未分類語           |
| 2.2. 派生的類型       | 3.1.6. Pidgin English |
| 2.2.1. 派生的 ND 型  | 3.2. 総論               |
| 2.2.2. 派生的 Dns 型 | 4. おわりに               |
| 2.2.3. 派生的 Ds 型  |                       |

## 0. はじめに

前稿 [吉田 1982] において、類型化のための基礎作業をおえた。すなわち、双称<sup>1)</sup>、自称、対称、他称の4つの人称からなる人称システムと単数性、複数性、2数性、3数性、4数性などの数のシステムをエティックな弁別の特徴として用いることが適当であることを提示した。ただし、他称は世界的には普遍的でないことを示し、これをこの類型論から除くことも示しておいた<sup>2)</sup>。

1) 本論でいう双称は従来、1人称包括的といわれていたものである。詳しくは前稿 [吉田 1982] を参照。

2) 最近出版されたバンヴェニストの訳本には本稿にかかわる興味深い論文が収載されている。彼は本来的な人称としては1人称と2人称をあげ、3人称は非・人称としている [バンヴェニスト 1983: 208-212]。しかし、1人称の包括形と排除形の問題になると、ここでいう双称が人称であるという点は見過されてしまっている。彼ほどの人でも、その当該の文化に考え方を縛られてしまうものであるらしい。とはいえ、彼の論文はいろいろと示唆に富んだものであり、たとえば、双称のあるときの複数と双称のないときの複数では少し性質がことなるとの指摘も興味深い。なお、彼はパプア系言語にも双称があるように書いている [バンヴェニスト 1983: 213] が、それは本論で示したように恐らく誤りであろう。

本稿ではそれらをもとにして、実際の資料に基づいて類型化を行ない、どのような類型が存在するかをまず明らかにする。その後、言語グループ<sup>3)</sup>ごとの類型論的特徴を検討し、さらに類型と地理的分布との相関性を検討しようとしている。ここでいう言語グループは系統的分類を基本とし、系統的分類のできないものは地理的分類にしたがってのグループ分けである。実際に用いた分類は Appendix II に示しておいた。なお、言語グループ内における人称代名詞の祖形を復元することはもとより目的ではないし、それらの語彙が形として相関しているかどうかも問題ではない。その語彙の裏側にある認識の仕方としての類型において相関性があるかどうかの問題なのである。そういう意味では言語学的資料を用いてはいるが、とりあつかおうとしている問題は認識人類学に属することである。

## 1. 方 法 論

### 1.1. 資 料

本稿で用いられる資料は次のようなものである。

- (1) 特に人称代名詞に関する論述が行なわれている論文および単行本。
- (2) それぞれの言語の文法書、および文法的記述のある論文。

(1)については、それぞれの言語グループごとに類型の分布を記述するさいに、基本文献として本文または脚注に書き出しておく。また、(2)についても、特に多くの資料を用いたものは(1)と同様に書き出しておく。

以上の単行本および論文のほとんどは国立民族学博物館に所蔵されているものである。ただし、著者および当館研究者の資料が若干それらに加えられている。このようにして集められた資料にはある偏りがある。すなわち、本論において興味のあるアメリカについてはやや古い資料を用いているし、また南アメリカの資料をほとんど欠いている。そのため、いずれはアメリカについては再検討を行なわなければならないと考えている。しかし一方では、これまで比較資料としてあまり用いられていなかった

3) 「言語グループ」という用語は、後の注7で示したような分類単位としての用語ではなく、どの分類レベルでも用いることができる用語としてあつまっている。ただし、ここでいう「言語グループ」は本文中に書き出したようである。そして、できることならば系統分類のみで貫きたいと考えていたが、系統のはっきりしたレベルで整理しようとすると余りにも煩雑すぎる。そのため、地理的分類を加えた常識的なレベルでまとめを行なった。実際、これまで多くの言語学者が多大の努力を重ねてきたにもかかわらず、なお多くの系統分類上の問題を残しているのは、むしろ動物や植物の分類のアナロジーを適用しようとしていることに問題があるように思われる。言語はやはり生物とは異なった原理で動いているのではないであろうか。特に言語接触に見られるさまざまな現象はそれを暗示しているように思われる。

ニューギニアやオーストラリアの資料がかなりの程度とりこまれている。これは主として Pacific Linguistics の最近の活発な出版に負っている。なお、インド・ヨーロッパ語族に関してはここでとりあげた以上に多くの資料が所蔵されているが、類型論的には極めて単調であるため、あまり熱心には参照されてはいない。むしろ、その多くは他の資料をさがすさいに副次的に出会った例を拾っている。そのため、ときに奇妙な例が用いられていることがある。そして、そのように拾っていても、なお全体としては多すぎる結果となっている。

このような母集団を限っての、目につくものだけを拾うという資料の採集方法では、Bell [1978] のような統計学的に妥当な資料の抽出法とはなっていないのは明らかである。参考までに Bell の例にならって試算したものを表1に示しておこう。この表によれば、Austric, Dravidian, Indo-European の3つの言語グループの資料が多すぎることになり、Ibero-Caucasian, Amerid の2グループが少なすぎる。Austric が多すぎるのは Austronesian が多すぎることによっているが、実はそれはこの研究が Austronesian からスタートしたという研究上の成り立ちにかかわっている。すなわち、Austronesian での類型のモデルをまず作りあげ、その後他の地域に広げられたのが本研究なのである。

表1 ベルの試算との比較

Language Group	Estimated number	No. of 3500 years ago	Actual number	Proper number
1. Austric	800	ca. 55	370	130
2. Indo-Pacific	700	est. 100	138	236
3. Australian	200	ca. 27	99	64
4. Sino-Tibetan	250	ca. 20	88	47
5. Eurasiatic	70	13	39	31
6. Ibero-Caucasian	35	4	2	9
7. Dravidian	20	1	6	2
8. Indo-European	90	12	54	28
9. Afro-Asiatic	200	23	47	54
10. Niger-Kordofanian	900	44	123	104
11. Nilo-Saharan	100	18	79	43
12. Khoisan	20	5	11	12
13. Amerid	900	est. 150	66	354
14. Na-Dene	30	4	6	9
15. Ket	1	1	0	2
16. Burushaski	1	1	1	2
Total	ca. 4300	478	1129	1127

Ibero-Caucasian の例は確かに少なすぎる。しかし、それは具体的な例としてもっともよく知られたグルジア (Georgian) 語をとりあげただけであるが、後に見られるように全体としての記述を加えてその不足を補なっている。Amerid の少なさは先に述べたように用いた資料の制限だけでなく、実際に南アメリカが資料の少ない地域であることにも原因があり、今回は検討の範囲外とした。

このように、Bell の算定値と比較するとかなりのひらきが認められ、統計学的な数字にはあるバイアスがあることを認めなければならない。とはいえ、そうしたバイアスを考慮にいれた上でその数値を見れば、かなりの程度まで全体の状況を読みとることができると思われる。さらに、この類型論では結果として言語グループとの相関性が認められるゆえに、各言語グループごとにまとめられた結果は、全体の状況をよりの確に示しているものといえよう。

### 1.2. 表 記 法

前稿で述べた人称システムとして双称、自称、対称、他称（ただし他称は前稿で述べたように普遍性を持つものではないゆえにここでは除かれている）を、数のシステム

(a) 単数性 複数性 2数性 3数性

双 称			
自 称			
対 称			

(b) 単数性 複数性

自 称	
対 称	

図1 類型の図的表現

としては単数性、複数性、2数性、3数性などを用いる。実際の類型はこの2つのシステムの組合せによるのであるが、本論では類型化を図によって示そうと考えている。それによって、より簡素化できるとともにより体系的に類型を把握することができるようになると考えている。

図化にさいしては、縦方向に人称を、横方向に数をとったマトリクスを用いる。図1aのように、人称については上から双称、自称、対称の順にならべられている。そのさい、3段にならべられているときは常にその順序でならべられているが、2段のときは図1bのように自称、対称の順でならべられ双称が省かれて

いる。数については左から右に単数性、複数性、2数性、3数性という順序でならべられている。この配列は多少意外に思われるかもしれないが、実際の作図のさいのヒントからこのような配列にした。それは次稿で述べる予定の類型の発展に関係しており、単・複の区別が2数性や3数性よりも先行していることを表現するのに都合がいいという事情とも関係している。そして、もし1列しか描かれていないときは単・複

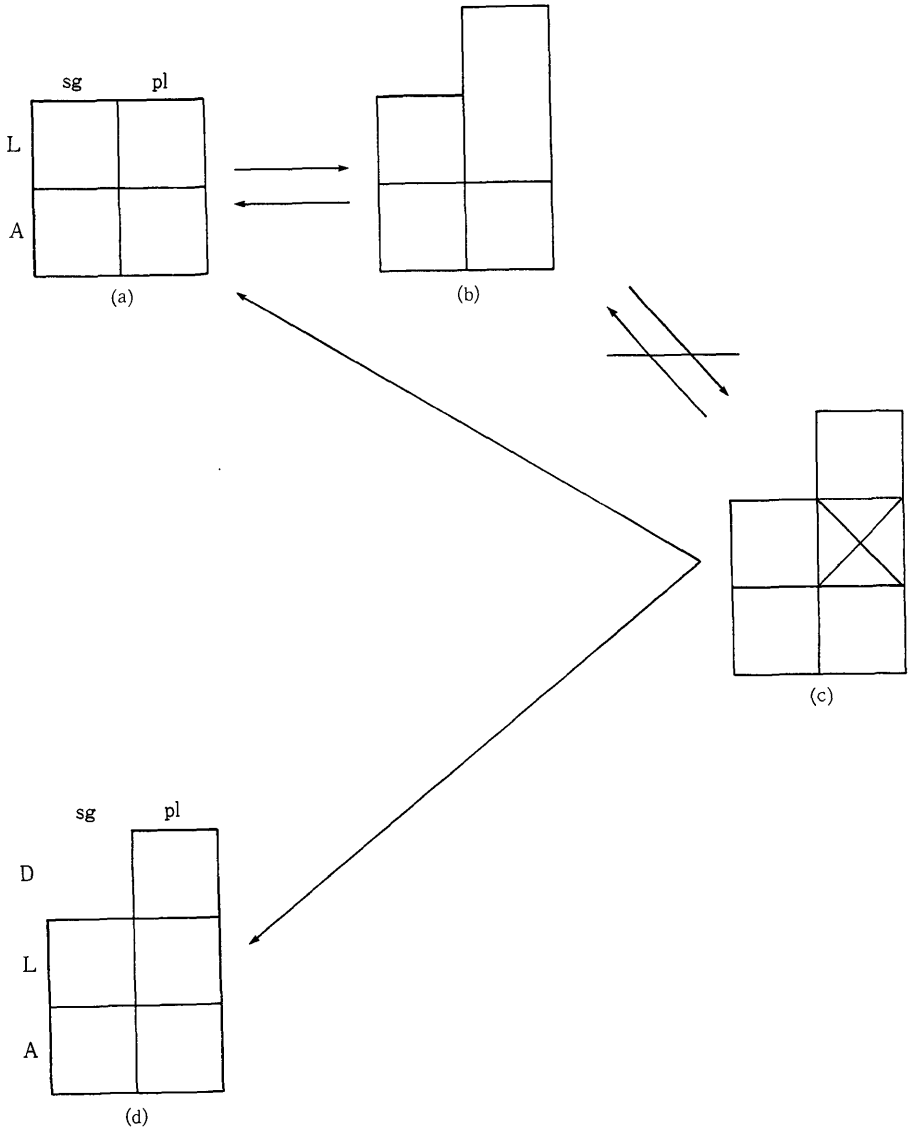


図2 双称をもたない類型の場合



の区別のない場合——未分化数の場合を示しており、2列のときは単数性と複数性からなっていることを、3列からなるときはその右側に2数性が加えられていることを示している。4列のときはさらに3数性が加わっていることを示している。実際にはこれ以外の場合もありえ、そのときはかならず数が表記されている。

ここで、図化にさいしてのひとつの規則を設けておく。すなわち、それぞれの用語がとりうる全てを図のなかに含めるという原則である。ただし、双称をもたない類型では少しの例外を設けておく。

双称をもたない類型では双称のマトリックスが省略されている。たとえば図2aのように双称は描かれていない。しかし、双称の機能を持つ用語がないのではない。たとえば、editorial we と teacher's we はそれぞれ自称と双称を示している。それゆえ、先の原則をつらぬくならば図2bのように描かれるべきである。結局はおなじことではあるが、双称をもたない類型の言語を話している人々にとっては図2bは奇妙な図であろうし(すなわち、この図のようには認識していないし)、一方では図2aとすることによって、この図が整合性を持つことも表現できるゆえに、図2bではなく図2aをここでは用いようとしている。

これに関連して図2cについて少し注釈をつけておこう。図2cは双称の複数性は存在するが自称の複数性は存在しないという類型である。先の原則を適用すれば自称

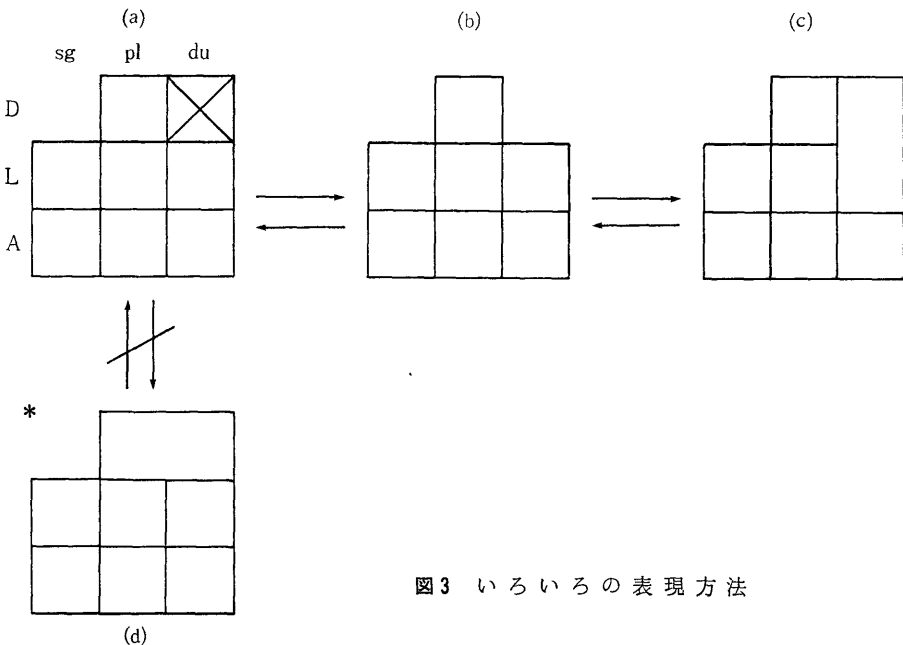


図3 いろいろの表現方法

の複数性は双称の複数性でしか表現できず、図2cは図2bとかきかえられ、そして図2bは図2aとなるように思われるが、私はこの類型を独立したものとしてとりあつかっている。それは前稿でも述べたように、純理論的には自称の複数というものはありません、実際にそのような言語があると考えられるからである。ただし、この類型は安定性を欠き、いずれは図2aまたは図2dに変化してゆく一種の遷移形と考えられる。

このような原則を設けておくのは、図化に際してさまざまな表記が可能であり、なんらかの規則を設けなければ混乱をひきおこすからである。たとえば、図3のa,b,cは同じ類型である。この場合dという類型は後に述べるように存在しないため(\*印は実例として見い出さなかったことを示す)、これらは相同となる。そして図2のa,b,cのいずれでもよいが、先の原則を設けておくと必ずcと描かれることになる。別の少し問題となる例を次にあげておこう。図4aは自称・2数性を欠くときであるが、その場合、双称・2数性の用語がその穴をうめるならばb、もし自称・複数性が用いられるときはcとなる。そしてこの2つの場合は共に存在しえる。このように図化する

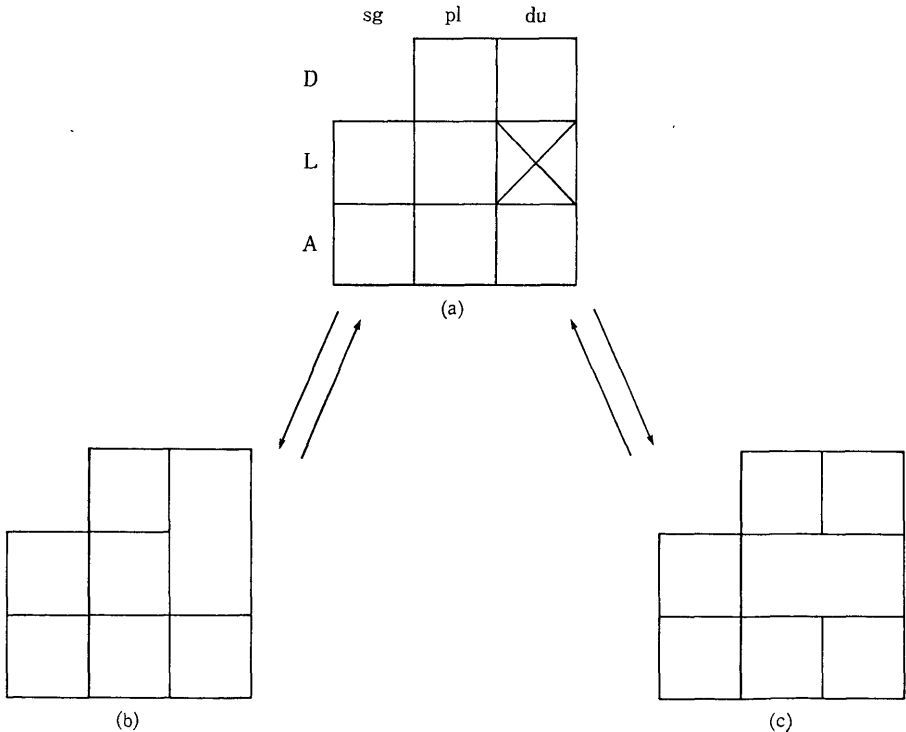


図4 双称をもつ類型の場合

るとbとcとは別の類型であることがはじめて明らかになり、本論ではこれらを区別するということである。ただし、文献にそのような記述がなければそれらの区別は不可能であり、その場合はaをそのまま用いるという実際上のとりあつかいも起こりえる。

2, 3の例をあげて表記法の実際を示したが、その際に先の原則を設けることによって、ある種の混乱を防ぐとともに、より精度の高い類型を抽出することができるようになる。

### 1.3. 人称と数のとりあげ方

言語によって、人称と数のあらわされ方にはさまざまな変異がある。もっとも典型的なもの人称代名詞であり、人称と数は必ずその意味成分として見出すことができる。ところが、複合成語のような場合、住々にして人称と数が分離されている。たとえば、アメリカ・インディアンの言語であるスー (Siouan) 語では、3種の人称(双称, 自称, 対称)を区別しているが、数は動詞の接尾辞の形で出現する。複数は *-pi* (Teton 方言), *-i* (Ponca 方言), *-wi* (Winnebago 方言) などで, Boas と Swanton は、これらが動詞につくことから文全体を複数化するものと考えている [Boas & Swanton 1911: 932]。しかし、文全体の複数化ということは、実のところ、人称代名詞をふくむ主語の複数化であるにすぎない。このような場合、人称と数は分離しているが、その両方をとりあげてひとつのセットと考えて類型化している。こうした例はスー語にかぎらず、たとえばニューギニアのニムボラン (Nimboran) 語のように、もっと複雑な形で人称と数が分離し、動詞に接辞する場合もある [ANCEAUX 1965]。しかし、基本的にはどの言語においても人称と数が見い出せるものである。ただし、後に述べるように数の区別が記述されていない例が2例あった。その類型は理論的にはありえるものであるためとりあげたが、本当に数の区別がないのかどうか、ややあやしいと考えている。

人称や数は、非分離・分離にかかわらず、また代名詞であろうが、分詞、接語、接辞などの形であろうが、そうした区別はここでは一切かかわらず、その概念が表現されているものならば、それらの全てをとりこむという方法を用いている。このように、この類型論は決して、人称代名詞そのものの類型論ではない。人称と数についての類型論なのである。

また、言語によって独立した語と格変化あるいは人称接辞の両方をとるものがみられ、それぞれが異なった類型であることがしばしばみられる。この場合、最大限に分

化したマトリックスをその言語における類型としている。

#### 1.4. 基本的類型と派生的類型

類型化に際して、基本的な類型と派生的な類型に分ける。Ingram は、一般的な類型と非一般的な類型を出現頻度で区別した [INGRAM 1978: 218] が、本稿では類型の整合性あるいはその完結性を基準としている。すなわち、統計的な基準ではなく、理論的な基準を用いようとしている。

「拡散」と「収斂」というものは、いろいろの分野にみられる現象である。それは、ものごとを動的に見るとき、ほとんど常にみられる現象である。このことは本論においても認められる。すなわち、人称と数において、整合的な類型とは収斂した類型であり、非整合的な類型は拡散した類型とみることができる。拡散の方向にはより単純化の方向もあれば複雑化の方向もあろう。しかし、それはここでは問わない。そして、それは整合的な類型から他の整合的な類型に移る中間的な類型、あるいは不安定な類型と私はみている。それ故、整合的な類型を基本的類型 (basic type) とし、非整合的な類型をそれから派生したものとみて派生的類型 (derivative type) と命名した。勿論、派生的類型からも基本的類型が派生するのではあるけれど、特に初源の場合を考えればそのように考えられるが、私は人間の合理的なものに向う傾向を重視し、そうしたものを基本的なものとしてみている。そして、ここでいう合理的なもの、あるいは整合的なものは先に述べたマトリックスの全てが当該の言語の用語で埋められた場合をいう。また、基本的類型を私は安定な類型と述べたが、それは類型論的に安定であるという意味であり、基本的類型も他の要因によって不安定となることもあるし、反対に派生的類型も安定化することもあるということをつけ加えておかなければならないであろう。

このように2つの類型に分けると、共時的な現象に対しては類型論としては基本的類型が中心的な類型になるし、通時的な分析に際しては派生的類型が重要な意味をもってくる。

ところで、非整合的な類型の中で、例外的な類型が存在する。先の図化はすでにいくつかの規則性が内包されている。たとえば、数については、3数性の出現は2数性を前提としており、2数性は単・複の分化を前提にしている。ところが、このような前提に違反する例がまれではあるが存在する。すなわち、2数性が単・複の分化の前に出現するという類型である。それ故、非整合的な類型の中でもこのような類型を特に区別して2数性卓越型 (Duality Dominant Type) とよぶことにする。

表2 基本的類型と派生的類型の出現率

	基本的類型	非整合的類型		合計
		派生的類型	2数性卓越型	
例数	1,059 (93.8%)	68 (6.0%)	2 (0.2%)	1,129
		70 (6.2%)		

さて、基本的類型、派生的類型及び2数性卓越型に分けたが、本論で用いた言語(及び方言)1,129例の内、基本的類型に属するものが1,059例(93.8%)をしめている。派生的類型は68例(6.0%)にすぎない。まして、例外的な2数性卓越型は2例(0.2%)だけである。このようにみてくると、いかに基本的類型が安定的であるかを示しているし、一方で、基本的類型を中心にして通文化的に本論を進めることの妥当性も明確であろう。

なお、Ingram は71の例の中で、一般的類型としてとりあげ、検討の対象としてとりあげたのは49例(69%)<sup>4)</sup>にすぎない[INGRAM 1978: 219]。先に示した基本的類型の93.8%にくらべると、単に統計的に多いという一般的類型をもとにしたIngramの議論はかなり荒っぽいものであり、類型論としては不充分であることを容易に想像させる。

次に基本的類型、派生的類型、2数性卓越型に分けて具体的な類型を記述しておこう。

## 2. 類 型 論

### 2.1. 基本的類型

整合性を持つ類型、すなわち基本的類型と認められるものには、9つの類型があった。理論的に可能なものをさらに列挙することは可能ではあるが、この9つの類型しか認められなかったということにも重要な意味がある。

それはさておき、その9つの類型の実例を図5に示した。形だけをとり出し並びかえると図6のようになる。この図からみると、ただちに3つのグループに分けられることに気付かれるであろう。すなわち、「双称をもたない類型」と「双称を持つ類型」

4) Ingram は71%と記しているが、 $49/71=0.6901$ となり、69%にしかならない。単純な計算ミスかもしれない。

	(sg/pl)		pl		du		tr
L	jak		no na		ia gea guadai		mo nimo nimoto nimoibi
A	u		o ca		ga aea aeadai		ro nigo nigoto nigoibi

ワタム(Watam)語 アスマット(Asmat)語 マギ(Magi)語      キワイ(Kiwaian)語(パプア系言語)  
 (パプア系言語)      (パプア系言語)      (パプア系言語)

D		hita			gadaed	gadow		er	entaro	ensUl
L	au	hami		gaeg	gamaed	gamow		ni	genem	genemro genemsUl
A	ho	hamu		guur	gimead	gimeaw		nek	gami	gamuro gamsUl

トバ・バタック(Toba-Batak)語 ヤップ(Yapuse)語      アムブリン(Ambrym)語  
 (オーストロネシア語族)      (オーストロネシア語族)      (オーストロネシア語族)

ni-gi	ni-gu	ju-dyi	ju-de	ju-dele
ni-ga	ni-go	ju	ju-jo	ju-jole
ni-m	ni-mu	ju-mu	ju-mi	ju-mile

マロ(Malo)語      リーフ(Reefs)語  
 (パプア系言語)      (パプア系言語)

図5 基本的類型の例

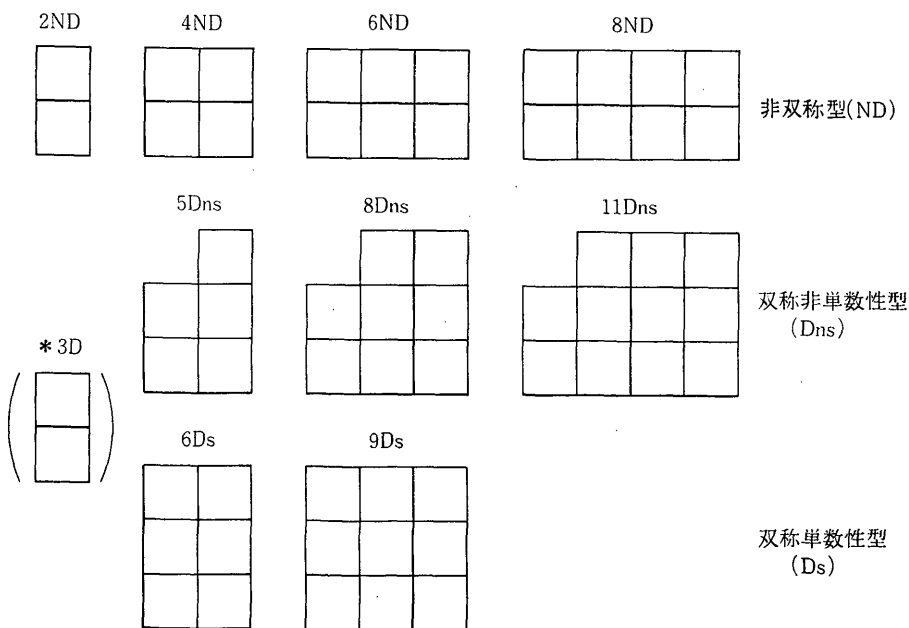


図6 9つの基本的類型

の対立がまずあり、さらに後者は「双称に単数性をもたない類型」と「双称に単数性を持つ類型」に分けられ、合計3つのグループがあることになる。これらのグループを命名するならば、「双称をもたない類型」は非双称型 (Non-Dialoguent Person Type: 略して ND-Type), 「双称を持つ類型」は双称型 (Dialoguent Type: D-Type), そして後者は、双称非単数性型 (Non-Singularity Dialoguent Person Type: Dns-Type), 双称単数性型 (Singularity Dialoguent Person Type: Ds-Type) とでもすればよいであろう。そして個々の類型を区別するには、構成するマトリックスの数を加える。たとえば、非双称型の2分型は2ND型、4分型は4ND型というように命名する。

さて、先の図6を縦にみても、2ND型の列は単・複の区別がなく、4ND型の列では単・複の区別のみ、6ND型の列では単・複に2数性が加わり、8ND型の列ではさらに3数性が加わった類型となっている。そして、単・複の区別のない列には、Dns型とDs型に対応する類型を欠いている。またDs型には3数性を持つ類型を欠いている。2ND型は先にも少しふれたが、その存在がややあやしい類型ではあるが、それを認めるとするならば、これに対応するDns型・Ds型の単・複の区別のない類型は\*3D型とも呼ぶべきものが想定される (\*印は実例としては見い出さなかったことを示す)。現在のところ、この類型を見い出してはいないが、充分にありうる類型である。今ひとつの、Ds型の3数性を持つ類型(\*12Ds型とよぶべきもの)もあっておかしくはない。しかし、6Ds型は63例と決して多くはない類型であり、11Ds型は非常に稀な類型(3例)である。そのため、理論的にはありえても、実際上は、9Ds型以上の区別、すなわちDs型では3数性の区別はなされないであろう。むしろ、出現頻度からみればDs型の3数性を持つ類型よりはDns型の4数性を持つ類型(\*14Dns型)の方が可能性が高いであろう。実際、マーシャル(Marshallese)語には4数、5数を持つ形が存在する<sup>5)</sup> [BENDER 1969: 5]。しかし、これらはマーシャル語においては義務的なものではなく、4数・5数の接尾辞はつけることがあるといった性質のものである。人間が会話場面で操作できる人の数というものは、複数という不定数を除くと3あたりに限界があるのである。

ところで、表3に示したごとく、2ND型や8ND型、9Ds型は稀な類型といってよい。6Ds型もそれほど多い類型ではない。一方で4ND型、5Dns型がもっとも多い類型であり、それについて8Dns型、6ND型が続いている。また、オーストロネシア語族が多くとりこまれていることを念願において、非双称型(ND型)と双称型(D型)とをくらべてみると、だいたいにおいて2分するとみてよいであろう。

5) マーシャル語では4数、5数だけでなく、2数や3数も optionalなものである。

表3 基本的類型の出現頻度

		non-diff.	sg/pl	sg/pl/du	sg/pl/du/tri	total
ND		2	391	90	1	484
D	Dns	0	312	179	18	509
	Ds		63	3	0	66
total		2	766	272	19	1059

数については、単・複の区別をするものが基本的類型の72%を示し圧倒的に多い。しかし、2数性の加わる類型も26.1%で決して少なくない。特に、その中では8Dns型が6ND型に比べれば2倍近い出現頻度を持つことは注目しておいてよいであろう。さらに3数性の加わった類型は稀ではあるが、ここでは11Dns型が圧倒的に多い点もきわだった特徴である。

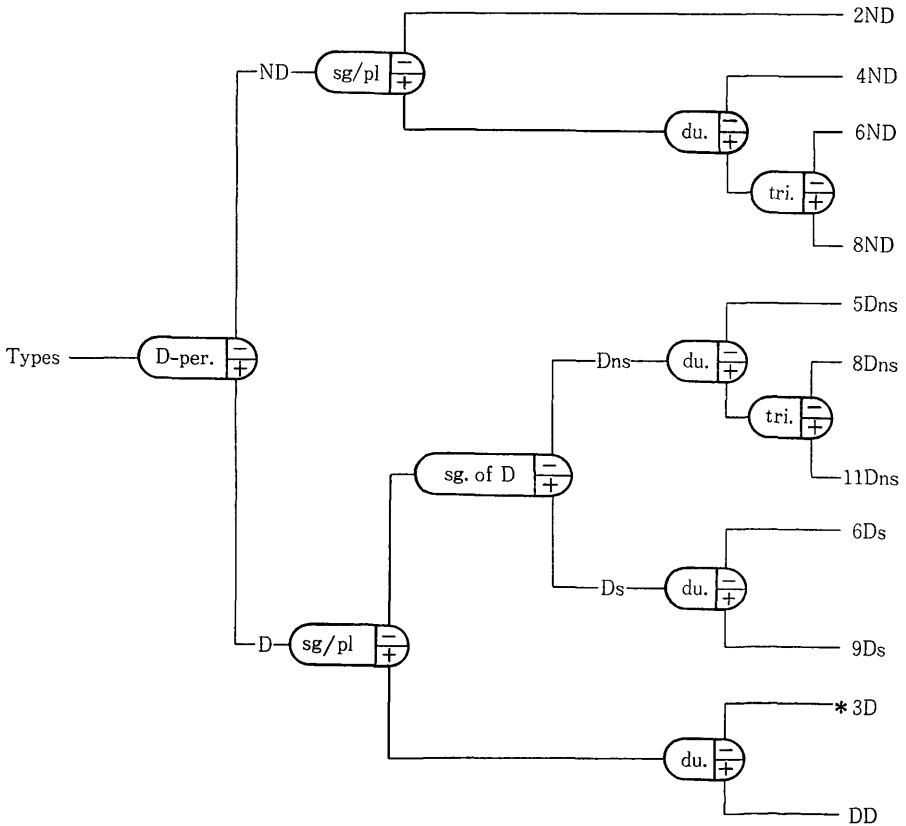


図7 類型の分類



さてこれら9つの類型を先の議論をふまえて、系統的に分類すると図7のようになる。まず、双称を持つか持たないかによって非双称型 (ND型) と双称型 (D型) に分けられる。ND型は単・複の区別がない 2ND型, 単・複の区別がある 4ND型, さらに2数性が加わった 6ND型, そして3数性がさらに加わった 8ND型に分けられる。D型はまず単・複の区別があるかどうかによって2つに分けられる。単・複の区別のあるものは、さらに双称に単数性を持たないものと持つものとに分けられる。前者は双称非単数性型 (Dns型), 後者は双称単数性型 (Ds型) である。Dns型は単・複だけの区別しかしない 5Dns型, それに2数性が加わった 8Dns型, さらに3数性が加わった 11Dns型に分けられる。一方, Ds型は単・複のみを区別する 6Ds型と, 2数性をも区別する 9Ds型に分けられる。D型で単・複の区別のない類型に DD-type と図中に記したものをに入れておいた。これは先に述べた例外的な類型である2数性卓越型 (Duality Dominat Type) のことである。この2数性卓越型は常に双称を持つ。そのため先の例にならえば, Dialoguent Person Duality Dominat Type ともいうべきものである。そこで双称と2数性を組み合わせて DD-type と略してある。これは, 2数性はすでに区別しているにもかかわらず, 単・複の区別をしていないという類型である。先の 2ND型に対応する \*3D型をもし含めるならば, それも単・複の区別のない類型であり, かつ2数性をも持たない類型となり, 図7のような位置に置かれることになる。

## 2.2. 派生的類型

2数性卓越型を除いた不整合な類型は全てこの中に含まれる。それを派生的類型

	sg	pl
L	ʔar khpom	jəəŋ
A	ʔaəŋ	

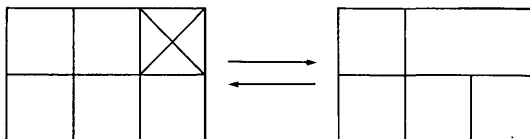
クメール語 (オストロネシア語族)

図8 3ND-A型

となづけたが, どの基本的類型から派生したものであるかはここでは問わないことにする。それは, 次稿の中心の課題となるものである。本稿では, 単にどのようなものが認められたかを記述しておくことにする。

まず派生的類型も先の分類にならって, ND型とD型に分けることにしよう。そして, 暫定的にそれぞれの基本的類型に近いもの, すなわち, ここでは基本的類型からなんら

	sg	pl	du
L	'anā	naḥnu	X
(m)	'anta	'antum(ū)	'antumā
(f)	'anti	'antanna	



アラビヤ語 (アフロ・アジア語族)

図9 5ND-L型

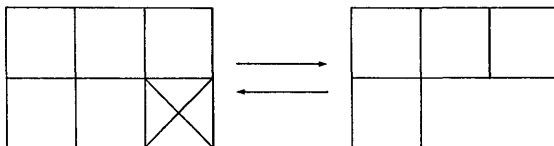
かの用語が脱落したものとしてまとめ、それぞれごとに記述しておく。

### 2.2.1. 派生的 ND 型

**派生的 4ND 型** この類型に含まれる派生的類型はひとつしか見つかっていない。英語にみられるように、対称において単・複の区別のない類型である。それは図8のような形で書き表わされるであろう。これを 3ND-A 型という名をあてておく。3はいくつの用語を持つかを示し、Aは Audient person の略であり、その位置に変異のあることを示している。

**派生的 6ND 型** この類型には3つの変異がある。この変異はいずれも2数性の列においておこる。まず、アラビヤ語に見られるように自称に2数性を欠くものがある。それは図9のように図化される。図の中で斜線を入れたマス目は用語が欠落して

	sg	pl	du
L	ḡayu	ḡaḡdi	ḡali
A	ḡundu	ḡunduiba	X



イディン (Yidin) 語 (アーストラリア系言語)

図10 5ND-A型

	sg	pl	du
L	ŋgo	ai	nga
A	mɔ	ne	

ヌビア (Nubia) 語 (パプア系言語)

図11 5ND-du 型

いることを示している。この類型を 5ND-L 型となづけておく。L は Loquent person の意味である。

2 番目の類型は、対称に 2 数性を欠くものである。図10のように図化され、5ND-A 型となづける。

3 番目の類型は、2 数性の列において自称と対称の区別がなされない、かなり特殊な類型である。図11のように図化され、5ND-du 型となづけて

ておく (du: duality の略)。

### 2.2.2. 派生的 Dns 型

派生的 5Dns 型 この類型に含まれるものは 4 つある。ひとつは派生的 4ND 型でみられたと同様に対称に単・複の区別のない類型である。これを先の例にならって記すと図12 a のようであり 4Dns-A 型となづける。2 番目は自称において単・複の区別がない類型であり、図12 b のように図化され、4Dns-L 型と名づけられる。3 番目は、自称の単数性と双称の複数性が中和した場合であり、図的にはやや変形ではあるが図13のように図化しておく。そして、これを 4NDns-O<sup>6)</sup> 型となづけておく。

(a)

	sg	pl
D		ia
L	rau	rai
A	oi	

4Dns-A型  
メケオ (Mekeo) 語  
(オーストロネシア語族)

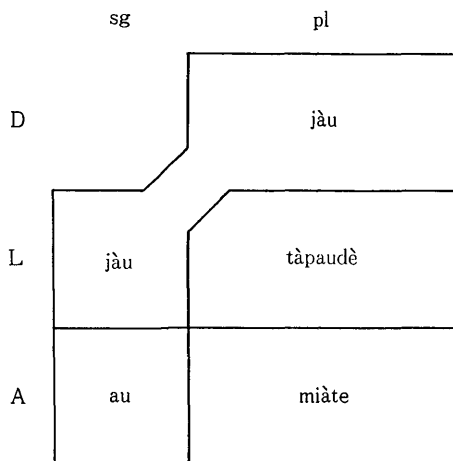
(b)

		kani
	ka	
	inkhi, 'nkhi	inkhi-ni

4Dns-L型  
ヤカ (Yakha) 語  
(シナ・チベット語族)

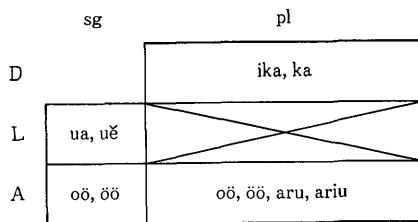
図12 4Dns-A 型と 4Dns-型

残るひとつは、自称の複数性を欠くものであり、4Dns-pl 型と名づける類形である。この類型は、往々にして4ND 型と区別することが難しい。何故ならば、図14のように双称の複数性が自称の複数性に変換され、容易に4ND 型となり安定するからである。しかし、すでに表記法の項で述べたように、理論的には存在しえる類型であり、実際上の適応としては、自称の複数性の用語を欠き、明らかに双称・複数性と他の資料から同定できる用語と認められるものが存在するときはこの類型に含めて



ビントウニ (Bintuni) 語  
(オーストロネシア語族)

図13 4Dns-O 型



エンガノ (Enggano) 語(オーストロネシア語族)

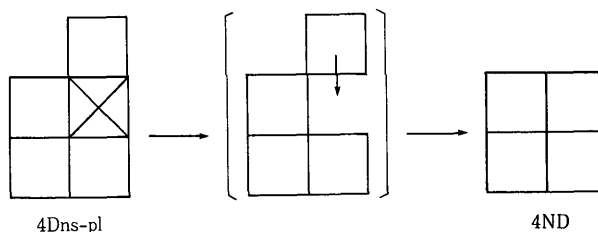


図14 4Dns-pl 型と 4ND 型

6) 派生的類型の命名は基本的類型のそれに準ずる。そしてダッシュのあとの略号は次のような構成になっている。大文字は人称を、小文字は数を示す。すなわち、大文字はその人称において単数性あるいは2数性と複数性との中和を意味し、図において横の変異、小文字はその数において双称と自称との中和がおこることを意味し、図において縦の変異を示している。ただし、後者においては、1例(5ND -du 型)のみは自称と対称の間で中和がおこる。人称についての略号は次のようである。

**D:** Dialoguent person, **L:** Loquent person, **A:** Audient person, ただし **O:** oblique fusion (**D** と **L** との中和), **O':** irregular oblique fusion (**L** と **A** の中和) を示す。数については, **pl:** plurality, **du:** duality, **tr:** triality である。

ある。実例としてはエンガノ (Enggano) 語のみしか見つかっていないが、4ND型にふくめられているものの中には歴史的にさかのぼれば 4Dns-pl 型と認められるものが少なからずあると思われる。そういう点では、独立させておくことにも意味があり、4Dns-pl 型は 4ND 型と 5Dns 型の中間的な、あるいは遷移的な類型であると考えている。

派生的 8Dns 型 派生的類型の多くの種類はこの中に含まれる。それは構造的に多くの派生的類型が可能であることがひとつの理由である。ただし、この点だけであればむしろ 11Dns 型の方がより可能性は高いと考えられるが、実際には 11Dns 型の変異は少ない。それは 11Dns 型自体の出現率が 8Dns 型の10分の1というその低さに相関していると考えてよいであろう。また一方で、派生的 8Dns 型は暫定的に 8Dns 型を基本的類型とみていることに原因があるのかもしれない。他の基本的類型から派生したとも十分に考えられるからである。しかし、ここではむしろどのような類型が存在しているのかが重要であるため、その点は次稿にゆずるとして、暫定的に 8Dns 型の派生的類型としてとりあつかっておく。なお、多くの類型が認められるため、多少理論的に検討して派生的類型のいくつかの性質、およびそれらの類型の図化の問題点についても考察しておくことにする。

まず、基本的類型 8Dns 型からひとつの用語が脱落する場合を考えてみよう。はじめに単数性の用語の脱落から検討してみると、可能性のある類型は図15の3つである。ところがこの3つとも実例が見つからない。ただし、次に述べる2つの用語の脱落した例の内、図16のようなものがある。これらを見ると、\*7Dns-O 型(図15 a)はあってもおかしくない。ところが、他の図の b, c は実在しづらいのではないであろうか。それは2数性の用語のあるとき、同じ人称において、単数性と非単数性の対立が基本であり、非単数性の中での2数性と複数性との中和はありえても、単数性と2数性あるいは複数性との中和の可能性はほとんどないということによるのであろう。

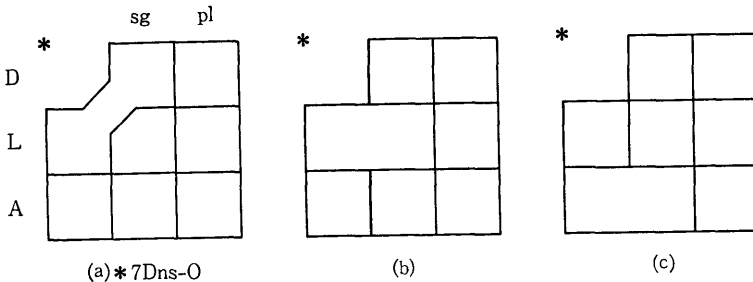


図15 単数性の用語の中和による派生的 8Dns 型の可能性

	sg	pl	du
D		jene	atuwa
L	jene	ame	
A	awa	mija	miluwa

6Dns-O-du型

バンロール(Banlol)語(オーストロネシア語族)

	sg	pl	du
D		tet	jelipap
L	tet	mauteti	<del>          </del>
A	nim	nanajun	nawut ali

6Dns-O-L/du型

モサナ(Mosana)語(オーストロネシア語族)

図16 双称・複数性と自称・単数性の中和した類型

このことは、先の派生的 6ND 型においても貫かれている規則性である。ただし、派生的 8Dns 型では双称は自称と中和をおこす可能性をもっており、図15 aのような類型が可能となる。

次に単数性の用語以外の用語がひとつ脱落する場合を考えてみると図17のようになる。まず、双称の複数性が脱落したときは2つの場合(1)が考えられる。すなわち、結果として複数性と2数性が中和する場合(イ)と、複数性において双称と自称が中和する場合(ロ)が考えられる。ところが、前者の例は認められなかった。同様に、それぞれの場合を検討してみると、4つの類型が残るだけであった。なお、図中の a は双称と自称の中和、b は2数性と複数性の中和、c は自称と対称の中和が起こったことを示したものである。そして、\*印は実例の見い出せなかったものを示している。なお、図18に派生的 8Dns 型の例を示しておいた。

この図をみるとある規則性のあることが読みとれる。すなわち、双称・自称の中和

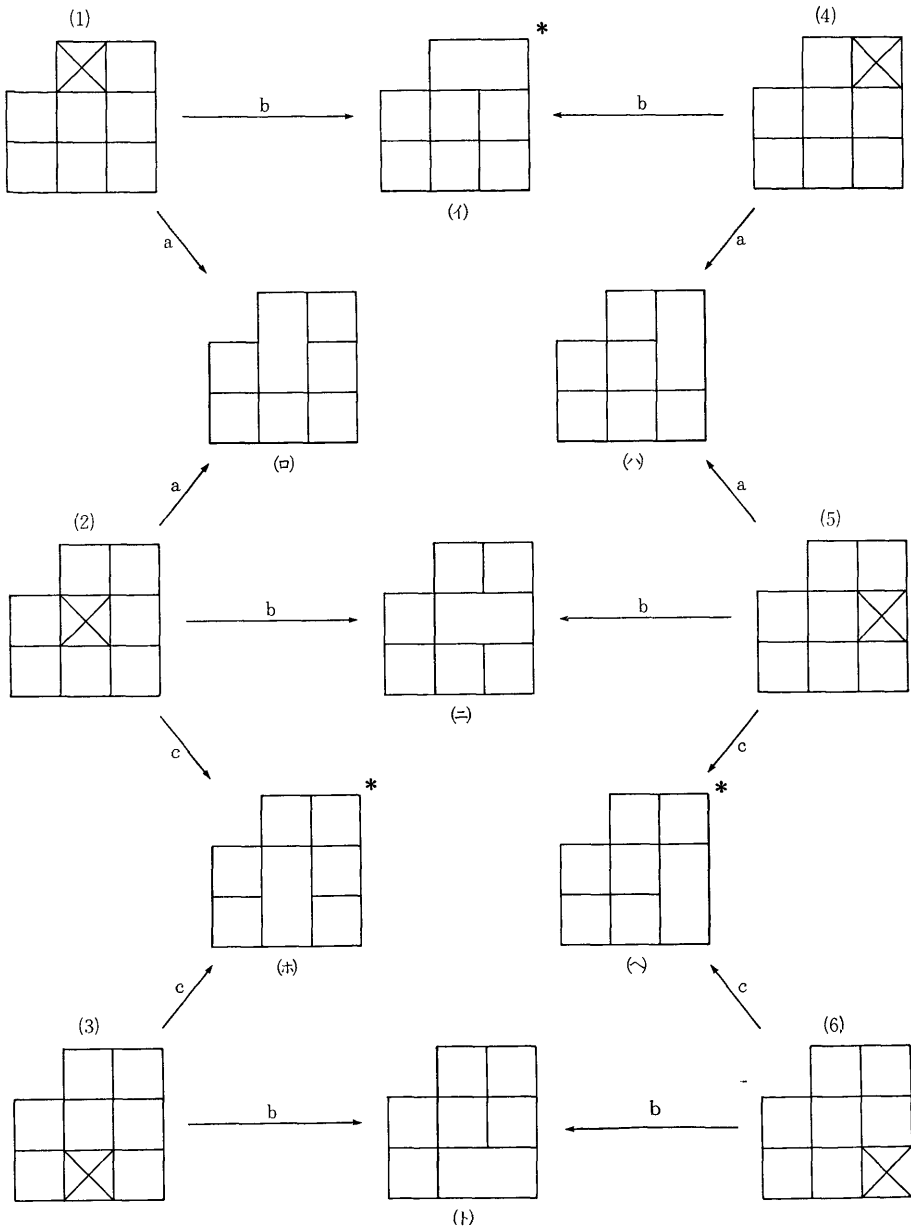


図17 7Dns 型の 8Dns 型からの派生

は容易に起こる（ロ、ハ）が、自称・対称の中和する例は見られない（ホ、ヘ）（勿論、双称・対称の中和も認められない）。このことは、双称・自称の組の異なりと自称・対称の組との異なりとに差があることを示している。たとえば、双称と自称との壁は薄くてすぐにとりはずしができるが、自称と対称との壁はとりはずし

	sg	pl	du
D		anjula	ajjila
L	aŋi		adjila
A	aŋi	argul	ambul

7Dns-pl型  
ワラムンガ(Waramunga)語  
(オーストラリア系言語)

		ereita	elaka
	ara (arao)	ela (elao)	
	a(ao)	e(eo)	euka, auka

7Dns-du型  
トアリピ(Toaripi)語  
(パプア系言語)

		ngamp	ngal
	ngay	ngan	
	nint	niiy	nip

7Dns-L型  
ウィク・ムンカン(Wik-Munkan)語  
(オーストラリア系言語)

		ŋinja	ŋir
	ŋaia	ŋila	X
	njängi	mula	nur

7Dns-du/L型  
ムンガライ(Mungarai)語  
(オーストラリア系言語)

		pian	pá
	á	ngian	má
	eh	pó	

7Dns-A型  
セダング(Sedang)語  
(オーストロ・アジア語族)

図18 派生的 8Dns 型の例

かない固い壁のようなものである。今ひとつは、自称・対称では2数性と複数性の中和がおこりえるが、双称においてはそのような中和はおこりえないということである。このことは双称における2数性・複数性は強い独立性を持つことを示唆している。

ところで、ここでは(1)から(6)までの脱落の場合を考えたが、(4)から(6)までの2数性



の脱落は派生的 6ND 型ですでにみたように容易に推測することができる。しかし、(1)から(3)の複数性の脱落については、もう少し検討を加えておいた方がよいであろう。

(2)と(3)において、複数性の用語が脱落して2数性・複数性が中和する(ニ、ト)ということは考えにくいことである。何故ならば、2数性の安定性はさほど高くないのに対して、複数性はより基本的でより安定的なものである。そのため、2数性と複数性の中和というときは、まずほとんどの場合2数性の脱落と考えてよい。

さて、以上述べたことを考慮して、図17を簡略化すると図19ようになる。この図

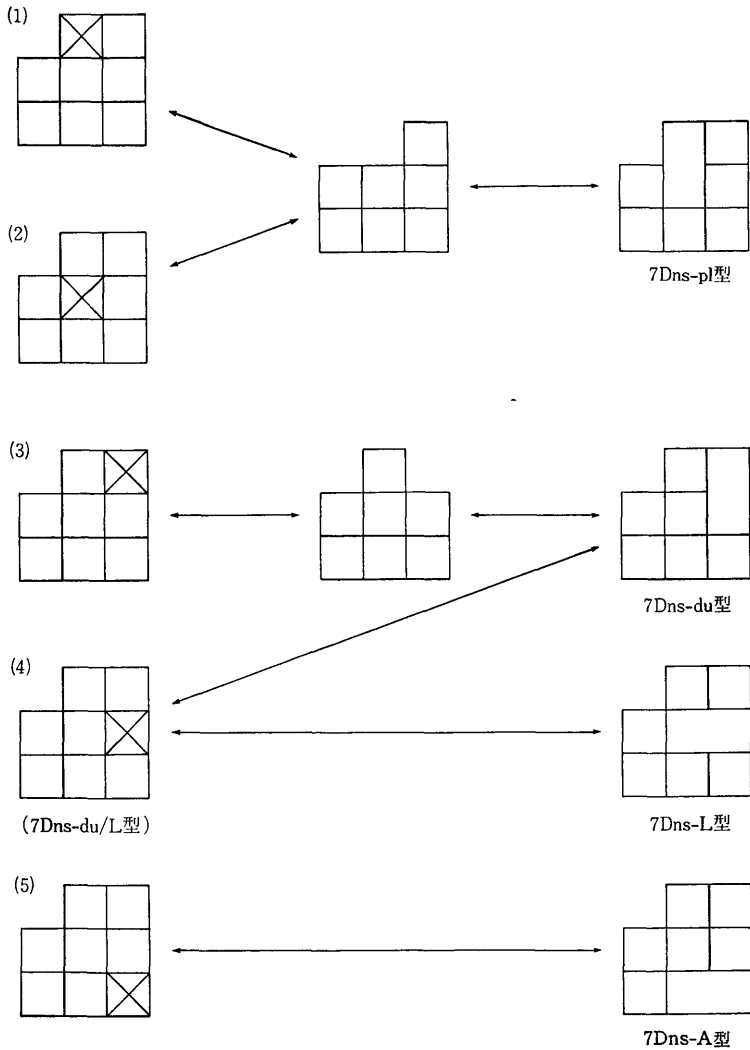


図19 7Dns 型のまとめ

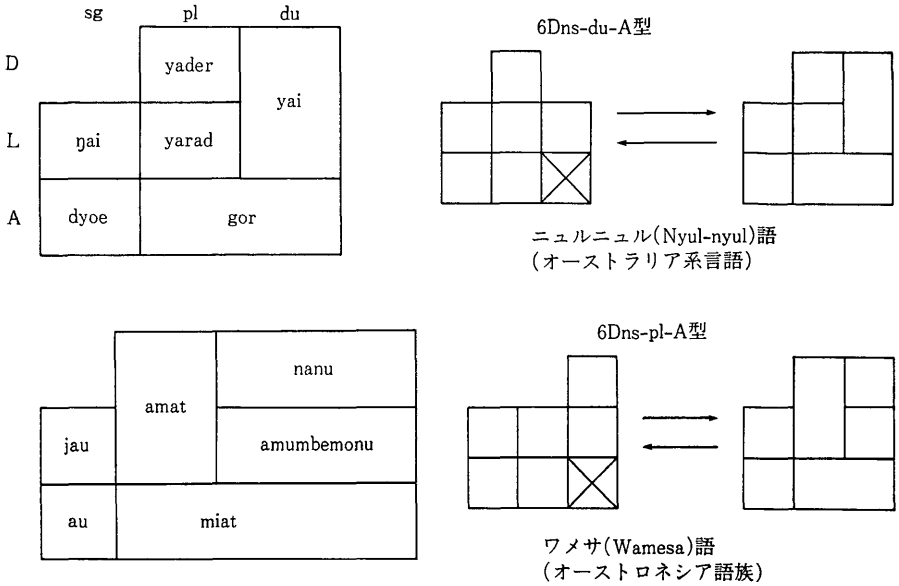


図20 6Dns-du-A 型と 6Dns-pl-A 型

の左側は用語の欠落した形、右側はその中和した形を示している。類型化するに際して、この両者が1対1対応しているならば、それぞれの形はシノニムとしてあつかうことができる。ところが図19にみられるように1対1対応していない部分がある。それは(4)の場合であるが、資料からそれぞれの類型に同定する過程で、単に自称・2数性がなし、あるいは不明と記されているものが出てくる。このとき、双称・自称の中和された形(7Dns-du型)になるのか、2数性・複数性が中和された形(7Dns-L型)になるのか不明である。このときは、自称・2数性に斜線を入れる形でしか表記できないことになる。類型としてはあいまいさを残すが、この形も残しておこうと思う。そして、これを7Dns-du型と7Dns-L型のどちらかという形で7Dns-du/L型としておくことにする。それ以外はそれぞれの形において↔印でつながれている形はシ

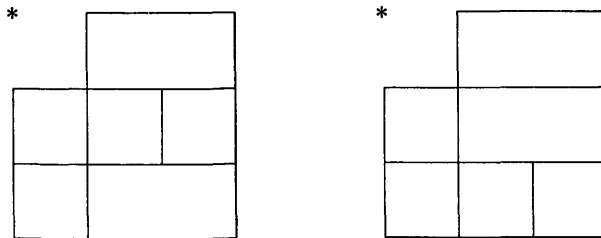


図21 6Dns 型での可能性のある類型

	sg	du	
D		jéne	amua
L	jéne	amne	awa
A	awa	mija	mulua

6Dns-O-O'型  
 バタンタ(Batanta)語  
 (オーストロネシア語族)  
 図22 例外的な類型

ノニムである。

さて、8Dns型から2つの用語が脱落したものに5つの類型を認めた。それらの内の4つは、先に示した図16の6Dns-O-du型、6Dns-O-L/du型、さらに図20に示す6Dns-du-A型、6Dns-pl-A型である。念のために、先の図17のような試行実験を行ってみると、図21のような形が考えられる。しかし、これらはいずれも双称の2数性の独立性の高さを犯している点において存在しにくいのであろう。

である。

今ひとつは、実に奇妙な類型である。ニューギニアにみられるオーストロネシア語族の1つであるバタンタ(Batanta)語の場合である。Cowanによると、この言語では双称・複数性と自称・単数性が同じ用語、対称・単数性と自称・2数性が同じ用語で用いられる[Cowan 1953: 39]という。この図化は、これまでの方法では、どうしてもうまくいかない。前者はすでに述べたごとく、ありうる現象であるが、後者はほとんど了解不能である。その不能性は図22中で矢印で示すしかない表記法になっている。ここではCowanに従って類型化しておくが、私はCowanの資料が誤っているのではないかと思っている。

派生的11Dns型 可能性としては実に多くの派生的類型が考えられるが、この類型に含まれるものは2例だけあった。それらは図23の2つの類型である。この内、9Dns-tr-pl型は先の7Dns-pl型に双称・自称の区別のない3数性が加わった形であり、充分にありうる類型である。一方、9Dns-D-A型は奇妙に脱落した形をとり、疑問のある類型である。

南部バントゥ型 派生的Dns型に含まれるものであるが、他と異なった特異性があるため別に扱っておく。南部バントゥ語には、普通の人称代名詞の他に量的代名詞が存在する。その基本はsimple/inclusive、あるいはonly/allの対立である。そして前者は単・複の両方に組みあわせられ、「私ひとり」「私達だけ」といった意味になる。後者は複数形のみと組み合わせられ、「私達みんな」といった意味になり、1人称包括的、すなわち双称の複数となる。これだけであるならば、4ND型から5Dns型に変

	sg	pl	du	tr
D		ire	ialu	X
L	inau	komai	komalu	komaitelu
A	keiko	kami	kamelu	X

9Dns-D-A型バアマ(Paama)語(オーストロネシア語族)

			negi	+nguneme
		ngangu		
	ngai		ngangunindia	
	njinji	nangu	nangunindia	+nguneme

+ : limited plural(本来は3数)

9Dns-tr-pl型ガラム(Garama)語(オーストラリア系言語)

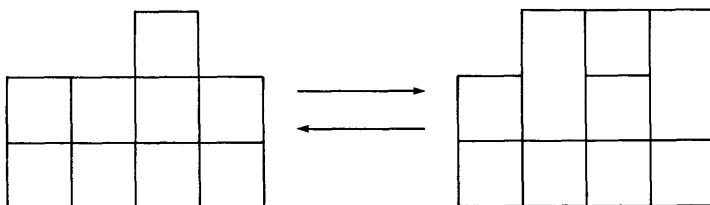


図23 派生的 11Dns 型

表4 Tswana 語の量的代名詞

	absolute	only	all	two	three	---
D·sg	nna	nôsi	—	—	—	—
D·pl	rona	rôsi	rôtlhé	rôôbabêdi	rôôbararo	---
A·sg	wêna	wêsi	—	—	—	—
A·pl	lona	lôsi	lôtlhé	lôôbabêdi	lôôbararo	---

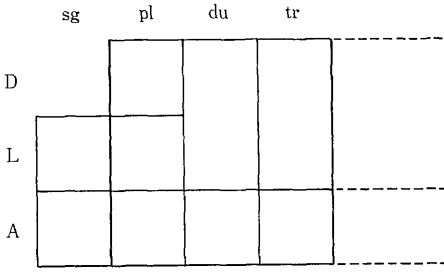


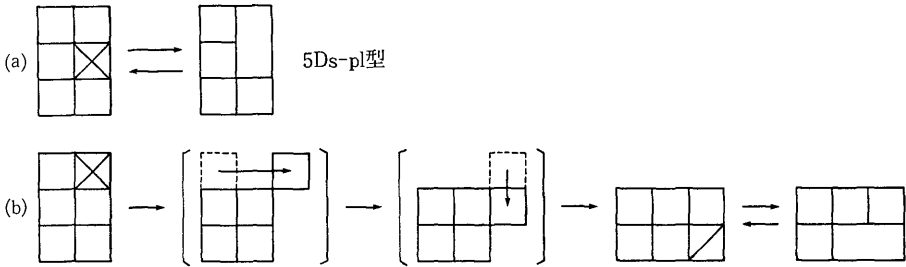
図24 Tswana 語の場合の図化

ったと考えればよいのであるが、さらに“all three”, “all four”などの接辞も存在し、その数にはどうやら限定がないようである。それを図化すると図24のようになる。この数が限定されないところが南部バントゥ型の特異な点である。ただし、これらが全て option であるのならば

4ND 型、あるいは“all”のみが義務的であるならば 5Dns 型となるが、その点は明確ではない。

2.2.3. 派生的 Ds 型

派生的 6Ds 型 この類型はひとつだけが知られている。双称・自称が複数性において中和した類型である。これは自称の複数性を欠いたためにおこる類型であり、5Ds-pl 型と命名され、4Dns-pl 型に対応する類型で、ともに自称の複数性を欠く類型である。一方、双称の複数性を欠く場合は、他の類型、5ND-A 型となると考えられ



5Ds-pl型

	sg	pl
D	uŋki'ye	uŋki'yepi
L	mi'ye	
A	ni'ye	ni'yepi

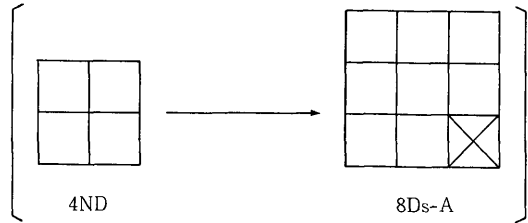
ラコタ(Lakota)語  
(スー大語族)

図25 派生的 6Ds 型とその例

	sg	pl
L	me	beše
A	(g)we	be(g)we
Ab	(d)ye	bo(ni)

		du	
D	beno	bena	benonei
L	me	beši-ne, beše	beši-nei
A	(g)we	bo(g)we	X
Ab	(d)ye	bo(ni)	X

図26 ケレ (Kele) 語 | 合成人称代名詞 (8Ds-A 型)



る (図25-b)。すなわち、双称の2数性は単独では存在できなくなると想像され、自称の2数性となってより安定な形となると思われる。

派生的 9Ds 型 この類型に含まれるものはバントゥ諸語のケレ (Kele) 語の場合だけである。この類型、8Ds-A 型はもともと 4ND 型であったものが、図26のように、4ND 型をもとにして合成されたものである [FORCHHEIMER 1951: 99-100]。そういう点ではやや特殊な類型である。

さて、このような派生的類型の出現頻度をみってみると (表5)、Dns 型の派生型がもっとも多く49例、約70%以上を示している。基本的類型からの崩れはここに集中している。もう少し細かくみってみると、7Dns 型が23例みられ全体の34%ほどを示しており、変異の中核はここにある。しかもそれは変異の例数だけでなく、変異の幅においても大きい。また、派生的 Dns 型以外では 5ND 型に12例 (約18%) がみられ、ここにも変異の例がやや集中している。一方で、派生的 Ds 型は非常にまれなものである。それは Ds 型自体があまり多くないこととも関連しているであろう。

見方を変えて、どの部分において変異がみられるかをみると (表6)、対称において単・複あるいは2数性・複数性ととの区別のないものが24例みられもっとも多い。それは自称における単・複あるいは2数性・複数性の区別のない例 (11例) の2倍以上

表5 派生的類型の出現頻度

派生的 ND 型		派生的 Dns 型			派生的 Ds 型				
3ND-A	4	4Dns-A	6	13	5Ds-pl	6			
		4Dns-L	2						
		4Dns-O	4						
		4Dns-pl	1						
	6Dns-A-du	5	6Dns-A-du	1			5		
			6Dns-A-pl	1					
			6Dns-O-du	1					
			6Dns-O-L	1					
			6Dns-O-O'	1					
5ND-L	6	12	7Dns-A	5	8Ds-A	1			
5ND-A	5		7Dns-L	1					
5ND-du	1		7Dns-du	8			23		
			7Dns-pl	7					
			7Dns-du/L	2					
			9Dns-D-A	1			2		
			9Dns-tr-ol	1					
			S. Bantu type				6		
16			49				3		

である。そして、双称における数の変異は1例みられるが、これは特殊な例でまずはおこらない現象と考えてよいであろう。一方、人称における変異はひとつの例外を除いて(5ND-du型)、全て双称と自称の間で中和がおこる。双称・自称における2数性で区別のない例が11例、複数性における例は12例で合計23例となる。それは対称の数における変異とほぼ同じ頻度で起こっている。対称は数の変異、双称・自称ではむしろ人称の変異が中心となっていると考えてよいであろう。さらに、双称・複数性と自称・単数性との中和は7例みられ、他の場合と比較してもそれほど少ない数ではな

表6 変異の様式の出現頻度

数における変異		人称における変異	
複数性の位置	12	Dの位置	1
2数性の位置	12	Lの位置	11
3数性の位置	1	Aの位置	24
		Oの位置	7
		O'の位置	1
25		44	

い。そして、そのほとんどはニューギニアに集中していることも注目に値する。

### 2.3. 2数性卓越型

この類型に含まれるものは2例見つかっている。チベット・ビルマ諸語のチトゥクリ (Chitkhuli) 語とパプア系言語のサルト・ユイ (Salt-Yui) 語の2例である。

チトゥクリ語では2つの可能性がある [BAILEY 1975 (1915): 80]。すなわち、自称・複数性の *ni* を認めるかどうかにかかっている [図27の(A)(B)]。(B)の場合のように自称・単数性と双称・複数性が同じ語彙であることはありうることであるが、それは双称・複数性が自称・単数性に転用される場合で、その逆は考えにくい。他の近縁の言語をみても、*ga* は常に自称・単数性である。チトゥクリ語が古い形を残している、もともと *ga* は双称・複数性という可能性もないわけではないが、低地カナウリ (Lower Kanauri) 語に双称・複数性がないことをかんがみるとそれも考えにくい。すると、むしろ *ni* を除いた (A) の方がチトゥクリ語としては適切であると思われる。そして、その (A) では2数性は区別されているが、単・複の区別はなされていない2数性卓越型となる。

	sg/pl	du
D		niniñ
L	gā	nishi
A	kan	

チトゥクリ語(A)

	sg	pl	du
		gā	niniñ
	gā	(ni?)	nishi
	kan		

チトゥクリ語(B)

		kashū
ga, gū	kishū	nisī
ka'	kī	kisi

低地カナウリ (Lower Kanauri) 語

	kishaṅa	kashaṅ
ga	niḡa	nishi
ka	kina	kishi

標準カナウリ (Standard Kanauri) 語

図27 チトゥクリ (Chitkhuli) 語および近縁の言語の人称代名詞



Forchheimer によれば, Maspero はこれらの proto-form を復元し, 単・複の区別なしで, 自称には \*na, 対称には \*ka (語彙についた \*印は再構成形を示している) をあてている。そして, 後に自称・複数性には \*ni が, 対称の複数性には \*ki が出現した [FORCHHEIMER 1951: 85] としている。この考え方をうけいれるならば, チトゥクリ語は自称・複数性の ni が定着しつつあり, 一方で \*na から派生した ga は自称・単数性に限定されつつある過渡的なものと考えられる。しかし, いずれにしても 2 数性の方が先に成立しているようにみうけられる。

サルト・ユイ語では人称代名詞としては, 数に区別のない 2ND 型である [IRWIN 1974: 32]。本論が人称代名詞の類型論であるならば, サルト・ユイ語は 2ND 型に含まれるものである。しかし, この言語では, 動詞中の形態素のひとつとして, subject marker が存在し, 図28のような図式をとる [IRWIN 1974: 14-15]。ここでは自称においては単数性がすでに分化しているが, もう一方の複数性はなお分化していない。{-min} という形態素は単数でも複数でも, どちらでもかまわない——むしろ自称であることのみを示している。一方, 人称の区別はないが, 2 数性を示す形態素はすでに出現している。そして, この 2 数性の形態素は双称・自称の 2 数性の marker として特定される傾向にある。この marker は, 本来的には双称の marker であったのかもしれない可能性を考えさせる。

このように, サルト・ユイ語においても単・複の区別は明確でなく, 一方で 2 数性が出現しており, 2 数性卓越型とみることができる。

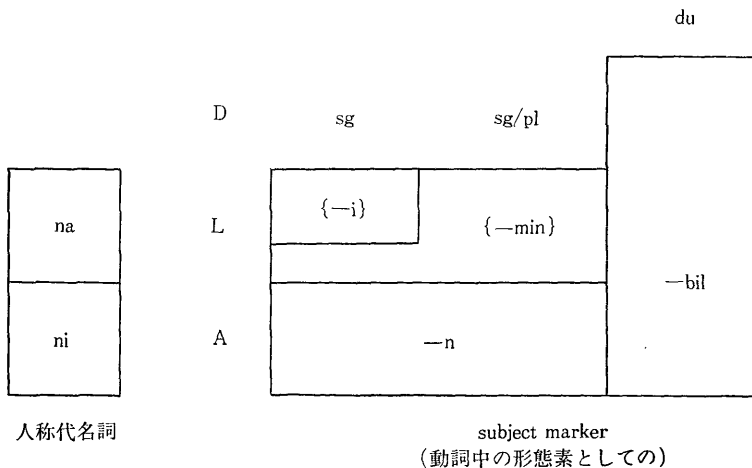


図28 サルト・ユイ (Salt-Yui) 語の人称代名詞と subject marker

### 3. 分 布 論

まず、地域を4つにわけ、さらにその中でそれぞれの言語グループにわけて、類型論の項で述べた類型の分布を検討する。ついで、それらの全体を通しての検討を行なう。

#### 3.1. 各 論

##### 3.1.1. オセアニア

##### 3.1.1.1. オーストロネシア語族<sup>7)8)</sup> (Austronesian)

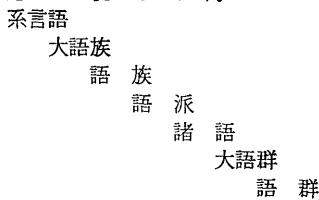
オーストロネシア語族内の言語の分類は大筋において Voegelin & Voegelin [1977] にしたがっているが、部分的には地理的な分類を採用している。用いた分類は Appendix II に示してある。

オーストロネシア語族の言語(および方言) 347例の個々の言語がどのような類型に属するかは Appendix I, および II をみていただきたい。個々の例を要約したものが表7である。

オーストロネシア語族全体としてみると、5Dns型が192例と55%以上をしめる。反対に非双称型(ND型)は4NDと2NDをあわせても4%にもみまない。オーストロネシア語族は双称型の典型的なものと考えてもよいであろう。

オーストロネシア語族の中をもうすこし細かくみてみると、地域ごとにある偏りがあることに気付くであろう。すなわち、フィリピンでは双称単数性型(Ds型)が集中

7) 言語の分類単位はそれぞれの言語グループごとに異り、統一的に表記することは厄介な問題である。そこで、ここでは次のようなおおまかな分類単位を設定しておいた。異論はあろうが、一応これで統一しておく。



ただし、これにうまくのらないような場合はそれぞれの言語グループの分類を用いた。

8) インドネシア内の言語の人称代名詞の資料は Haaksma [1933] の *Inleiding tot de Studie der Vervoegde Vormen in de Indonesische Talen* によっている部分が多い。フィリピンの資料の多くは Reid [1971] の *Philippine Minor Languages: Word Lists and Phonologies* によっている。メラネシアについては Ray の *A Comparative Study of the Melanesian Island Languages* [RAY 1926], を、ポリネシアにおいては同じく Ray による論文, *The Polynesian Languages in Melanesia* [RAY 1919-20] を用いている。また、パプア・メラネシア語群の Sepik 地方の言語については Z'graggen [1976], Milne Bay 地方の言語については Lithgow [1976] を用いている。さらに、ニュー・カレドニアの言語では Leenhardt [1946] の資料を用いている。

表7 オーストロネシア語族における類型の分布

Language Group	2ND	4DN	5Dns	8Dns	11Dns	6Ds	Drv.	Total
1. Formosan	0	2	3	0	0	0	1	6
2. Hesperonesian								
2.1. Philippine	0	0	17	1	0	38	0	56
2.2. C. & S. Celebes	0	0	20	0	0	0	2	22
2.3. West Indonesian	0	2	14	0	0	0	4	20
3. East Indonesian								
3.1. Moluccan	0	0	41	0	0	0	1	42
3.2. West Irian	0	2	12	7	2	0	5	28
4. Melanesian								
4.1. Papuan Mel.	0	4	67	0	0	1	2	74
4.2. Melanesian Proper	0	1	12	47	10	0	3	73
4.2. Micronesian	0	0	6	2	0	0	0	8
5. Ploynesian	1	0	0	14	2	0	1	18
Total	1	11	192	71	14	39	19	347

的に認められる。フィリピンだけに限ってみても、5Dns型よりも6Ds型の方が約2倍も多い。そして、他の言語グループあるいは他の地域にはこの類型はほとんどみられない。このように、フィリピンはDs型の特に集中した地域といつてよいであろう。

メラネシア語群をみると、8Dns型、11Dns型の2つの類型が多く認められる。特に8Dns型はオーストロネシア語族内の8Dns型の66%以上がここに集中している。また、11Dns型においても71%以上がこの地域に集中している。一方において、ポリネシア諸語は例数は少ないが、メラネシア語群と同様に8Dns型と11Dns型の多いグループである。このようにみえてくると、オーストロネシア語族全体では5Dns型が広く分布し、フィリピンでは6Ds型の集中がみられ、太平洋地域では5Dns型が減少し、8Dns型と11Dns型が中心の地域となっているという全体像が浮び上がってくる。

### 3.1.1.2. パプア系言語<sup>9)</sup> (Papuan, Non-Ausatronesian)

パプア系言語の研究は近年になって急速に資料が増加した。しかし、なおわずかの資料によって言語の分類がおこなわれており、まだまだ不明な点の多い地域である。パプア系言語の分類は *Language Atlas of Pacific Area* [WURM & HATTORI 1981] を用いた。現在入手できるもっとも新しい資料であるが、なお将来変更される可能性の

9) パプア系言語における文献としてはあまりまとまったものはないが、West Irian では Voorhoeve [1971], Angan Stok-Level Family については Lloyd [1975], Finisterre-Huon Stok のついでに McElhanon [1973], Sepik-Ramu Phylum については Capell [1951-52] があり、これから多くの例を引用している。他はむしろ、個々の言語を個別にみるという作業によって資料を収集している。

表8 パプア系言語における類型の分布

Language Group	2ND	4ND	6ND	8ND	5Dns	8Dns	6Ds	9Ds	Drv.	DD.	Total
1. Trans-New Guinea Phy.		31	40	1	3	6	3		12	1	97
2. West Papuan Phylum		2			4	1			3		10
3. East Bird's Head Phy.						1			2		3
4. Geelvink Bay Phylum					1						1
5. Sko Phylum		1									1
6. Torricelli Phylum			1								1
7. Sepik-Ramu Phylum	1	2	7						1		11
8. East Papuan Phylum			1			1	4				7
9. Isolates			2		1			1			3
Total	1	36	51	1	9	9	7	1	18	1	134

高いものである。

パプア系言語を全体としてみると、ニューギニアの北部海岸から東部にかけてさまざまな言語グループがみられ、残りの中央部・南部はひとつの言語グループ、Trans-New Guinea Phylum がしめているという状況である。言語の変異の中心は北部海岸から東部にかけてにある。

パプア系言語では、ND型は89例(約66%)、D型は27例(約20%)でND型の方がはるかに多い。パプア系言語はND型にかたむくと考えてよいであろう。

ところで、D型の27例をもう少し細かくみてみると、それらの一部はWest Papuan Phylum, East Bird's Head Phylum, Geelvink Bay Phylum など、いずれもオーストロネシア語族の西部イリアン語群の言語との接触地域に分布する言語グループに含まれている。そして、それらは西部イリアン語群と同じような傾向——5Dns型が中心となる類型となっている。さらに他の一部は、メラネシア語群との接触地帯に分布するEast Papuan Phylumに含まれ、ここではむしろDs型が集中している。このようにオーストロネシア語族との接触地帯での言語ではD型が多くみられ、もしこれらを除くならば、パプア系言語の言語はほとんど4ND型と6ND型になってしまう。特に4ND型よりも6ND型が多いという点では特異的である。また、パプア系言語では8ND型や9Ds型といった、その種の類型としてはもっとも複雑な、もっとも特殊化した類型がみられるのもこの地域の特徴のひとつである。

### 3.1.1.3. オーストラリア系言語 (Australian)

オーストラリア系言語も、パプア系言語と同様に近年になってかなりはっきりとしてきた言語グループである。この言語グループの分類はWurm [1972a] によってい

る。そして、この言語グループでもパプア系言語に似て、北部海岸地帯に多くの種類の言語グループが集まり、他の地域はパマ・ニュンガン (Pama-Nyungan) 語族がしめるとい構成になっている。そのため、実例の多くはパマ・ニュンガン語族に集中している。

ここでは Capell が *Oceania* に書いた論文 [CAPELL 1940, 1941-42, 1942-43] が非常に有用であった。またダリ (Daly) 語族については Tryon [1974] から多く例をとっており、その結果ダリ語族の例はパマ・ニュンガン語族を除いた他の言語グループに比較して、特に多い例数となっている。

オーストラリア系言語では、8Dns 型が圧倒的に多い。99例中63例 (64%) という高率である。他のどの類型も2ヶ台にない。オーストラリア系言語は8Dns型に傾くといえるであろう。それは、ダリ語族を他に比して多く扱っているというバイアスを除いてもなおその傾向は明白である。

他の類型はどれも散発的であるが、わずかに多いものに6ND型、5Dns型がある程度である。例数は少ないが、ウォロラ (Wororan) 語族では2例とも11Dns型で

表9 オーストラリア系言語における類型の分布

Language Group	4ND	6ND	5Dns	8Dns	11Dns	6Ds	9Ds	Drv.	Total
1. Nyulnyulan				1		1		1	3
2. Bunaban			2						2
3. Wororan					2				2
4. Garaman								1	1
5. Daly				16		2			18
6. Kakadjuan		2							2
7. Tiwian						1			1
8. Iwaidjan	1		2						3
9. Gunwinguan		1		5					6
10. Mangarai								1	1
11. Nagaran				1					1
12. Gunavudjian			1						1
13. Bureran				3			1		4
14. Mangerian				2					2
15. Andilyaugwan					1				1
16. Maran				3					3
17. Nunggubuyan				1					1
18. Karawan				1					1
19. Yanyula				1					1
20. Pama-Nyungan	1	6	2	29	1			6	45
Total	2	9	7	63	4	4	1	9	99

あり、ティワイン (Tiwain) 語やブレラ (Bureran) 語などには Ds 型がみられること、さらに比較的多くの派生的類型が出現することなどが他に目立った特徴であろうか。

### 3.1.1.4. アンダマン諸語 (Andaman)

アンダマン諸語では4例しかあげていないが、いずれも単純な 4ND 型であった。この類型でみるかぎり、パプア系言語とは同じとも、異なった類型ともいうことはできないであろう。

### 3.1.2. ユーラシア

#### 3.1.2.1. オーストロ・アジア語族 (Austro-Asiatic)

用いることのできた文献は少なく、ムンダ諸語については Pinnow [1966(1960)] の論文が有用であった程度である。

このグループの中心的類型は23例中11例をしめる 8Dns 型である。5Dns 型の4例を加えると、全体として D 型がしめる割合は約65%となり ND 型の22%に比較して D 型は優位である。一方で、文明のよく発達したクメール語では英語と同じ 3ND-A 型、モン語は 4ND 型、ベトナム語は 5Dns 型というように、より簡素な類型となっていることは注目される。文明の発達と類型の簡素化とは相関関係があるのかもしれない。

表10 オーストロ・アジア語族における類型の分布

Language Group	4ND	6ND	5Dns	8Dns	Drv.	Total
1. Mon-Khmer	3		2	3	2	10
2. Aslian				1		1
3. Munda	2	1	2	5		10
4. Nicobarese				2		2
Total	5	1	4	11	2	23

#### 3.1.2.2. ドラヴィダ諸語 (Dravidian)

資料は *Linguistic Survey of India* [GRIERSON 1973 (1906)] を用いている。ドラヴィダ諸語では、カナール (Kannar) 語を除いた他の5つの言語はいずれも 5Dns 型であった。Caldwell によれば、まさにカナール語を除いて、他は全て双称をもつ [CALDWELL 1974(1913):414] という。ドラヴィダ諸語はまず 5Dns 型とみてよいであろう。

#### 3.1.2.3. シナ・チベット語族 (Sino-Tibetan)

Bauman の *Pronouns and Pronominal Morphology in Tibeto-Burman* [BAUMAN 1975]

表11 シナ・チベット語族における類型の分布

Language Group	4ND	6ND	5Dns	8Dns	Drv.	DD	Total
1. Tibeto-Burman							
Titetan	12	5	8	11	2	1	39
Bodo-Naga	13		1				14
Naga-Chin	10	1	4				15
Lolo-Burmese	3	5	2				10
2. Kam-Tai	1		6	2			9
3. Chinese			1				1
Total	39	11	22	13	2	1	88

がもっとも重要な文献であり、例はほとんどここから引用している。またそれだけにとどまらず、さまざまな点で彼の研究を参考にしている。

シナ・チベット語族の分類はかなり面倒な問題であり、Benedict [1972], Shafer [1974]などを参照したが、結局は西田 [1978]の分類に大筋において従うことにした。

さて、シナ・チベット語族では、2つの類型に集中している。ひとつは4ND型であり、もうひとつは5Dns型である。また、6DN型や8Dns型のようにそれらより複雑化した類型も決して少なくない。より詳しくみてみると、チベット語群では、中国に近い地方およびヒマラヤ山麓部に5Dns型や8Dns型が散在している。後者はムンダ諸語の8Dns型と歴史的に相関関係があったことを予想させる。カム・タイ諸語や中国諸語は5Dns型で、東によるほどD型になる傾向がある。

3.1.2.4. ウラル・アルタイ語族<sup>10)</sup> (Ural-Altaic)

ウラル諸語とアルタイ諸語とでそれぞれによくまとまっているため、別々に扱ったほうがよいと思われる。まずウラル諸語をみてみると、4ND型と6ND型の2つしか認められない。しかも6ND型が46%以上を占めている。ウラル諸語は6ND型に

表12 ウラル・アルタイ語族の類型の分布

	4ND	6ND	5Dns	Total
ウラル	7	5	0	12
アルタイ	7	0	9	16
合計	14	5	9	28

10) ウラル諸語の例はほとんど Collinder の *Survey of the Uralic Languages* [COLLINDER 1957] を用いている。またアルタイ諸語では *Handbuch der Orientalistik* の *Mongolistik* [POPPE et al 1964] と *Tungusologie* [FUCHS et al 1968] からとっている。

傾く ND 型とみてよいであろう。一方、アルタイ諸語は 4ND 型と 5Dns 型とに分極する。そして、西部では 4ND 型、東部では 5Dns 型が多くなる。アルタイ諸語は地理的に D 型と ND 型とに分極している。

### 3.1.2.5. コーカサス諸語 (Caucasian)

コーカサス諸語としては、グルジア (Georgian) 語の 1 例しかあげていない。そしてそれは 4ND 型であるが、コーカサス諸語全体としては、むしろ 4ND 型と 5Dns 型が並立するグループである。すなわち、南部のスヴァン (Svan) 語、西北部のアブカハズ (Abkhaz) 語、中北部の全て、東北部のアヴェル (Avar) 語及びアンディ (Andi) 語群の全て、レズギアン (Lezgian) 語群の約半分に双称が認められる [COMRIE 1981: 211]。全体としてみると約半分は 5Dns 型と考えられ、その多くは北部に分布している。

### 3.1.2.6. インド・ヨーロッパ語族 (Indo-European)

インド・ヨーロッパ語族はもっとも言語学的研究の進んでいるグループである。そして、現代語でみるかぎり、インド・ヨーロッパ語族はもっとも単調な 4ND 型からなる。しかし、参考としてあげた古語をみると 6ND 型が多くみられ、このことはインド・ヨーロッパ語族の多くの言語は一度は 6ND 型までに複雑化し、近年になって逆に簡素化されて 4ND 型になったことを想像させる。いずれにしても、インド・ヨーロッパ語族は 4ND 型を中心とした ND 型であることはまちがいない。

ただし、わずかの例外が認められる。グジャラート (Gujarati) 語は 5Dns 型である。Caldwell によるとマラーティー (Marathi) 語も双称をもち [CALDWELL 1974 (1913): 414], 5Dns 型となる。これらは、ドラヴィダ諸語との接触によって起った変異であると考えられる。また英語も対称の単・複の区別のない派生的類型である 3ND-L 型である。しかし、テキサス方言では *yours* という形があるといわれ、また多くのアメリカ人は *you all* の形で単複の区別をしようとする傾向があり、安定な 4ND 型への傾向が認められる。

表13 インド・ヨーロッパ語族の種類の分布

	4ND	6ND	5Dns	3ND-L	Total
現代語	49	3	1	1	54
古語	2	7	0	0	9
Total	51	10	1	1	63



### 3.1.2.7. 旧シベリア諸語 (Paleosiberian)

この諸語は言語学的にまとまりのあるものではなくむしろ、ウラル・アルタイ語族以外のシベリアで話されている言語を集めたものである。系統論的にはひとつのグループとはいえないグループである。チュクチ (Chukchee) 語やカムチャダル (Kamchadal) 語は 4ND 型であるがコリヤーク (Koryak) 語は 6ND 型である。そして、エスキモー (Eskimo) 語は 6ND 型、アレウト (Aleut) 語は 5ND-L 型であり、ギリヤーク (Gilyak) 語のみが 5Dns 型となっている。まずは非双称型とみてよいであろう。

### 3.1.3. アフリカ

アフリカには4つの言語グループがあるが、これらをまとめて示すと表14のようになる。全体としてみると 4ND 型が圧倒的に多く、260例中185例 (71.2%) を占める。次に多いのは 5Dns 型ではあるが48例 (18.5%) であるにすぎない。他はさらに少ない類型となっている。そのため、アフリカ全体としては 4ND 型とみてよいであろう。

#### 3.1.3.1. アフロ・アジア語族<sup>11)</sup> (Afro-Asiatic)

アラビア語はセム (Semitic) 語派に含まれる言語であるが、セム語派の中で、唯一、2数性の用語をもつ言語である。ただし、自称には2数性はなく、対称、他称に認められる。そのため、5ND-L 型と分類される。セム語派の古語をみても2数性の用語はみられず、どうやら、アラビア語だけが例外であるらしい [MOSCATI 1969: 106]。セム語派はインド・ヨーロッパ語族とは異なって、もともと 4ND 型であったと考えられる。アラビア語だけは、指示代名詞にも2数をもつことから、いよいよ特異な存在とみななければならない [MOSCATI 1969: 111]。アラビア語では、自称のみが他と異なり2数性がなく、対称、他称、物を指示する指示代名詞に2数性があり、アラビア語で話す人々は、自分以外は別の物と考えている。すなわち、かなり極端なエゴ・セントリックな人々なのかもしれない。

アフロ・アジア語族の中では、わずかにクシ (Cushitic) 語派のソマリ (Somali) 語とダセネッチ (Dasenech) 語が 5Dns 型であるが、例外的なものと考えてよいであろう。しかし、チャド (Chadic) 語派に含められる西部チャド (West Chadic) 語群またはチャド・ハム (Chado-Hamitic) 語群は 5Dns 型が中心的類型であると思われる。西

11) この語族では、Bender et al (eds.) の *Languae in Ethiopia* [BENDER et al 1976], Bender (ed.) の *The Non-Semitic Languages of Ethiopia* [BENDER 1976], Tucker and Bryan の *Linguistic Analyses: The Non-Bantu Languages of North-Eastern Africa* [TUCKER & BRYAN 1966] およびその Supplement の *The Ethiopic Languages* [LESLAU 1966] を資料としている。

表14 アフリカにおける類型の分布

Language Group	4ND	6ND	5Dns	8Dns	6Ds	9Ds	Drv.	Total
<b>AFRO-ASIATIC</b>								
1. Semitic	14						1	15
2. Chadic	2				1			3
3. Berber	1							1
4. Cushitic	18		2					20
5. Omotic	7						1	8
Total	42		2		1		2	47
<b>NILO-SAHARAN</b>								
1. Chari-Nile								
1.1. Central Sudanic	14		1					15
1.2. Eastern Sudanic	35		10					45
1.3. Others	2			1				3
2. Saharan	8							8
3. Maba	2							2
4. Koman	1		4					5
5. Fur	1							1
Total	63		15	1				79
<b>NIGER-KORDOFANIAN</b>								
1. Kordofanian	7		8		1			16
2. Niger-Congo								
2.1. Adamawa-Eastern								
2.1.1. Adamawa	3							3
2.1.2. Eastern	13		7		4			24
2.2. West Atlantic	2		3					5
2.3. Kwa	7			1				8
2.4. Mande	4							4
2.5. Benue-Congo								
2.5.1. Bantu	35		11	1	1	1	7	56
2.5.2. Bantoid	5		1					6
2.5.3. Other	1							1
Total	77		30	2	6	1	7	123
<b>KHOISAN</b>								
Total	3	5	1	1			1	11
Total	185	5	48	4	7	1	10	260

部チャド語群の代表的なハウサ(Hausa)語は4ND型であるが、ハウサ語はむしろ例外で、双称をもつことがこの語群のひとつの重要な特徴となっている[WESTERMANN and BRYAN 1970: 160-161]。たとえば、マサ(Masa)語も双称をもつ[WESTERMANN and BRYAN 1970: 176]が、具体的な例がないため表の中には出現していない。

以上をまとめると、アフロ・アジア語族では全体としては4ND型、その中で、チャド・ハム語群のみは5Dns型、そしてクシ語派には5Dns型がわずかにみられるということになる。

### 3.1.3.2. ナイル・サハラ語族(Nilo-Saharan)

先にあげた Tucker and Bryan [1966] から多くの例を引用している。

ナイル・サハラ語族においても、全体としてみると4ND型が中心的類型となっている。79例中63例(80%)までが4ND型である。ただし、シャリ・ナイル(Chari-Nile)語派の東スーダン(Eastern Sudanic)諸語のダジュ(Daju)語群でヌエール(Nuer)語、シュルク(Shilluk)語、テソ(Teso)語、テウソ(Teusu)語などに5Dns型がみられるし、コマ(Koman)語派もむしろ5Dns型である。

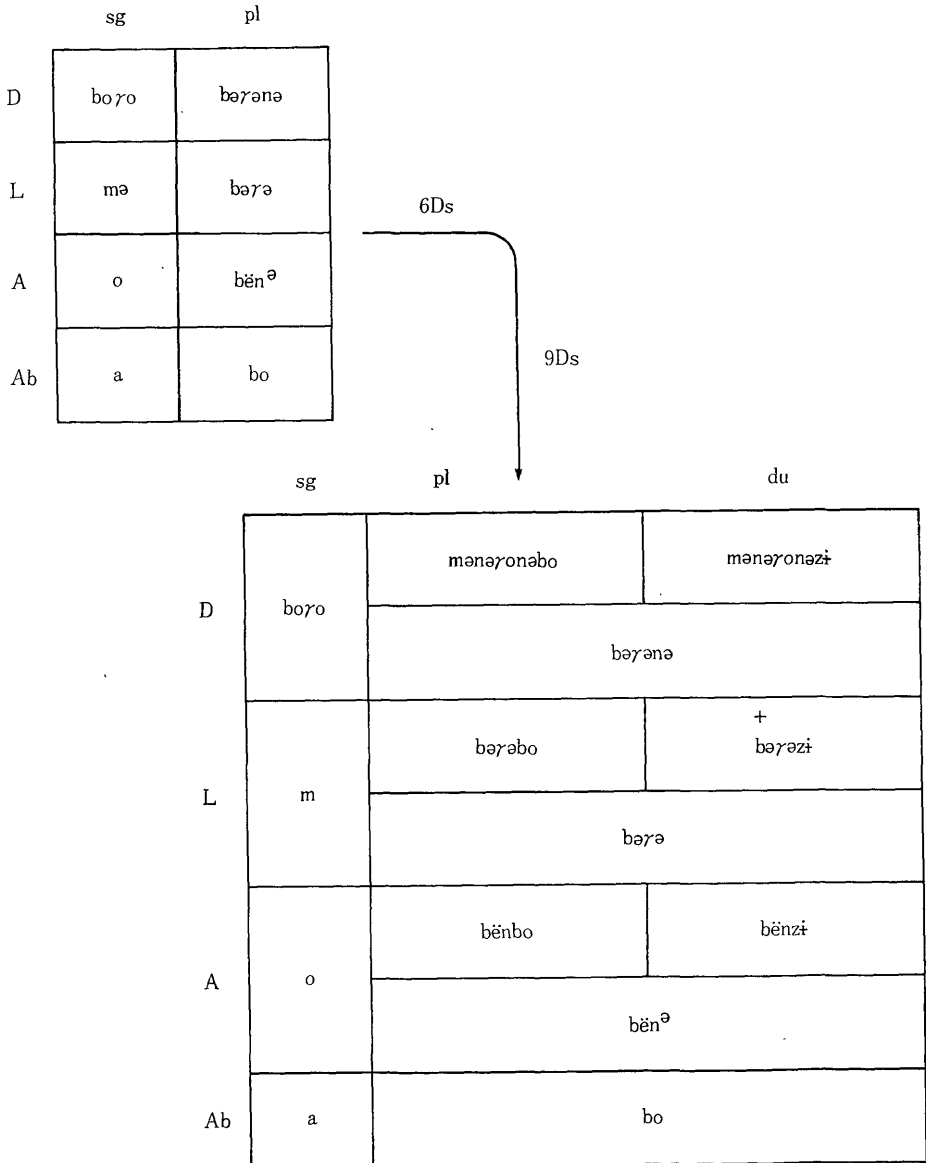
### 3.1.3.3. ニジェール・コルドファン語族<sup>12)</sup>(Niger-Kordofanian)

ニジェール・コルドファン語族では基本的には4ND型であるが、5Dns型、6Ds型が少なからず認められる。中でも、コルドファン(Kordofanian)語派、アダマワ・東部(Adamawa-Eastern)諸語の東部(Eastern)大語群、大西洋岸(West Atrantic)諸語、ベヌエ・コンゴ(Benue-Congo)諸語の中のバントゥ(Bantu)語群に多くみられる。

コルドファン語派は、ニジェール・コンゴ語派(Niger-Congo)と対立する、かなり異なった語派でスーダンの中央部の南よりの地域に分布する言語である。この語派では、4ND型と5Dns型が半々である。東部大語群においても、4ND型と5Dns型・6Ds型とでは半々近くになっている。東部大語群の内のセレ・ムドゥ(Sere-Mundu)語群及びバンダ・バヤ・ンガンディ(Banda-Gbaya-Ngandi)語群がD型の中核である。また、アダマワ(Adamawa)大語群のララ(Lala)語、ロングダ(Longuda)語は実例はないが双称をもち[WESTERMANN and BRYAN 1970: 111-112]、東部大語群だけでなくアダマワ語群もND型とD型で共存するタイプである。

12) Tucker and Bryan の *Linguistic Analyses: The Non-Bantu Languages of the North-Eastern Africa* [TUCKER & BRYAN 1966], また, Westermann and Bryan の *The Languages of West Africa* [WESTERMANN and BRYAN 1970], Doke の *The Southern Bantu Languages* [DOKE 1967], Richardson の *Linguistic Survey of the Northern Bantu Borderland vol. 2.* [RICHARDSON 1957] を主な資料としている。

大西洋岸諸語では、フルベ (Fulbe) 語とその方言は 5Dns 型であるがウォルフ (Wolof) 語, セレール (Serer) 語はともに 4ND 型である。むしろフルベ語が特異であるのかもしれない。



+ : 強調型, mənəziが存在する。

図29 ンゲムバ (Ngemba) 語の合成人称代名詞

バントゥ語群の中に 5Dns 型がみられるが、これはいずれも南部バントゥ語である。すでに述べたように、南部バントゥ語では、only/all の対立のある接尾辞が存在するため、結果として 5Dns 型になる。さらに、2数、3数などをもつものは派生的類型の南部バントゥ型になる。バントゥ語群およびバントゥ類縁 (Bantoid) 語群において、基本的には 4ND 型あるいは 6Ds 型であるものが、それぞれの用語が組み合わせられることによって 8Dns 型や 9Ds 型などになる例がある。こうした特殊な例としてバントゥ類縁語群のンゲムバ (Ngemba) 語の例 [EASTLACK 1972: 62-68] を図29に示しておく。

### 3.1.3.4. コイサン語族 (Khoisan)

コイサン語族については、HRAF の Schapera [1930] の資料と Westphal の The Non-Bantu Languages of Southern Africa [WESTPHAL 1956] を資料としている。不十分な資料であるが、これらによると、6ND 型が多い。しかし、双称は南部のグループとナマ (Nama) 語にみられるという [SCHAPERA 1930: 429]。そういう点ではコイサン語族は D 型と ND 型が並立する語族である。

### 3.1.4. アメリカ

北アメリカを全体としてみると、4ND 型が約半分を占める。しかし、残り半分がいろいろの類型をもち、かなり複雑な様相を呈している。

ナ・デネ語族 (Na-Dene) は基本的には 4ND 型であるが、ナバホ (Navajo) 語のみは 6ND 型である。セイリッシ (Salish) 語族は自称の複数の用語をもととは持たなかったと想像される興味深いグループである。それはシュスワップ (Shuswap)

表15 アメリカにおける類型の分布

Language Group	4ND	6ND	5Dns	8Dns	6Ds	Drv.	Total
1. Na-Dene	5	1					6
2. Salish	3		1				4
3. Wakashan						1	1
4. Macro-Algonquian	3	1	3				7
5. Macro-Siouan				1	3	3	7
6. Penutian	22	1	7	4	2	1	37
7. Aztec-Tanoan	4			2	1		7
8. Hokan	1						1
9. Oto-Manguean				1			1
10. Andean-Equatorial			1				1
Total	38	3	12	8	6	5	72

語にみられ、現在は 5Dns 型であるが、自称の複数のみは奇妙な形であり、後に加わったものと思われる。しかし、資料に従えばこの語族は 4ND 型となる。

ウォキャシ (Wakashan) 語族は 1 例しか取り上げていない。その 1 例であるクワキウトル (Kwakiutl) 語は 4Dns-A 型という派生的類型である。

アルゴンキアン (Macro-Algonquian) 大語族は、例としてあげたものでは 4ND 型と 5Dns 型に二分される。しかし、Forchheimer によれば、12 のアルゴンキアン語族の言語ではいずれも双称を持つとしている [FORCHHEIMER 1951: 73]。それ故、アルゴンキアン語族はむしろ 5Dns 型であると思われる。

スー (Macro-Siouan) 大語族はややめずらしい 6Ds 型である。5Ds-pl 型が 2 例あり、それを加えると 7 例中 5 例が 6Ds 型、あるいはその派生的類型であり、6Ds 型とみてよいであろう。また、ここには含まれていないサンティー (Santee) 語は少なくとも双称をもっているし [FORCHHEIME 1951: 58]、イロコイ (Iroquoi) 語も 8Dns 型であり、D 型であることはまちがいあるまい。

ペヌート (Penetian) 語族では 37 の例の中、27 がマヤ (Maya) 諸語からとっており、マヤ諸語に大きく傾いている。マヤ諸語だけに限ってみると、4ND 型が圧倒的に多い。しかし、5Dns 型にも 6 例、8Dns 型が 1 例、6Ds 型にも 1 例みられ、もともとは双称があったと考えられるグループである。マヤ諸語を除くと、むしろ 8Dns 型が多くなり、5Dns 型や 6Ds 型もみられ、基本的には D 型の言語グループと考えられる。

アズテク・タノア (Aztec-Tanoan) 語族では 4ND 型がやや多いが、8Dns 型や 6Ds 型もみられ、D 型、ND 型の両方があるグループと考えられる。ホカ (Hokan) 語族は 1 例しか取り上げておらず、そのユマ (Yuma) 語は 4ND 型であったので、ここでは一応 ND 型としておく。オト・マンゲ (Oto-Manguen) 語族でも 1 例しか取り上げていないが、そのオトミ (Otomi) 語は 8Dns 型であるため、D 型にあてておく。アンデス・赤道 (Andean-Equatorial) 語族でも 1 例で、ケチュア (Quechua) 語は 5Dns 型であった。

### 3.1.5. 未分類語

未分類語の内、日本語は 4ND 型であるが琉球語は 5Dns 型である。自称・複数形 *watt'a:* に対し双称・複数形 *wa:tza:* が存在する<sup>13)</sup>からである。

アイヌ語は 5Dns 型であり、ブルシャスキー (Burushaski) 語、バスク (Basque) 語は 4ND 型であった。

13) 仲宗根政善氏のパーソナル・コミュニケーションによる。

### 3.1.6. Pidgin English

オセアニア及びオーストラリアで話される Pidgin English は、それぞれの土着の言語の影響を受け、本来の英語は 3ND-A 型であるが、さまざまに変化している。Melanesian Pidgin English では 5Dns 型に、ニューギニアの低地部でも 5Dns 型に、高地部では 11Dns 型になっている。オーストラリアの Pidgin English では 8Dns 型となるといったようである。いずれも合成されて形成されたものであり、こうした合成形によって、もとの類型から他の類型に変化することは、類型の変化・発展というものを考える上で興味深いものがある。なお、当然ながらこれらは、1,129 例の中には含まれてはいない。

## 3.2. 総 論

それぞれの言語グループごとに類型の分布をみてきたが、それをまとめたものが表 16 である。まず、類型の拡散している言語グループをみると、オーストロネシア語族、パプア系言語、オーストラリア系言語の 3 つのグループは多くの類型を持つ。特にパプア系言語は著しく、基本的類型で 8、派生的類型では 8、さらに 2 数性卓越型までである。これと対照的にウラル・アルタイ語族、インド・ヨーロッパ語族、ナイル・サハラ語族などはわずかの類型しか認められない。このことはいろいろに解釈できるが、ここでは事実を指摘するだけにとどめておこう。個々の類型をみると、9Ds 型や 11Dns 型、8ND 型のような特殊な類型は先にあげた拡散する言語グループにみられる。また、6Ds 型はフィリピンが圧倒的に多い。8Dns 型はオーストラリア系言語とオーストロネシア語族に多くみられるが、オーストラリア系言語にみられる類型の中でもこの類型が一番多く、オーストラリア系言語にとっては重要な類型である。一方、6ND 型はパプア系言語に多い。これもこの言語グループを特徴づける類型である。逆にどのグループにもみられる普遍的な類型は 4ND 型である。ついで 5Dns 型であり、これも数は少なくともほとんどの言語グループにみられる。

次に言語グループごとにみていくと、オーストロネシア語族は 5Dns 型が中心の類型であり、先にみたように、フィリピンに 6Ds 型が集中し、メラネシアやポリネシアでは 8Dns 型及び 11Dns 型が多い。パプア系言語では 4ND 型よりもむしろ 6ND 型が多い。そして、オーストラリア系言語では圧倒的に 8Dns 型に集中していたし、アンダマンは 4ND 型であった。

オーストロ・アジア語族は 8Dns 型、ドラヴィダ諸語は 5Dns 型、シナ・チベット語族は 4ND 型と 5Dns・8Dns 型の両者に分離するタイプであった。アルタイ諸語は

表16 世界における類型の分布のまとめ

Language Group	2ND	4ND	6ND	8ND	5Dns	8Dns	11Dns	6Ds	9Ds	Drv.	DD	Total
1. Austronesian	1	11			192	71	14	39		19		347
2. Papuan	1	36	51	1	9	9		7	1	18	1	134
3. Australian		2	9		7	63	4	4	1	9		99
4. Andaman		4										4
5. Austro-Asiatic		5	1		4	11				2		23
6. Dravidian		1			5							6
7. Sino-Tibetan		39	11		22	13				2	1	88
8. Altaic		7			9							16
9. Uralic		7	5									12
10. Caucasian		1										1
11. Indo-European		49	3		1					1		54
12. Paleosiberian		3	2		1					1		8
13. Afro-Asiatic		42			2			1		2		47
14. Nilo-Saharan		63			15	1						79
15. Niger-Kordofanian		77			30	2		6	1	7		123
16. Khoisan		3	5		1	1				1		11
17. Amerid		38	3		12	8		6		5		72
18. Unclassified												
Japanese		1			1							2
Ainu					1							1
Burushaski		1										1
Basque		1										1
Total	2	391	90	1	312	179	18	63	3	68	2	1,129



4ND型と5Dns型に分離するタイプであり、一方、ウラル諸語は4ND・6ND型に集中している。インド・ヨーロッパ語族は4ND型と6ND型がみられるが中心は4ND型である。コーカサス諸語は例としては一例しかあげていないが、先にみたように、4ND型と5Dns型に分離するグループである。

アフリカのアフロ・アジア語族は4ND型とみてよい。しかし、チャド・ハム語群（西部チャド語群）のみは5Dns型であるらしい。ナイル・サハラ語族も4ND型であるが、東スーダン諸語は4ND型と5Dns型が並立するグループである。コマ語派はむしろ5Dns型が中心の言語グループであり、これらはナイル・サハラ語族の例外である。ニジェール・コルドファン語族も4ND型ではあるが、コルドファン語派は4ND型と5Dns型に分離するタイプであり、東部大語群も4ND型と5Dns・6Ds型に分離するタイプである。バントゥ語群にも5Dnsがみられるが、そのほとんどは南部バントゥ語群であった。コイサン語族も4ND・6ND型と5Dns・8Dns型に分離するタイプであり、5Dns・8Dns型は南部に多くみられる。

このようにみえてくると、各言語グループはそれぞれの類型とある種の相関関係があることは明瞭である。これをより上位の類型である双称型(D型)と非双称型(ND型)で分類し、再整理したものを地図上に書き込んでみると図30のようになる。なお図中の\*印はDs型の集中している場所をしめしたものである。この図をみると、いくつかの点に気付く。まず、多くの場合、D/ND型はだいたいいおいてD型とND型の中間地帯に出現する。それは、言語接触ということはどうしても思い出させる。また、図中にはあらわれていないが、D型がND型と直接的に接している場合は、その境界あたりでND型の中にD型の類型が分布しているか、D型の中にND型が分布していることが一般的である。この図では言語グループのある抽象のレベルでまとめているため、すなわち、D/ND型というものが出現するが、もし言語をひとつずつプロットしてゆけば、各言語グループの境界を越えて、少しずつ両方にD型とND型が入りこんだ図ができあがることであろう。それはこの図とは異なったものとなるが、私はむしろこの程度の抽象度の方が適当ではないかと考えている。

次に、Ds型に注目してみると、フィリピンがひとつの中心であり、さらに、パプア系言語に含まれる言語が分布するリーフ諸島あたり、アフリカのニジェール・コルドファン語族の東部大語群の一部、アメリカのスー大語族あたりに中心があるようにみうけられる。このように、ごく限られた地域のみ出現するだけの特殊な類型であり、それらは互いに関係なく、独自に出現したものと推定される。

D型の分布に着目してみると、中国南西部あたりにひとつのD型の中心があり、

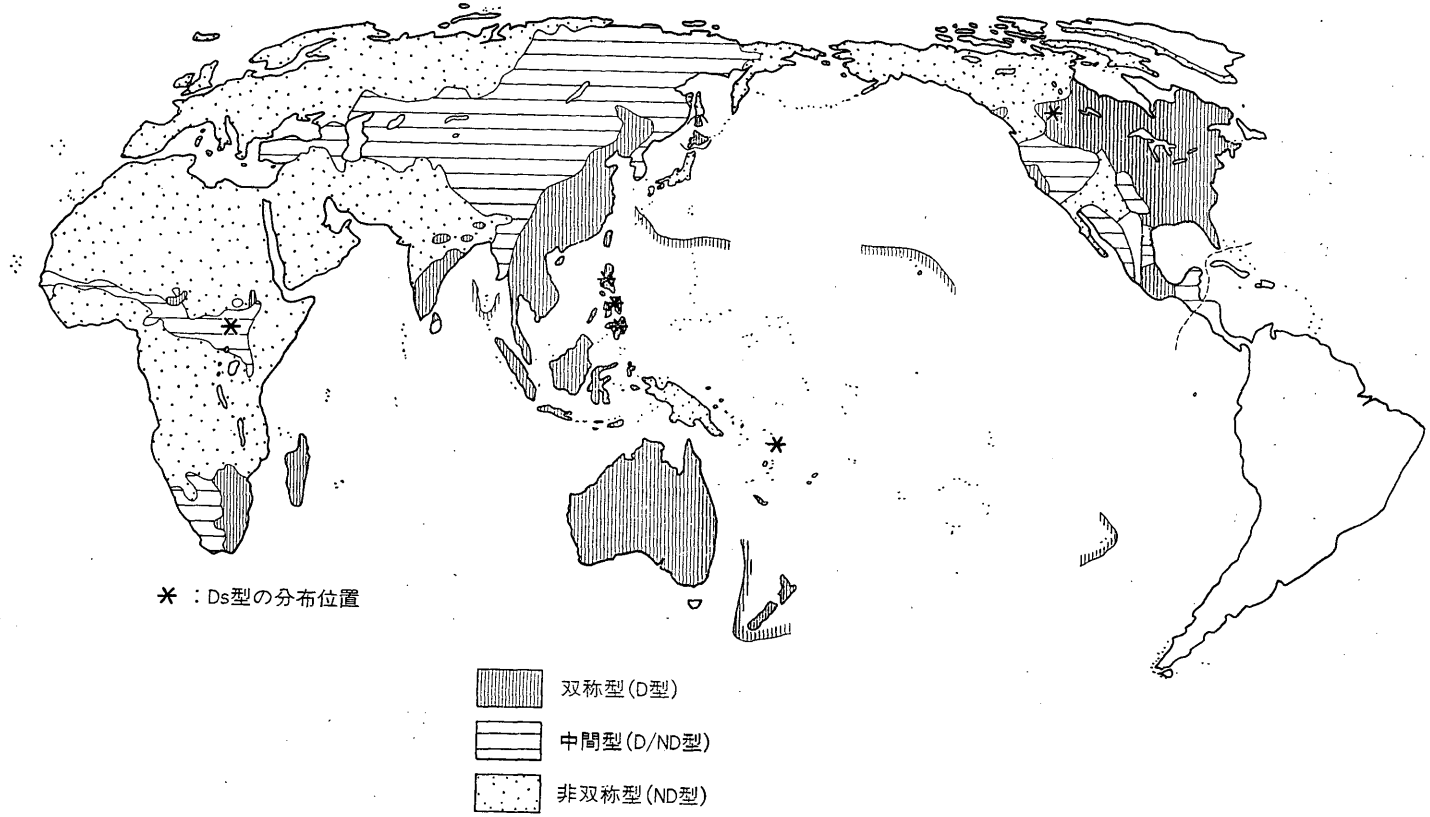


図30 双称型, 非双称型, 中間型の分布

これらが西方にはムンダ諸語，ドラヴィダ諸語へ，南方にはシナ・チベット語族のカム・タイ諸語，ムンダ諸語を除いたオーストロ・アジア語族，さらにオーストロネシア語族へと広がっていったように読みとれる。北西方向には中国諸語，アルタイ諸語，そして北アメリカへと，広まったのではないであろうか。しかし，オーストラリアやアフリカのD型は，中国南西部起源のD型とは異なるであろう。D型の発生そのものは，むしろ起こるべくして起こるものである。独立的に発生することはむしろ当然のことである。オーストラリアのD型はそのひとつであり，アフリカのそれも別の例であろう。

アフリカの場合，その中心はアフロ・アジア語族のチャド・ハム諸語あるいはナイール・サハラ語族のコマ語派，ニジェール・コルドファン語族のコルドファン語派あたりにあると考えられる。東スーダン諸語やアダマワ・東部大語群，大西洋岸語族あるいはクシ語派のD型はこれらの影響で発生したものであり，コイサン語族のD型も地理的には離れているが同系統のものであろう。そして，南部バントゥ語はコイサン語族の影響のもとに特異な形でD型を形成したと思われる。コイサン語族がアフロ・アジア語族と相関関係があるとの説を受け入れるならば，むしろチャド・ハム諸語を形成した古い言語がその起源ではないかと思われる。

#### 4. お わ り に

本稿では1,129の言語（及び方言）から基本的類型9つと，派生的類型23，2数性卓越型2つの類型を区別した。そして，基本的類型を双称型と非双称型に分け，前者をさらに双称単数性型と双称非単数性型に分けた。派生的類型の分類はここでは暫定的に基本的類型からの用語の脱落とみて分類されている。

これらの類型化の過程において，次のようないくつかの規則性を認めた。

(1) 双称を欠く例はあっても，自称と対称を区別しない例はない。これはあまりに当然すぎることではあるが念のため書き出しておく。

(2) 会話場面において限定的な数は3数が限度であり，義務的にはそれを越えることはない。

(3) 1,129例の内，2数性卓越型の2例を除いて，3数性の区別のあるときは必ず2数性が区別されており，2数性が存在するときは単・複の区別がなされている。

(4) 派生的類型において，双称と自称との中和は起こりえるが，双称と対称との中和は起こりえず，自称と対称との中和も稀である。

(5) 派生的類型において、単・複及び2数性・複数性との中和は対称においては起こりうるが、自称では主として2数性・複数性においてより多く、単・複ではむしろ双称・複数性と自称・単数性の間で起こり、双称ではほとんど起こらない。

(6) 派生的類型において、2数性が存在するとき、単数性と2数性あるいは複数性との中和は、どの人称においても起こり得ず、2数性と複数性との間の中和しか起こりえない。ただし、双称・複数性と自称・単数性とは2数性が存在していても起こりうる。

ここに書き出した規則性のいくつか、特に(1)や(3)はかなり常識的な規則性ではあるが、人間が会話場面においての人の概念化に際して、決してでたらめなことをしているのではないことを逆に示すものであろう。特に(3)は図化に際して重要な意味をもっている。すなわち、通常は単・2数・3数・複と並べる順序を単・複・2数・3数と並べたのは(3)のゆえである。単数性・複数性は2数性や3数性とは異なったものであり、より本質的なものであるという認識の上になっっている。そして、このことによって2数性卓越型も無理なく図化できるのである。すなわち、ひとつの体系としての整合性を保ちつづけることができるのである。

さらに、その体系を派生的類型においても保つためには、(4)のように双称は自称との中和がみられるため、双称と自称とは隣接する必要がある。双称は従来の1人称、2人称という命名法に従えば、4人称あるいは0人称という名称<sup>14)</sup>となるであろうが、

14) Hymes [1972] は、はっきりと1人称・包括的を独立した人称と認め、それに4人称 (fourth person) という名称を与えている。しかし、それは1人称、2人称、3人称があって、その後に見い出されたものとして4人称としたにすぎない。そこには理論的根拠は全くない。そして彼の論文の中にこの命名が非論理的であることを示すことが述べられている。すなわち、Hymes の Greenberg の marked/unmarked 概念をもちいて、かなり重要な順序として unmarked の順に人称を並べている。彼によれば、3人称/1人称/2人称/4人称の順に並ぶという。この順序と命名の順序とは少しも一致しない。

実のところ、私はこの順序には賛成しない。unmarked の順であれば、私なら3人称/2人称/1人称/4人称と並べるであろう。2人称と1人称の順序のちがいは、かなり微妙なものであり、Hymes は(英語の)命令形には2人称を用いないことを根拠にしているように読みとれる。しかし、彼のハヌノー (Hanunóo) 語の phonesthematic な分析では、1人称がもっとも value のあるものとして提示されている(2人称がそれに続く)。一方で、Salt-Yui 語では1人称の単数は分化しているのに2人称は単・複の分化がみられないことや、派生的 4ND 型においても2人称における単・複の中和は認められても(4例)、1人称ではその例は皆無であることなどを考えあわすと、私には1人称の方が2人称に対して marked であると思われる。そして、そうであるならば、1人称包括的は0人称とした方が論理的であると思う。

0人称という命名は他の命名と比較するとどうもすっきりしないばかりでなく、すでにパンヴェニストによって意味論的に3人称にゼロ人称という語があてられている [パンヴェニスト 1983: 206]。こうしたことは4人称にも見られ、オジブワ (Ojibwa) 語やナヴァホ (Navajo) 語の 'obviative' に4人称という語がやはりあてられている [Hymes 1972: 105]。このように、いずれにしても、これまでのような数による命名体系にしたがっているかぎりには、いつまでも論理的整合性を欠き、混乱を回避することはむずかしい。

このことを考えに入れると0人称の方がまだしもましということになる。しかし、0人称という命名はやはり奇妙なものである。単にヨーロッパのエスノセントリズムを排除するというだけの理由ではなく、このことを処理するためにもどうしても新しい命名体系が必要となった。そして、(5)、(6)の規則性を矛盾なく図化できたのは図化における人称の順序、数の順序が適切であったことを逆に証明している<sup>15)</sup>。

図化という手段を用いて、人称と数の体系化をはかる、それが本論のひとつの基本的な試みであった。そして、それは現在ある体系、すなわち共時的な体系にとどまらず、通時的な体系を見通しての体系であった。後者については次稿で詳しく検討することになるはずである。

各言語グループにおけるこれらの種類の分布を検討した。その結果、各言語グループごとに、それぞれ特徴ある類型との相関関係がみられた。このことは、この類型が各言語グループの成立とともに形成されたのではないかという想像をかきたてる。さらに、それらを上位の類型であるD型とND型に分けて地図にプロットしてみると、双称の起源地として3つの可能性のあることを提示した。

- (1) 中国南西部起源
- (2) オーストラリア起源
- (3) アフリカ起源

これらのうち、オーストラリアの具体的な起源地あるいは特定の言語グループを想定することは難しい。しかし、アフリカでは、チャド・ハム語群の直接の古語が起源である可能性が高いと思われる。一方、中国南西部起源は、オーストロ・アジア語族、ドラヴィダ諸語、カム・タイ諸語、中国諸語、アルタイ諸語、北アメリカの言語、オーストロネシア語族の共通の起源地として想定されたものである<sup>16)</sup>。それらの言語グループの共通の祖語を想定しているわけではないし、すでにそれらの言語グループに分化していたとも想定していない。ただ、そうした認識の仕方がそのあたりで発生し、それが現在みられる言語グループのそれぞれに受けつがれたと考えている。勿論、このような一種の疫学的なアナロジーとしての結果は、確とした証拠のあるものではない。しかし、このように考えることによって、現在そこにみられる現象をよりよく理解できるとしたら捨てるべきものではないと私は思う。想像ではあるにしてもより合理的に説明できる考え方があれば私はそれをとりたいと思う。とはいえ、想像が空

15) バンヴェニストに従えば、unmarked の順に人称を並べると3人称/2人称/1人称となる【バンヴェニスト 1983: 210-211】。そして、注14で述べたことを勘案すれば、ここで用いたマトリクスは次のようになる。すなわち、縦方向には上から下へ marked の順に、横方向には左から右へ unmarked の順に並んでいることになっている。

想にさえなる説である。私はこの説に特に固執する気はない。

なお、多くの言語をみついているため、言語名などにスペルミスが出るかもしれない。また、資料として適切であるかどうかも特に検討していないため不適切なものもあると思われる。もしそれらの点にお気づきになればどうかお教え願いたい。ただし、この種の論文では常に資料の不適切さの指摘がなされてきたが、この論文ではかなりの量の例をみついている、その20~30%の資料が不適切であるというのなら問題であるが、少々の不適切では論理の基本的部分にはほとんど影響をあたえないと考えている。むしろ、理論指向の強いこの論文では逆に資料の不適切さすら指摘できる構成となっている(6Dns-O-O'の項参照)。また、すでにのべておいたように、本論は言語学の論文ではもとよりない。言語学がみついかきれないような部分に焦点が当てられている。確かに、言語学の素人が言語的資料を用いて論述するとき、全く方向違いの無駄な努力をしてしまうことが往々にしてある。言語にかかわる現象にはそうしたある種の情熱をかきたてる要素があるものである。本論がそうした方向違いのものでないことを願っている。

## 追 記

この原稿を書きあげた後で Mannheim 氏から彼の最近の論文 [MANNHEIM 1982] を受けとった。彼はこの論文で、アイマラ (Aymara) 語とケチュア語の 'inclusiveness' の表現の違いを検討し、アイマラ語は person system, ケチュア語は number system として 'inclusiveness' を表現しているという優れた論述をおこなっている。本論とのかかわりにおいて興味深いのは、アイマラ語は人称および数においてともに義務的でないという点である。すなわち、Mannheim 氏に従えば、アイマラ語は数にかかわらない人称体系を持つことになり、本文中の基本的類型の項で述べた \*3D 型ということになる。すなわち、3D 型が見つかったということである。

16) このような仮説は決して私が始めてというわけではない。Fochheimer は1951年の学位論文では包括的・排除的の中心を "somewhere in south-eastern Asia" におき、後の1953年の本では "somewhere near Himalayas" においている。ただし、彼の仮説にはかなり激しい反論がなされている(たとえば [HOUSEHOLDER 1955], [HYMES 1965])。彼等の批評はそれぞれに正しいと私にも思われ、彼の根拠は薄弱となつてはいるがなお検討の余地のあるものと思われる。形質人類学的にも文化人類学的にも、また古学的にも新大陸のインディアンが旧大陸起源であることはほぼ間違いないことであろう。彼等の祖先は約2万年前にベーリング陸橋を渡ったと考えられ、その旧石器時代人の持っていた言語は現在の言語とはまったく異なったものであるにしても、言語的なものはすでに持っていたであろう。そしてこうしたことまでも彼等は否定しようとはしないであろう。ただ、こうしたことは言語学であつかえるものとは思えない。言語学が溯りえるよりははるかかなたの出来事であろう。しかしその基層にある一種の考え方というものは言語学が溯れる範囲を越えてなお溯りえると私は考えている。私がここであつかおうとしていることはそうしたことで、言語そのものでもなければ現在見られる語彙や復元された祖形でもない。その裏側にあるであろうと推定される考え方あるいは認識の仕方が問題なのである。確かに語彙を分析の対象とはしているが、私にとっては具体的な語彙の歴史の変遷などに強い関心はない。それを越えたところに問題はありと私は考えている。その点では Fochheimer にも、また Hymes や Householder の議論にも私はかかわってはいない。

## 謝 辞

オーストロネシア語族については当館の崎山理助教授に、シナ・チベット語族については長野泰彦助手に、ウラル・アルタイ語族については庄司博史助手に、スラブ諸語については伊東一郎助手に、マヤ諸語については八杉佳穂助手に、アフロ・アジア語族については福井勝義助教授にそれぞれの言語についての文献についてお世話になった。また、さまざまな言語については和田祐一教授より文献を借用した。記して深謝する。ただし、それをを用いての誤りかもしれない、それは筆者の責任であって、上記の方々の関与するところでは決してない。ただし、本稿に貴重なコメントをくださった伊東一郎助手、庄司博史助手の両氏には感謝している。なお本稿は当館の共同研究班、「象徴・分類・認識についての民族学的研究」（代表者一松原正毅助教授）において発表したものを大幅に書き直したものである。

### Appendix I: Identification of Types

#### I. OCEANIAN

(Milne Bay District)

Sewa Bay (Lithgow 1976)

#### I. 1. Austronesian

4.2. Melanesian

(2ND)

(Solomon)

5. Polynesian

Marau Wawa Is. (Ray 1926)

Leuanuia (Ray 1919-1920)

(6ND)

(4ND)

4. Melanesian

1. Formosan

4.1. Papuan Melanesian

Bunun (Abe 1930)

(Sepik District)

Rukai (Abe 1930)

Ali (Laycock 1976)

Sera (Laycock 1976)

2. Hesperonesian

Sissano (Sisano) (Laycock 1976)

2.3. West Indonesian

(Malay Peninsula)

Malay, Penang (Haaksma 1933)

Malay, Perak (Haaksma 1933)

(5Dns)

3. East Indonesian

3.2 West Irian

Namatote (Cowan 1953)

Woi (Anceaux 1961)

1. Formosa

Ami (Abe 1930)

Paiwan (Abe 1930)

Puyuma (Abe 1930)

4. Melanesian

4.1. Papuan Melanesian

(Sepik District)

Tumleo (Laycock 1976)

Ulau-Suain (Laycock 1976)

Wogeo (Laycock 1976)

2. Hesperonesian

2.1. Philippine

Bikol (Mintz 1971)

Cebuano (Bunye & Yap 1971)

Gaddang (Reid 1971)

Hiligaynon (Wolfenden 1971)

Ilongot, Kakiduge:n (Reid 1971)

Itbayaten, Batanes Is. (Reid 1971)

Ivatan, Batanes Is. (Reid 1971)  
 Mumanwa (Reid 1971)  
 Manobo, Ata (Reid 1971)  
 Manobo, Kalamansig Cotabato (Reid 1971)  
 Manobo, Tigwa (Reid 1971)  
 Mansaka (Reid 1971)  
 Subanun, Sindangan (Reid 1971)  
 Subanun, Siocon (Reid 1971; Brichoux 1977)  
 Tagbanwa, Kalamian (Reid 1971)  
 (Gum)  
 Chamorro (Topping 1973)  
 (Palau)  
 Palauan (Josephs 1975)

2.2. C. & S. Celebes

Impo (Haaksma 1933)  
 Karunsi'e (Haaksma 1933)  
 Laiwui (Lalak) (Haaksma 1933)  
 Loinang (Haaksma 1933)  
 Moiki (Haaksma 1933)  
 Molio'a (Haaksma 1933)  
 Molongkuni (Haaksma 1933)  
 Mori (Haaksma 1933)  
 Padü (Haaksma 1933)  
 Tambée (Haaksma 1933)  
 Tinompo (Haaksma 1933)  
 Tiu (Haaksma 1933)  
 Toraja, Bada' (Haaksma 1933)  
 Toraja, Besu (Haaksma 1933)  
 Toraja, Bare'e (Haaksma 1933)  
 Toraja, Leboni (Haaksma 1933)  
 Toraja, Napu (Haaksma 1933)  
 Toraja, Sa'dan (Haaksma 1933)  
 Ulu Uwoi (Haaksma 1933)  
 Watu (Haaksma 1933)

2.3. West Indonesian

(Madagascar)  
 Malagasy (Parker 1883)  
 (Malay Peninsula)  
 Malay (Haaksma 1933)  
 (Sumatra)  
 Ache (Haaksma 1933)  
 Batak, Dairi (Haaksma 1933)  
 Batak, Karo (Haaksma 1933)  
 Batak, Mandailing (Haaksma 1933)  
 Batak, Toba (Haaksma 1933)  
 Gayo (Haaksma 1933)  
 Lebong (Haaksma 1933)  
 Malay, Palembang (Haaksma 1933)  
 Mentawai (Haaksma 1933)

Napal-Lichin (Haaksma 1933)  
 Nias (Haaksma 1933)  
 Simalur (Haaksma 1933)  
 (Jawa)  
 Old-Javanese\* (Haaksma 1933)

3. East Indonesian

3.1. Moluccan

(Alor-Timor)  
 Baä (Haaksma 1933)  
 Bilba (Haaksma 1933)  
 Bokai (Haaksma 1933)  
 Bunak (Capell 1976a)  
 Dengka (Haaksma 1933)  
 Fataluku (Capell 1976a)  
 Galoli (Haaksma 1933)  
 Kisar (Haaksma 1933)  
 Kolobafo (Haaksma 1933)  
 Kupang (Haaksma 1933; Capell 1976a)  
 Leti (Haaksma 1933)  
 Makassar (Capell 1976a)  
 Oirata (Capell 1976a)  
 Roma (Haaksma 1933)  
 Ringgou (Haaksma 1933)  
 Roti (Haaksma 1933; Capell 1976a)  
 Termanu (Haaksma 1933)  
 Tettum (Haaksma 1933)  
 Ti (Haaksma 1933)  
 Unale (Haaksma 1933)  
 (Seram)  
 Amahei (Haaksma 1933; Capell 1976a)  
 Liambata (Haaksma 1933)  
 Lisabata (Haaksma 1933)  
 Makabala (Haaksma 1933)  
 Manusela (Haaksma 1933)  
 Paulohi (Haaksma 1933)  
 Seleman (Haaksma 1933)  
 Wahinama (Haaksma 1933)  
 Wemale (Haaksma 1933; Capell 1976a)  
 Wolu (Haaksma 1933)  
 (Ambon)  
 Ambonese (Haaksma 1933)  
 (Tanimbar)  
 Fordat (Haaksma 1933)  
 Jamden (Haaksma 1933)  
 Kei (Haaksma 1933)  
 (Flores-Savu)  
 Hawu (Capell 1976a)  
 Manggarai (Capell 1976a)  
 Ngad'a (Capell 1976a)

\* Old language



Sikka (Haaksma 1933; Capell 1976a)  
 Solor (Haaksma 1933; Capell 1976a)  
 (Bima-Sumba)  
 Bima (Haaksma 1933)  
 Sumba (Haaksma 1933)

3.2. West Irian

Ansus (Anceaux 1961)  
 Arguni (Cowan 1953)  
 Kaitero (Irahitu) (Cowan 1953; Anceaux 1961)  
 Papuma (Anceaux 1961)  
 Pom (Anceaux 1961)  
 Sekar (Cowan 1953)  
 Serui-Laut (Anceaux 1961)  
 Wandamen (Cowan 1953; Anceaux 1961)  
 Windesi, Vogelkop (Cowan 1953)  
 (South Halmahera)  
 Buli (Haaksma 1933; Maan 1951)  
 Patani (Haaksma 1933)  
 Weda (Haaksma 1933)

4. Melanesian

4.1. Papuan Melanesian

(Sepik District)  
 Bam (Laycock 1976)  
 Kaiep (Laycock 1976)  
 Kis (Laycock 1976)  
 (Madang District)  
 Arop (Z'graggen 1976)  
 Bilbil (Z'graggen 1976)  
 Biliau (Z'graggen 1976)  
 Gedaged (Z'graggen 1976)  
 Ham (Z'graggen 1976)  
 Malalamai (Z'graggen 1976)  
 Manam (Z'graggen 1976; Capell & Laycock 1976)  
 Matukar (Z'graggen 1976)  
 Medebur (Z'graggen 1976; Laycock 1976)  
 Megiar (Z'graggen 1976)  
 Mindiri (Z'graggen 1976)  
 Roindji (Z'graggen 1976)  
 Sepa (Z'graggen 1976; Laycock 1976)  
 Tikia (Z'graggen 1976)  
 Wab (Z'graggen 1976)  
 (Central)  
 Aroma (Dutton 1976)  
 Balawaia (Kolia 1976)  
 Bina (Dutton 1976)  
 Kabadi (Gadabi) (Dutton 1976)  
 Keapara (Dutton 1976)

Kuni (Dutton 1976)  
 Magori (Dutton 1976)  
 Motu (Lawes 1979 (1896); Dutton 1976)  
 Oyan (Capell 1976a)  
 Pokau (Lala) (Dutton 1976)  
 Sinagoro (Dutton 1976)  
 Yoba (Dutton 1976)  
 (Milne Bay)  
 Anuki (Capell 1976a)  
 Are (Lithgow 1976)  
 Boanaki (Lithgow 1976)  
 Bohutu (Lithgow 1976)  
 Bosilewa (Lithgow 1976)  
 Budibad (Lithgow 1976)  
 Bwaidoga (Lithgow 1976)  
 Dawawa (Lithgow 1976)  
 Dobu (Capell 1971b; Lithgow 1976)  
 Duau (Lithgow 1976)  
 Gadaisu (Dutton 1976)  
 Galeya (Lithgow 1976)  
 Garuwahi (Lithgow 1976)  
 Kakabai (Lithgow 1976)  
 Kilivila (Lithgow 1976)  
 Kukuya (Lithgow 1976)  
 Kurada (Lithgow 1976)  
 Misima (Lithgow 1976)  
 Molima (Lithgow 1976)  
 Mukawa (Capell 1976a)  
 Mwatebu (Lithgow 1976)  
 Nimowa (Lithgow 1976)  
 Paiwa (Gapapaiwa) (Capell 1976a; Lithgow 1976)  
 Panayati (Dutton 1976; Capell 1976a)  
 Rogea (Dutton 1976)  
 Sabari (Dutton 1976; Capell 1976a)  
 Sinaki (Lithgow 1976)  
 Suau (Dutton 1976; Lithgow 1976)  
 Sud-Est (Dutton 1976; Lithgow 1976)  
 Tawala (Lithgow 1976)  
 Tubetube (Dutton 1976; Lithgow 1976)  
 Wagawaga (Lithgow 1976)  
 Wataluma (Lithgow 1976)  
 Wedau (Capell 1976a; Lithgow 1976)  
 (Adzera)  
 Adzera (Holzknecht 1973)  
 (New Britain)  
 Kandoka-Lusi (Kaliai-Kove) (Counts 1969)  
 Ubir (Capell 1976a)

4.2. Melanesian  
 (New Hebrides)

- Baki (Ray 1926)  
Tasiko (Ray 1926)  
(Espiritu Santo)  
Tasiriki (Ray 1926)  
(Solomon)  
Bambatana (1) (Babatana) (Ray 1926;  
Capell 1976b)  
Bush (Ray 1926)  
Kia (Ray 1926; Capell 1976b)  
Halia (Capell 1976b)  
Mono (Ray 1926; Capell 1976b)  
Roviana (Ray 1926; Capell 1976b)  
Teop (Capell 1976b)  
Varise (Capell 1976b)  
(New Irelands)  
Buka (Capell 1971b)
- 4.3. Micronesian  
Kusaiean (Lee 1975)  
Marshallese (Bender, 1969)  
Mortlock Is. (Ray 1919–1920)  
Puluwat (Elbert 1974)  
Ulithian (Sohn & Bender 1973)  
Woleaian (Sohn 1975)
- (8Dns)
2. Hesperonesian  
2.1. Philippine  
Sangil, Sarangani Is. (Reid 1971)
3. East Indonesian  
3.2. West Irian  
Amber (Northern Waigeo) (Cowan 1953)  
Biak (Anceaux 1961)  
Kawit (Cowan 1953)  
Kurudu (Anceaux 1961)  
Maja (Cowan 1953)  
Mor (Cowan 1953; Anceaux 1961)  
Windesi, Wandamen Bay (Cowan 1953,  
1955–1956; Anceaux 1961)
4. Melanesian  
4.2. Melanesian  
(Loyalty)  
Lifu (Ray 1926; Leenhardt 1946)  
Iai (Ray 1919–1920, 1926; Leenhardt 1946)  
Nengone (Ray 1926; Leenhardt 1946)  
(New Hebrides)  
Aulua (Ray 1926)  
Eromanga (Ray 1926)
- Makura (Ray 1926)  
Meaun (Ray 1926)  
Nguna (Ray 1926; Schütz 1969)  
Tongoa (Ray 1919–1920)  
Uripiv (Ray 1926)  
(Santa Crus)  
Utupua (Ray 1919–1920, 1926)  
Vanikolo (Ray 1926)  
(Solomon)  
Arosi (Capell 1971a)  
Bambatana (2) (Ray 1926)  
Bugoto (Ray 1919–1920)  
Fiu (Ray 1926)  
Malu (Ray 1926)  
Wango (Ray 1919–1920)  
(New Caledonia)  
'aekè (Leenhardt 1946)  
Ajie (Leenhardt 1946)  
Anesù (Leenhardt 1946)  
'aragurè (Leenhardt 1946)  
Arhâ (Leenhardt 1946)  
Aro (Leenhardt 1946)  
'avekè (Leenhardt 1946)  
Belep (Nenema) (Leenhardt 1946)  
Boewe (Leenhardt 1946)  
Camuki (Leenhardt 1946)  
Ciri (Leenhardt 1946)  
Dubea (Leenhardt 1946)  
Jawe (Leenhardt 1946)  
Kapone (Leenhardt 1946)  
Koumac (Nenema) (Leenhardt 1946)  
'moaekè (Leenhardt 1946)  
'moavekè (Leenhardt 1946)  
Moenebeng (Leenhardt 1946)  
Neku (Leenhardt 1946)  
Nëmi (Leenhardt 1946)  
Ñua (Leenhardt 1946)  
Pati (Leenhardt 1946)  
Pinje (Leenhardt 1946)  
Poi (Leenhardt 1946)  
Poamei (Leenhardt 1946)  
Poapoâ (Leenhardt 1946)  
Sirhë (Leenhardt 1946)  
Wamoang (Leenhardt 1946)  
Yalasu (Nenema) (Leenhardt 1946)
- 4.3. Micronesian  
Mokilese (Harrison 1976)  
Yapese (Jensen 1977)

5. Polynesian

Hawaiian (Andrews 1978 (1854); Elbert 1979)  
 Horn Is. (Ray 1919-1920)  
 Mae (Ray 1919-1920)  
 Maori (Ray 1919-1920; Ngata 1979(1939))  
 Mele (Ray 1919-1920)  
 Mo-iki (Ray 1919-1920)  
 Nukuoro (Ray 1919-1920)  
 Pilheni (Ray 1919-1920)  
 Rotuman (Churchward 1978 (1940))  
 Samoan (Neffgen 1978(1918); Ray 1919-1920; Marsack 1962; Brichoux 1977)  
 Sikiana (Ray 1919-1920)  
 Tonga (Ray 1919-1920)  
 Uvea (Ray 1919-1920)  
 Wallis Is. (Ray 1919-1920)

(11Dns)

3. East Indonesian

3.2. West Irian

Ambai (Anceaux 1961)  
 Waropen (Anceaux 1961)

4. Melanesian

4.2. Melanesian

(New Hebrides)  
 Ambrym (Ray 1926; Paton 1971)  
 Kwamera (Ray 1919-1920, 1926)  
 Sakao (Guy 1974)  
 Tolomako (Guy 1974)  
 (Esperitu Santo)  
 Lang. of SS. Philip. & James (Ray 1926)  
 Nogugu (Ray 1926)  
 (Santa Crus)  
 Nifilole (Nifiloli) (Ray 1919-1920)  
 (Solomon)  
 Hanahan (Ray 1926)  
 Sa'a (Saa) (Ray 1919-1920)  
 (New Irelands)  
 Mira, Eastern (Capell 1971)

5. Polynesian

Aniwa (Ray 1919-1920)  
 Futuna (Ray 1919-1920)

(6Ds)

2. Hesperonesian

2.1. Philippine  
 Agta (Reid 1971)

Atta, Pamplona (Reid 1971)  
 Balangaw (Reid 1971)  
 Batak, Palawan (Reid 1971)  
 Bilaan, Koronadal (Reid 1971)  
 Bilaan, Sarangani (Reid 1971)  
 Binukid (Reid 1971)  
 Bontok, Guinaang (Reid 1971)  
 Dumagat, Casiguran (Reid 1971; Headland & Healey 1974)  
 Hanunóo (Conklin 1962)  
 Ifugao, Amganad (Reid 1971)  
 Ifugao, Batad (Reid 1971)  
 Ifuago, Bayninan (Reid 1971)  
 Ilocano (Thomas 1955)  
 Inibaloi (Reid 1971)  
 Isneg (Reid 1971)  
 Itneg, Binongan (Reid 1971)  
 Kalagan (Reid 1971)  
 Kalinga, Guinaang (Reid 1971)  
 Kallahan, Kayapa Proper (Reid 1971)  
 Kallahan, Keleyqiq (Reid 1971)  
 Kankanay, Northern (Reid 1971)  
 Manobo, Agusan (Weaver & Weaver 1969)  
 Manobo, Dibabawon (Reid 1971)  
 Manobo, Ilianen (Brichoux & Brichoux 1977)  
 Manobo, Sarangani (Reid 1971)  
 Manobo, Western Bukidnon (Reid 1971)  
 Maranao (McKaughan 1959)  
 Pangasinan (Benton 1971)  
 Samal (Reid 1971)  
 Sambal, Botolan (Reid 1971)  
 Sangir (Reid 1971)  
 Tagabili (Reid 1971)  
 Tagalog (Blake 1967(1925); Schachter 1972)  
 Tagbanwa, Aborlan (Reid 1971)  
 Tausug (Reid 1971)  
 Yakan (Hooker 1975)  
 (Borneo)  
 Murut (Prentice 1971)

4. Melanesian

4.1. Papuan Melanesian

(Milne Bay District)  
 Muyuw (Lithgow 1976)

Derivative Types

(3ND-A)

1. Formosan  
 Yami (Abe 1930)

(4Dns-pl)

2.3. West Indonesian  
Enggano (Haaksma 1933)

(4Dns-A)

2.2. C. & S. Celebes  
Bugis (Haaksma 1933)  
Makassar (Haaksma 1933)

2.3. West Indonesian  
(Sumatra)  
Lampung (Haaksma 1933)  
Minagkabau (Haaksma 1933)

4.1. Papuan Melanesian  
(Central)  
Mekeo (Dutton 1976)

(4Dns-L)

4.1. Papuan Melanesian  
(Central)  
Ouma (Dutton 1976)

(4Dns-O)

3.2. West Irian  
Bintuni (Cowan 1953)

(6Dns-pl-A)

3.2. West Irian  
Wamesa (Cowan 1953)

(6Dns-O-L)

3.2. West Irian  
Mosana (Cowan 1953)

(6Dns-O-du)

3.2. West Irian  
Banlol (Cowan 1953)

(6Dns-O-O')

3.2. West Irian  
Batanta (Cowan 1953)

(7Dns-du)

4.2. Melanesian  
(New Hebrides)  
Kuliviu (Ray 1926)  
Senesip (Ray 1926)

(7Dns-pl)

3.2. West Irian  
Nufoor (Haaksma 1933)

(7Dns-du/L)

3.1. Moluccan  
(Seram)  
Uhei-Kachlaklin (Haaksma 1933)

(7Dns-A)

2.3. West Indonesian  
(Borneo)  
Busang (Dayak) (Haaksma 1933)

(9Dns-D-A)

4.2. Melanesian  
(New Hebrides)  
Paama (Ray 1926)

## I. 2. Papuan

(2ND)

7. Sepik-Ramu Phylum  
Watam (Capell 1951-52)

(4ND)

1. Trans-New Guinea Phylum  
(Angan)  
Obi (Lloyd 1975)  
(Border)  
Manem (Voorhoeve 1971)  
Waris (Voorhoeve 1971)  
(Central & South-East)  
Barai (Dutton 1969; Olson 1975)  
Daga (Murane 1974)  
Koiari (Dutton 1969)

Koita (Dutton 1969, 1975)  
 Managalasi (Dutton 1969)  
 Ömie (Dutton 1969; Austing & Upia 1975)  
 (Central & South New Guinea)  
 Aghu (Drabbe 1957, 1959)  
 Asmat (Drabbe 1963; Voorhoeve 1965)  
 Jénimu (Drabbe 1959)  
 Kaeti (Drabbe 1959; Voorhoeve 1971)  
 Kaigir (Voorhoeve 1971)  
 Ok (Franklin & Voorhoeve 1975)  
 Pisa (Drabbe 1959; Voorhoeve 1971)  
 Sawuy (Voorhoeve 1971)  
 Syiagha (Drabbe 1959; Voorhoeve 1971)  
 Telefol (Healey 1965)  
 Tifal (Franklin & Voorhoeve 1975)  
 Wambon (Drabbe 1959)  
 (Dani-Kwerba)  
 Dani (Greenberg 1971)  
 (Inland Gulf)  
 Minanibai (Franklin 1975)  
 (Kayagar)  
 Kaugat (Voorhoeve 1971)  
 Tamagário (Voorhoeve 1971)  
 (Mairasi-Tanah Merah)  
 Faranyao (Cowan 1953)  
 (Senagi)  
 Dera (Voorhoeve 1971)  
 (South Bird's Head)  
 Konda (Cowan 1953)  
 (Teberan)  
 Daribi (MacDonald 1975)  
 Polopa (MacDonald 1975)  
 (West Bomberai)  
 Kapaur (Cowan 1953)

2. West Papuan Phylum

Ajamaru (Cowan 1953)  
 Kalabra (Cowan 1953)

5. Sko Phylum

Sko (Voorhoeve 1971)

7. Sepik-Ramu Phylum

Annaberg (Capell 1951-52)  
 Vanémbere (Capell 1951-52)

(6ND)

1. Trans-New Guinea Phylum

(Angan)  
 Ampale (Safeyoka) (Lloyd 1975)

Angaataha (Lloyd 1975)  
 Ankave (Lloyd 1975)  
 Baruya (Lloyd 1969, 1975)  
 Ivori (Lloyd 1975)  
 Kapau (Lloyd 1975)  
 Kawacha (Lloyd 1975)  
 Lohiki (Lloyd 1975)  
 Menya (Lloyd 1975)  
 Yogwoia (Lloyd 1975)  
 (Central & South-East)  
 Magi (Thomson 1975)  
 Yareba (Weimer & Weimer 1975)  
 (East New Guinea Highlands)  
 Awa (Loving & McKaughan 1973)  
 Fore (Scott 1973)  
 Kanite (Yate D.) (Greenberg 1971)  
 Kewe (Kewa) (Franklin 1971; Franklin &  
 Voorhoeve 1975)  
 Kuman (Chimbu D.) (Trefry 1969)  
 Tairora (Vincent 1973)  
 Usarufa (Auyana D.) (Bee 1973)  
 Wiru (Franklin 1975)  
 Yagaria (Renck 1975)  
 (Finisterre-Huon)  
 Deduae (Greenberg 1971)  
 Kewieng (McElhanon 1973)  
 Kovai (McElhanon 1973)  
 Kube (McElhanon 1973)  
 Magobineng (Greenberg 1971)  
 Nabak (McElhanon 1973)  
 Ono (McElhanon 1973)  
 Rawa (McElhanon 1973)  
 Selepet (McElhanon 1972, 1973)  
 Suroi (Claassen & McElhanon 1970)  
 Uri (McElhanon 1973)  
 Wantoat (Claassen & McElhanon 1970;  
 McElhanon 1973)  
 (Inlands Gulf)  
 Ipiko (Franklin 1975)  
 Tao-Suamoto (Franklin 1975; Reesink 1976)  
 (Isumrud)  
 Bunabun (Capell 1951-52)  
 (Kutubuan)  
 Fasu (Franklin & Voorhoeve 1975)  
 Foe (Franklin & Voorhoeve 1975)  
 (Pihom)  
 Ulingan (Capell 1951-52)  
 (Turama-Kikorian)  
 Kairi (Porome) (Franklin 1975)

6. Torricelli Phylum  
Lilau (Capell 1951-52)

7. Sepik-Ramu Phylum  
Banara (Capell 1951-52)  
Bosgun (Capell 1951-52)  
Gamei (Capell 1951-52)  
Makarub (Capell 1951-52)  
Murusapa (Capell 1951-52)  
Nonumbo (Capell 1951-52)  
Tanggum (Capell 1951-52)

8. East Papuan Phylum  
Yeletnye (Yele) (Henderson 1975)

9. Isolates  
Kibiri (Franklin 1975)  
Pawaian (Trefry 1969)

(8ND)

1. Trans-New Guinea Phylum  
(Trans-Fry)  
Inland Kivai (Wurm 1975)

(5Dns)

1. Trans-New Guinea Phylum  
(Central & South-east)  
Onjob (Capell 1976a)  
(Sentani)  
Sentani (Cowan 1965)  
(South Bird's Head)  
Puragi (Cowan 1953)

2. West Papuan Phylum  
Abui (Capell 1976a)  
Galela (Baarda 1903)  
Tabaru (Fortgens 1928)  
Tobelo (Huetting 1936)

4. Geelvink Bay Phylum  
Mantembu (Yava) (Cowan 1953)

9. Isolates  
Maisin (Capell 1976a)

(8Dns)

1. Trans-New Guinea Phylum  
(Binandere)

Korafe (Farr & Farr 1975)  
Suena (Wilson 1969)  
(East New Guinea Highlands)  
Wahgi (Phillips 1976)  
(Finisterre-Huon)  
Kâte (Forchheimer 1951)  
(Nimboran)  
Nimboran (Anceaux 1965)  
(Rai Coast)  
Bongu (Forchheimer 1951)

2. West Papuan Phylum  
Tehit (Flassy & Stokhof 1979)

3. East Bird's Head Phylum  
Manikion (Cowan 1953)

8. East Papan Phylum  
Savosavo (Capell 1969)

(6Ds)

1. Trans-New Guinea Phylum  
(Binandere)  
Orokaiva (Healey, Isoroembo & Chittleborough 1969)  
(Central & South-East)  
Mountain Koiari (Garland & Garland 1975)  
(West Bomberai)  
Karas (Cowan 1953)

8. East Papuan Phylum  
Malo (Wurm 1969, 1972, 1976)  
Nanggu (Wurm 1969, 1972, 1976)  
Nemboi (Wurm 1969, 1972, 1976)  
Nooli (Wurm 1969, 1972, 1976)

(9Ds)

8. East Papuan Phylum  
Reefs (Wurm 1969, 1972, 1976)

#### Derivative Typers

(3ND-A)

1. Trans-New Guinea Phylum  
(Border)  
Awyi (Voorhoeve 1971)

(5ND-L)

1. Trans-New Guinea Phylum  
(Central & South New Guinea)  
Kamoro (Drabbe 1953)

(5ND-A)

1. Trans-New Guinea Phylum  
(Angan)  
Simbari (Lloyd 1975)

2. West Papuan Phylum  
Karôn (Cowan 1953)

(5ND-du)

7. Sepik-Ramu Phylum  
Nubia (Capell 1951-52)

(4Dns-O)

1. Trans-New Guinea Phylum  
(West Bird's Head)  
Waipu (Yafpan) (Cowan 1953)  
(West Bomberai)  
Patimuni (Baham) (Cowan 1953)

3. East Bird's Head Phylum  
Mantion (Cowan 1953)

(7Dns-du)

1. Trans-New Guinea Phylum  
(Eleman)  
Orokolo (Brown 1975)  
Sepoe (Toaripi D.) (Brown 1975)  
Toaripi (Brown 1975)

2. West Papuan Phylum  
Madik (Cowan 1953)  
Moraid (Cowan 1953)

(7Dns-pl)

1. Trans-New Guinea Phylum  
(Central & South New Guinea)  
Samo (Nomad D.) (Shaw 1975)
3. East Bird's Head Phylum  
Mansibabêr (Meax) (Cowan 1953)

(7Dns-A)

1. Trans-New Guinea Phylum  
(South Bird's Head)  
Kampong Baru (Cowan 1953)  
Yahadian (Jahadian) (Cowan 1953)  
(West Bird's Head)  
Moi (Cowan 1953)

#### Duality Dominant Types

1. Trans-New Guinea Phylum  
(East New Guinea Highlands)  
Salt-Yui (Chimbu D.) (Irwin 1974)

#### **I. 3. Australian**

(4ND)

8. Iwaidjan F.  
Amarag (Capell 1942-43)

20. Pama-Nyungan F.  
(Queensland)  
Gidabul (Gidabal) (Geytenbeek 1964)

(6ND)

6. Kakadjuan F.  
Gagadu (Kakadu) (Capell 1940, 1941-42)  
Gunu (Wurm & Hercus 1976)

9. Gunwingguan F.  
Gunbalang (Harris 1969)

20. Pama-Nyungan F.  
(Western)  
Pitjantjatjara (Trudinger 1943; Love 1945-46)  
(Northern)  
Andakerebina (Strehlow 1942-43)  
Aranda, Eastern (Strehlow 1942-43)  
Aranda, Northern (Strehlow 1942-43)  
Aranda, Southern (Strehlow 1942-43)  
Aranda, Western (Strehlow 1942-43)

(5Dns)

2. Bunaban F.  
Bunaban (Capell 1940)  
Gunian (Capell 1940)

8. Iwaidjan F.  
Margu (Capell 1942-43)  
Maung (Hinch 1964; Capell & Hinch 1970)

12. Gunavudjian F.  
Gunavidji (Capell 1940, 1942-43)

20. Pama-Nyungan F.  
(Northern)  
Djimba (Capell 1942-43)  
Wadaman (Capell 1967)

(8Dns)

1. Nyulnyulan F.  
Warra (Capell 1940)

5. Daly F.  
Ami (Tryon 1974)  
Kamor (Tryon 1974)  
Manda (Tryon 1974)  
Maramanandji (Tryon 1974)  
Maranunggu (Maranungku) (Tryon 1970,  
1974)  
Marengar (Tryon 1974)  
Marithiel (Tryon 1974)  
Matgala (Tryon 1974)  
Mullukmulluk (Tryon 1974)  
Mgangikurrungurr (Tryon 1974)  
Ngengomeri (Tryon 1974)  
Pungupungu (Tryon 1974)  
Tyeraity (Tryon 1974)  
Wadjiginy (Tryon 1974)  
Wogaidj (Capell 1940)  
Yunggor (Tryon 1974)

9. Gunwingguan F.  
Buan (Capell 1942-43)  
Gundangbon (Capell 1942-43)  
Ngálagan (Capell 1941-42)  
Rainbarngo (Capell 1942-43)  
Ngandi (Capell 1941-42)

11. Nagaran F.  
Nagara (Capell 1942-43)

13. Bureran F.  
Gudjalavia (Capell 1941-42)  
Gunaidbe (Capell 1941-42)  
Gungorogone (Gorogone) (Capell 1942-43)

14. Mangerian F.  
Mangeri (Capell 1941-42)  
Uningangk (Urningangk) (Capell 1941-42)

16. Maran F.  
Alawa (Capell 1942-43; Sharpe 1972)  
Mara (Capell 1942-43)  
Wandarang (Capell 1941-42)

17. Nunggubuyan F.  
Nunggubuyu (Capell 1941-42)

18. Karawan F.  
Karawa (Garawa) (Furby 1972)

19. Yanyula F. (Anyula F.)  
Yanyula (Anyula) (Capell 1941-42; Kirton  
1964, 1971)

20. Pama-Nyungan  
(Northern)  
Dalwongo (Capell 1942-43)  
Djadjala (Capell 1967)  
Djambbarwingu (Capell 1942-43)  
Djaru (Capell 1940)  
Dyirringan (Forchheimer 1951)  
Galbu (Capell 1942-43)  
Garadjeri (Capell 1940)  
Gobabwingu (Capell 1942-43)  
Golba (Capell 1942-43)  
Gomaidj (Capell 1942-43)  
Jajawurung (Capell 1967)  
Mangala (Mangarla) (Capell 1940)  
Manggalili (Capell 1942-43)  
Mararba (Capell 1942-43)  
Mudbura (Capell 1940)  
Ridarngo (Capell 1942-43)  
Riraidjango (Capell 1942-43)  
Saibalgai (Forchheimer 1951)  
Wan'guri (Capell 1942-43)  
Warameri (Capell 1942-43)  
Wolmeri (Capell 1940)  
Yanango (Capell 1942-43)  
(Queensland)  
Kunjen (Sommer & Sommer 1967)  
Lamalama (Laycock 1969)  
Lardil (Ladil) (Capell 1942-43)  
Parimankutinma (Laycock 1969)  
(New South Wales)  
Jajala (Capell 1967)  
Kamilaroi (Forchheimer 1951)



(South)  
Diyari (Austin 1981)

(11Dns)

3. Wororan F.  
Ngarinyin (Coate & Oates 1970)  
Worora (Love 1945-46)

15. Andilyaugwan F.  
Andilyaugwa (Capell 1941-42)

20. Pama-Nyungan F.  
Kalkatungu (Blake 1969)

(6Ds)

1. Nyulnyulan F.  
Njigina (Capell 1940)

5. Daly F.  
Malakmalak (Brik 1976)  
Melville (Capell 1940)

7. Tiwian F.  
Tiwi (Osborne 1974)

(9Ds)

13. Bureran F.  
Bureran (Glasgow 1964)

#### Derivative Types

(5ND-A)

20. Pama-Nyungan F.  
Adnjamathanha (Schebeck 1973)  
Yidin (Dixon 1977)

(6Dns-du-A)

1. Nyulnyulan F.  
Nyulnyul (Forchheimer 1951)

(7Dns-du)

20. Pama-Nyungan F.  
Gugu-Yalanji (Hershberger 1964; Oates &  
Oates 1964)

(7Dns-pl)

20. Pama-Nyungan F.  
Gugada (Platt 1972)  
Waramunga (Capell 1952-53)

(7Dns-du/L)

10. Mangarai F.  
Mangarai (Capell 1940)

(7Dns-L)

20. Pama-Nyungan F.  
Wik-Munkan (Godfrey 1964; Godfrey &  
Kerr 1964)

(9Dns-tr-pl)

4. Garaman F.  
Garama (Capell 1940)

#### **I. 4. Andaman**

(4ND)

Balawa (Temple 1903)  
Bea (Temple 1903)  
Bojigyab (Temple 1903)  
Tawai (Tawara) (Temple 1903)

#### **II. EURASIAN**

##### **II. 1. Austro-Asiatic**

(4ND)

1. Mon-Khmer  
Boloven (Pinnow 1965)  
Khasi (Forchheimer 1951)  
Mon (Pinnow 1965; Sakamoto 1981)

3. Munda  
Gasaba (Grierson 1973(1906) )  
Gutob (Pinnow 1966(1960) )

(6ND)

3. Munda  
Juang (Mahapatra 1976; Pinnow 1966  
(1960))

(5Dns)

1. Mon-Khmer  
Chrau (Thomas 1971)  
Vietnamese (Thompson 1965)

3. Munda  
Pareng (Pinnow 1966(1960))  
Sora (Pinnow 1966(1960))

(8Dns)

1. Mon-Khmer  
Bahnar (Pinnow 1965)  
Katu (Sakamoto 1981)  
Palaung (Berling 1970)
2. Aslian  
Temiar (Benjamin 1976)
3. Munda  
Kharia (Grierson 1973 (1906); Pinnow 1966 (1960); Mahapatra 1976)  
Kherwari (Pinnow 1966(1960))  
Kurku (Grierson 1973 (1906); Pinnow 1966 (1960))  
Mundari (Grierson 1973 (1906); Pinnow 1966 (1960))  
Santali (Grierson 1973 (1906); Pinnow 1966 (1960))
4. Nicobarese  
Car (Pinnow 1965)  
Nancowry (Pinnow 1965)

#### Derivative Types

(3ND-A)

1. Mon-Khmer  
Khmer (Jacob 1968; Sakamoto 1981)

(7Dns-A)

1. Mon-Khmer  
Sedang (Sakamoto 1981)

## II. 2. Dravidian

(4ND)

- Kanarese (Greirson 1974(1906) )

(5Dns)

- Koya (Tyler 1969)  
Kurukh (Greirson 1974(1906) )  
Malayalan (Greirson 1974 (1906) )  
Tamil (Greirson 1974(1906) )  
Telugu (Caldwell 1974(1913) )

## II. 3. Sino-Tibetan

(4ND)

1. Tibeto-Burman  
(Tibetan)  
Amdo (Bauman 1975)  
Bhramu (Bauman 1975)  
Chaudangsi (Bauman 1975)  
Chhingtang (Bauman 1975)  
Chourasya (Bauman 1975)  
Dé-jong Ké (Bauman 1975)  
Gurung (Bauman 1975)  
Kulung (Bauman 1975)  
Lahul (Bauman 1975)  
Magar (Bauman 1975)  
Pabri (Bauman 1975)  
Rangkas (Bauman 1975)  
(Bodo-Naga)  
Banpara (Bauman 1975)  
Bodo (Bauman 1975)  
Chutiya (Bauman 1975)  
Digaru (Bauman 1975)  
Dimasa (Bauman 1975)  
Gallong (Bauman 1975)  
Miju (Bauman 1975)  
Miri (Bauman 1975)  
Moshang (Bauman 1975)  
Nansangia (Bauman 1975)  
Nocte (Bauman 1975)  
Tableng (Bauman 1975)  
Tamlu (Bauman 1975)  
(Naga-Chin)  
Ao (Bauman 1975)  
Arung (Bauman 1975)  
Dhimal (Bauman 1975)  
Empeo (Bauman 1975)  
Lhota (Bauman 1975)  
Lushei (Bauman 1975)  
Maring (Bauman 1975)  
Meithei (Bauman 1975)  
Sema (Bauman 1975)  
Tangkhul (Bauman 1975)

(Lolo-Burmese)

Aka (Bauman 1975)

Burmese (Bauman 1975)

Trung (Bauman 1975)

2. Kam-Tai

Lao (Hospitalier 1937)

(6ND)

1. Tibeto-Burman

(Tibetan)

Chepang (Bauman 1975)

Kham (Bauman 1975)

Lepcha (Mainwaring 1971(1876); Bauman 1975)

Sunwar (Bauman 1975)

Thaksya (Bauman 1975)

(Naga-Chin)

Sho (Bauman 1975)

(Lolo-Burmese)

Bisu (Nisida 1973)

Kachin (Bauman 1975)

Lahu (Matisoff 1973; Bauman 1975)

Maru (Bauman 1975)

Rawang (Bauman 1975)

(5Dns)

1. Tibeto-Burman

(Tibetan)

Balti (Bauman 1975)

Nachhereng (Bauman 1975)

Newari (Bauman 1975)

Purik (Bailey 1975(1915); Bauman 1975)

Rodong (Bauman 1975)

Taman (Bauman 1975)

Thulung (Bauman 1975)

Waling (Bauman 1975)

(Bodo-Naga)

Garó (Bauman 1975)

(Naga-Chin)

Angami (Bauman 1975)

Chang (Bauman 1975)

Mikir (Bauman 1975)

Tiddim (Bauman 1975)

(Lolo-Burmese)

Lisu (Bauman 1975)

Sani (Bauman 1975)

2. Kam-Tai

Jui (喻 1980)

Kam (梁 1980a)

Kjam (王, 郑 1980)

Li (Lai) (欧阳, 郑 1980)

Ma:una:n (Na:n) (梁 1980b)

Sui (张 1980)

3. Chinese

Chinese (Yuen 1970)

(8Dns)

1. Tibeto-Burman

(Tibetan)

Bahing (Bauman 1975)

Bunan (Bauman 1975)

Ch'iang (孙 1981)

Dumi (Bauman 1975)

Jyarung (Bauman 1975)

Khaling (Bauman 1975)

Kanauri (Bauman 1975)

Lohorong (Bauman 1975)

Limbu (Bauman 1975)

Manchati (Bauman 1975)

Vayu (Bauman 1975)

2. Kam-Tai

Chuang (韦, 覃 1980)

Tai-Lu (喻, 罗 1980)

Derivative Types

(4Dns-L)

Yakha (Tibetan) (Bauman 1975)

(7Dns-pl)

Lower Kanauri (Tibetan) (Bailey 1975 (1915))

Duality Dominant Type

Chitkhuli (Tibetan) (Bailey 1975(1915))

## II. 4. Ural-Altaiic

### 1. Uralic

(4ND)

Cheremis (Collinder 1957)  
Estonian (Collinder 1957)  
Finnish, Suomi (Collinder 1957)  
Hungarian (Collinder 1957)  
Mordvin (Collinder 1957)  
Votyak (Collinder 1957)  
Ziryene (Collinder 1957)

(6ND)

Kamassian (Collinder 1957)  
Lappish (Collinder 1957)  
Ostyak (Collinder 1957)  
Selkup (Collinder 1957)  
Yurak (Collinder 1957)

### 2. Altaic

(4ND)

Chagatay (Eckmann 1966)  
Korean (Ramstedt 1939)  
Mongour (Schröder 1964)  
Nanai (Menges 1968)  
Oirat (Aalto 1964)  
Turkish, Osmanli (Forchheimer 1951)  
Turkmen (Hanser 1977)

(5Dns)

Dagur (Poppe 1964)  
Evenk (Menges 1968; Comrie 1981)  
Kalmük (Posch 1964b)  
Khalkha (Posch 1964a)  
Lamut (Menges 1968)  
Manchu (Möllendorff 1892)  
Moghol (Pritsak 1964)  
Mongolian, Ordos (Forchheimer 1951)  
Udihe (Menges 1968)

## II. 5. Caucasian

(4ND)

Georgian (Shimomiya 1981)

## II. 6. Indo-European

(4ND)

### 1. Indo-Iranian

Assamese (Das Gupta n.d.)  
Bahramgala (Bailey 1975(1915))  
Bakhli Khad (Bailey 1975(1915))  
Barari (Bailey 1975(1915))  
Bengali (Beames 1970(cf 18171))  
Bilaspuri (Bailey 1975(1915))  
Bishnupriyas (Sinha 1981)  
Bishshau (Bailey 1975(1915))  
Braj (Grierson 1968(1908))  
Bundeli (Grierson 1968(1908))  
Chitpavani (Grierson 1968(1905))  
Dami (Bailey 1975(1915).)  
Gipsy (Beames 1970(cf 1871))  
Gurkhali (Meerendonk 1971(1949))  
Halbi (Grierson 1968(1905))  
Handuri (Bailey 1975(1915))  
Hindi (Beames 1970(cf 1871); Das Gupta 1981)  
Hindustani (Saihgale 1945(1917))  
Kagani (Bailey 1975(1915))  
Koci (Bailey 1975(1915))  
Koli (Grierson 1968(1905))  
Konkani (Grierson 1968(1905))  
Marathi (Beames 1970(cf 1871); Grierson 1968(1905))  
Nagpuri (Grierson 1968(1905))  
Nepali (Beames 1970(cf 1871))  
Oriya (Beames 1970(cf 1871); Das Gupta 1980)  
Persian (Buchler & Freeze 1966)  
Punjabi (Beames 1970(cf 1871))  
Rajasthani (Grierson 1968(1908))  
Sindhi (Beames 1970(cf 1871))  
Siraiki (Shackle 1976)  
Suket Siraji (Bailey 1975(1915))  
Suketi, Eastern (Forchheimer 1951; Bailey 1975(1915))  
Varhadi Kundi (Grierson 1968(1905))

### 2. Germanic

Dutch (n.d.)  
German (n.d.)  
German, Old Highland\* (Prokosch 1939; Brugmann 1972(cf 1892))

### 3. Italic

French (Buchler & Freeze 1966)

Italian (n.d.)

Latin\* (Forchheimer 1951)

Portuguese (Buchler & Freeze 1966)

Spanish (n.d.)

4. Slavic

Bulgarian (De Bray 1969)

Byelorussian (De Bray 1969)

Czech (De Bray 1969)

Macedonian (De Bray 1969)

Polish (De Bray 1969)

Russian (De Bray 1969)

Serbo-Croatian (De Bray 1969: Grozdić 1969)

Slovak (De Bray 1969)

Ukrainian (De Bray 1969)

(6ND)

1. Indo-Iranian

Sanskrit\* (Whitney 1973(1889))

2. Germanic

English, Old\* (Prokosch 1939)

Gothic\* (Prokosch 1939; Brugmann 1972 (cf 1892))

Norse, Old\* (Prokosch 1939)

Saxon, Old\* (Prokosch 1939)

4. Slavic

Lusatian (De Bray 1969)

Slavic, Old\* (De Bray 1969; Brugmann 1972 (cf 1892))

Slovenian (De Bray 1969)

5. Baltic

Lithuanian\* (Brugmann 1972 (cf 1892))

6. Greek

Greek (Goodwin 1892)

(5Dns)

1. Indo-Iranian

Gujarati (Beames 1970(cf 1871); Tisdall 1961 (cf 1892))

Derivative Type

(3ND-A)

2. Germanic

English (n.d.)

**II. 7. Paleosiberian**

(4ND)

Chukchee (Bogoras 1922)

Kamchadal (Bogoras 1922)

Kottish (Forchheimer 1951)

(6ND)

Eskimo, West Greenland (Thalbitzer 1911)

Koryak (Bogoras 1922)

(5Dns)

Gilyak (Austerlitz 1959)

Derivative Types

(5ND-L)

Aleut, Atkan (Bergsland & Dirks n.d.)

Aleut, Eastern (Bergsland & Dirks n.d.)

**III. AFRICA**

**III. 1. Afro-Asiatic**

(4ND)

1. Semitic

Akkadian\* (Forchheimer 1951; Moscati 1969)

Amharic (Leslau 1966; Cowley et al. 1976)

Arabic, Egyptian (Khalafallah 1969)

Arabic, Iraqi (Erwin 1963)

Arabic, Moroccan (Harrell 1962)

Argobba (Leslau 1966)

Chaha (Leslau 1966)

Gafat (Leslau 1966)

Ge'ez (Leslau 1966)

Giiz (Bender, Fulass & Cowley 1976)

Harari (Leslau 1966)

Hebrew (Moscati 1969)

Syriac (Moscati 1969)

Tigre (Leslau 1966)

Tigrinya (Leslau 1966; Bender, Fulass & Cowley 1976)

2. Chadic

Bolewa (Bolanchi) (Benton 1968(1912))

Hausa (Forchheimer 1951; Westermann & Bryan 1970)

3. Berber

Berber (Applegate 1971)

4. Cushitic

Afar (Bliese 1976)

Alagwa (Tucker & Bryan 1966)

Awiya (Tucker & Bryan 1966)

Beja (Hudson, R. 1976)

Bilin (Tucker & Bryan 1966)

Burji (Hudson, G. 1976)

Burunge (Tucker & Bryan 1966)

Dahalo (Elderkin 1976)

Galla (Tucker & Bryan 1966; Bender, Eteffa & Stinson 1976)

Gebela (Tucker & Bryan 1966)

Hadiyya (Bender, Eteffa & Stinson 1976; Hudson, G. 1976)

Iraqw (Tucker & Bryan 1966; Elderkin 1976)

Kambata (Hudson, G. 1976)

Ma'a (Elderkin 1976)

Oromo (Gragg 1976)

Saho (Tucker & Bryan 1966)

Sidamo (Hudson, G. 1976)

Werizoid (Black 1976)

5. Omotic

Gene (Allan 1976a)

Gonga (Kefa) (Fleming 1976)

Hamer (Lydall 1976)

Jimma (Allan 1976a)

Ometo (Tucker & Bryan 1966)

Waka (Allan 1976a)

Wolamo (Welamo) (Ohman et al. 1976)

(5Dns)

4. Cushitic

Dasenech (Sasse 1976)

Somali (Forchheimer 1951; Tucker & Bryan 1966)

(6Ds)

2. Chadic

Margi (Wigeria) (Hoffmann 1963)

Derivative Type

(5ND-L)

1. Semitic

Arabic (Wright 1977(1859); Forchheimer 1951; Haywood & Nahmad 1976(1962))

5. Omotic

Dizi (Allan 1976b)

**III. 2. Nilo-Saharan**

(4ND)

1. Chari-Nile

Berta (Tucker & Bryan 1966; Triulzi, Dafallah & Bender 1976)

Tabi (Tucker & Bryan 1966)  
(Central Sudanic)

Bagirmi (Tucker & Bryan 1956, 1966)

Baka (Tucker & Bryan 1966)

Bale (Bender 1976)

Bongo (Tucker & Bryan 1956)

Efe (Tucker & Bryan 1966)

Kresh (Tucker & Bryan 1966)

Lugbara (Tucker & Bryan 1966)

Ma'di (Tucker & Bryan 1956, 1966; Crazzolaro 1960)

Mamvu (Tucker & Bryan 1966)

Mangbetu (Tucker & Bryan 1956, 1966)

Morokodo (Tucker & Bryan 1966)

Moru (Tucker & Bryan 1956, 1966)

Oke'bu (Tucker & Bryan 1966)

Sara Mbai (Tucker & Bryan 1966)

(Eastern Sudanic)

Acooli (Crazzolaro 1955(1938) )

Afitti (Tucker & Bryan 1966)

Bari (Tucker & Bryan 1966)

Barya (Tucker & Bryan 1966)

Baygo (Tucker & Bryan 1966)

Darfur (Tucker & Bryan 1966)

Debri (Tucker & Bryan 1966)

Didinga (Tucker & Bryan 1956, 1966; Bender 1976)

Dinka (Tucker & Bryan 1966)

Dongola (Tucker & Bryan 1966)

Fadicca (Tucker & Bryan 1966)

Jirru (Tucker & Bryan 1966)

Kadaru (Tucker & Bryan 1966)

Kordofan, Western (Tucker & Bryan 1966)

Kwegu (Bender 1976)  
 Lango (Tucker & Bryan 1966)  
 Longarim (Tucker & Bryan 1966; Bender 1976)  
 Lotuho (Tucker & Bryan 1966)  
 Luo (Tucker & Bryan 1966; Stafford 1967)  
 Maasai (Tucker & Bryan 1966)  
 Mahas (Tucker & Bryan 1966)  
 Majang (Bender 1976)  
 Mandi (Tucker & Bryan 1966)  
 Mararit (Tucker & Bryan 1956, 1966)  
 Muguji (Bender 1976)  
 Murle (Tucker & Bryan 1966; Bender 1976)  
 Musri (Bender 1976; Turton & Bender 1976)  
 Nera (Nara) (Thompson 1976)  
 Njagulgule (Tucker & Bryan 1966)  
 Nyimang (Tucker & Bryan 1966)  
 Päkot (Tucker & Bryan 1966)  
 Sungor (Tucker & Bryan 1966)  
 Suri (Tucker & Bryan 1966)  
 Tama (Tucker & Bryan 1966)  
 Temein (Tucker & Bryan 1966)

2. Saharan

Bideyat (Tucker & Bryan 1966)  
 Daza (Tucker & Bryan 1966)  
 Kanuri (Tucker & Bryan 1966)  
 Kashirda (Tucker & Bryan 1966)  
 Kreda (Tucker & Bryan 1966)  
 Teda (Tucker & Bryan 1966)  
 Tubu (Tucker & Bryan 1966)  
 Zaghawa (Tucker & Bryan 1966)

3. Maba

Maba (Tucker & Bryan 1966)  
 Masalit (Tucker & Bryan 1966)

4. Koman

Ganza (Tucker & Bryan 1966)

5. Fur

Fur (Tucker & Bryan 1966)

(5Dns)

1. Chari-Nile

(Central Sudanic)

Lendu (Tucker & Bryan 1966)

(Eastern Sudanic)

Anyuak (Anywa) (Lusted 1976; Ohman et al. 1976)

Bodi (Bender 1976)

Liguri (Tucker & Bryan 1966)

Midob (Tucker & Bryan 1966)

Nuer (Tucker ; Bryan 1966)

Shatt (Tucker & Bryan 1966)

Shilluk (Tucker & Bryan 1966; Westermann 1974)

Sila (Tucker & Bryan 1966)

Teso (Tucker & Bryan 1966)

Teuso (Tucker & Bryan 1966)

4. Koman

Gumuz (Bender 1976)

Koma (Tucker & Bryan 1966; Bender 1976)

Kwama (Bender 1976)

Uduk (Tucker & Bryan 1966; Bender 1976)

(8Dns)

1. Chari-Nile

Kunama (Tucker & Bryan 1966)

III. 3. Niger-Kordofanian

(4ND)

1. Kordofanian

Katla (Tucker & Bryan 1966)

Lafofa (Tucker & Bryan 1966)

Moro (Tucker & Bryan 1966)

Rashad (Tucker & Bryan 1966)

Tagoi (Tucker & Bryan 1966)

Tima (Tucker & Bryan 1966)

Tira (Tucker & Bryan 1966)

2. Niger-Congo

2.1. Adamawa-Eastern

(Adamawa)

Bua (Tucker & Bryan 1966)

Nielim (Tucker & Bryan 1966)

Tunya (Tucker & Bryan 1966)

(Eastern)

Barambu (Tucker & Bryan 1966)

Gbaya (Tucker & Bryan 1966)

Gbaya Buli (Richardson 1957; Tucker & Bryan 1966)

Gbaya Kara (Tucker & Bryan 1966)

Mba (Tucker & Bryan 1966)

Ndunga (Modunga) (Tucker & Bryan 1966)  
Ngbandi (Tucker & Bryan 1966)  
Ngbaka Gbaya (Tucker & Bryan 1966)  
Ngbaya (Tucker & Bryan 1966)  
Nzakara (Tucker & Bryan 1966)  
Pambia (Tucker & Bryan 1966)  
Sango (Tucker & Bryan 1966; Samarín 1967)  
Zande (Tucker & Bryan 1966)

2.2. West Atlantic

Serer (Faidherbe 1963)  
Wolof (Gamble 1963; Diagne 1971)

2.3. Kwa

Fante-Akan (Balmer & Grant 1942)  
Gé (Akra) (Zimmermann 1958)  
Grebo (Westermann & Bryan 1970)  
Igbo (Adams 1932; Green 1962; Westermann & Bryan 1970)  
Kolokuma (Ijo D.) (Williamson 1965)  
Twi (Westermann & Bryan 1970)  
Yoruba (Delano 1958; Rowlands 1969)

2.4. Mande

Kpelle (Westermann & Melzian 1974)  
Mandinka, Gambian (Rowlands 1969(1959))  
Tiv (Westermann & Bryan 1970)  
Vai (Vei) (Koelle 1854; Welmers 1976)

2.5. Benue-Congo

(Bantu)  
Amba (Tucker & Bryan 1957)  
Bafaw (Bafo) (Richardson 1957)  
Bakosi (Richardson 1957)  
Bakota (Richardson 1957)  
Bangandou (Richardson 1957)  
Basosi (Richardson 1957)  
Bemba (Sharman 1963)  
Caga (Tucker & Bryan 1957)  
Dabida (Tucker & Bryan 1957)  
Duala (Ittmann 1939)  
Elong (Richardson 1957)  
Ganda (Tucker & Bryan 1957)  
Giryama (Tucker & Bryan 1957)  
Gisu (Tucker & Bryan 1957)  
Gogo (Tucker & Bryan 1957)  
Kaa (Richardson 1957)  
Kikuyu (Tucker & Bryan 1957)  
Konzo (Tucker & Bryan 1957)  
Kuria (Tucker & Bryan 1957)

Langi (Tucker & Bryan 1957)  
Mbati (Richardson 1957)  
Mbo (Richardson 1957)  
Nata (Tucker & Bryan 1957)  
Nilyamba (Tucker & Bryan 1957)  
Nineng (Richardson 1957)  
Pokomo (Tucker & Bryan 1957)  
Rimi (Tucker & Bryan 1957)  
Shambaa (Tucker & Bryan 1957)  
Sukuma (Tucker & Bryan 1957)  
Swahili (Ashton 1976(1944); Tucker & Bryan 1957)  
Teri (Tucker & Bryan 1957)  
Tooro (Tucker & Bryan 1957)  
Vanuma (Tucker & Bryan 1957)  
Xaayo (Tucker & Bryan 1957)  
Zigula (Tucker & Bryan 1957)  
(Bantoid)  
Bandem (Richardson 1957)  
Keaka (Richardson 1957)  
Tikar (Richardson 1957; Westermann & Bryan 1970)  
Widekum (Westermann & Bryan 1970)  
Wute (Richardson 1957)  
(Others)  
Efik (Westermann & Bryan 1970)

(5Dns)

1. Kordofanian

Kadugli (Tucker & Bryan 1966)  
Kamdang (Tucker & Bryan 1966)  
Katcha (Tucker & Bryan 1966)  
Keiga (Tucker & Bryan 1966)  
Krongo (Tucker & Bryan 1966)  
Masakin (Tucker & Bryan 1966)  
Miri (Tucker & Bryan 1966)  
Otoro (Tucker & Bryan 1966)

2.1. Adamawa-Eastern  
(Eastern)

Banda (Tucker & Bryan 1966)  
Dongo (Tucker & Bryan 1966)  
'dongo (Tucker & Bryan 1966)  
Mayogo (Tucker & Bryan 1966)  
Mundu (Tucker & Bryan 1966)  
Ngbaka Ma'bo (Tucker & Bryan 1966)  
Togbo (Tucker & Bryan 1966)

2.2. West Atlantic

Fulani (Fulbe) (Forchheimer 1951; Arnott 1970)



Fulani (Fulbe, Adamawa) (Westermann & Bryan 1970)  
 Pular (Fulbe, Senegal) (Westermann & Bryan 1970)

2.5. Benue-Congo  
 (Bantu)

Kalanga (Doke 1967)  
 Karanga (Doke 1967)  
 Korekore (Doke 1967)  
 Manyika (Doke 1967)  
 Ndau (Doke 1967)  
 Ronga (Doke 1967)  
 Tonga (Doke 1967)  
 Tsonga (Doke 1967)  
 Tswa (Doke 1967)  
 Venda (Doke 1967)  
 Zezuru (Doke 1967)  
 (Bantoid)  
 Bamileke (Voorhoeve 1967)

(8Dns)

2.3. Kwa  
 Ewe (Forchheimer 1951)

2.5. Benue-Congo  
 (Bantu)  
 Nkosi (Forchheimer 1951)

(6Ds)

1. Kordofanian  
 Koalib (Tucker & Bryan 1966)

2.1. Adamawa-Eastern  
 (Eastern)  
 Dai (Tucker & Bryan 1966)  
 Bviri (Tucker & Bryan 1966)  
 Ndogo (Tucker & Bryan 1966)  
 Sere (Tucker & Bryan 1966)

2.5. Benue-Congo  
 (Bantoid)  
 Dshang (Westermann & Bryan 1970)

(9Ds)

2.5. Benue-Congo  
 (Bantoid)

Ngemba (Eastlack 1972)

Derivative Types

(Southern Bantu Type)

2.5. Benue-Congo  
 Sotho, Southern (Doke 1967)  
 Sotho, Northern (Doke 1967)  
 Swazi (Doke 1967)  
 Tswana (Doke 1967)  
 Xhosa (Doke 1967)  
 Zulu (Doke 1967)

(8Ds-A)

2.5. Benue-Congo  
 (Bantu)  
 Kele (Forchheimer 1951)

**III. 4. Khoisan**

(4ND)

Hadza (Hatsa) (Westphal 1956)  
 Kung (Schapera 1930)  
 Sandawe (Westphal 1956)

(6ND)

Auen (Schapera 1930; Westphal 1956)  
 !kora (Westphal 1956)  
 Naron (Schapera 1930)  
 Tshwau (Westphal 1956)  
 Zhu/oase (Kung D.) (Westphal 1956)

(5Dns)

/xam (Schapera 1930)

(8Dns)

Nama (Schapera 1930; Westphal 1956)

Derivative Type

(5ND-L)

Hiechware (G/ /abake) (Westphal 1956)

IV. AMERICA

(4ND)

1. Na-Dene

Chippewayan (Forchheimer 1951)

Haida (Swanton 1911b)

Hupa (Goddard 1911)

Mattole (Forchheimer 1951)

Tlingit (Swanton 1911a)

2. Salish

Bella Coola (Newman 1969)

Selish (Mengarini 1861)

Squeamish (Kuipers 1967)

4. Macro-Algonquian

Mikmaque (Maillard 1970(1864))

Tunica (Forchheimer 1951)

Wiyot (Forchheimer 1951)

6. Penutian

Acatec (Yasugi 1980)

Achi (Yasugi 1980)

Aguacatec (Yasugi 1980)

Cakchiquel (Yasugi 1980)

Chorti (Yasugi 1980)

Chuj (Yasugi 1980)

Huastec (Yasugi 1980)

Itzá (Yasugi 1980)

Ixil (Yasugi 1980)

Kanjobal (Yasugi 1980)

Kekchí (Yasugi 1980)

Jacaltec (Yasugi 1980)

Mopán (Yasugi 1980)

Mutsun (Arroyo de la Cuesta 1970(1861))

Pocomam (Yasugi 1980)

Pocomchí (Yasugi 1980)

Quiché (Yasugi 1980)

Takelma (Sapir 1922)

Teco (Yasugi 1980)

Tsimshian (Boas 1911a)

Tzutujil (Yasugi 1980)

Uspantec (Yasugi 1980)

7. Aztec-Tanoan

Aztec (Milpa-Alta) (Forchheimer 1951)

Hopi (Forchheimer 1951)

Nahuatlán (Buchler & Freeze 1966)

Pima (Néville) (Smith 1970 (1862))

8. Hokan

Yuma (Forchheimer 1951)

(6ND)

1. Na-Dene

Navajo (Reichard 1974(1951))

4. Macro-Algonquian

Tonkawa (Forchheimer 1951)

6. Penutian

Maidu (Dixon 1911)

(5Dns)

2. Salish

Shuswap (Kuipers 1974)

4. Macro Algonquian

Blackfoot (Uhlenbeck 1978(1938))

Fox (Jones 1911)

Ojjiwa (Forchheimer 1951)

6. Penutian

Chol (Yasugi 1980)

Chontal (Yasugi 1980)

Mam (Yasugi 1980)

Tojolabal (Yasugi 1980)

Tzotzil (Yasugi 1980)

Yucateco (Yasugi 1980)

Sierra Popoluca (Forchheimer 1951)

10. Andean Equatorial

Quechua (Wonderly 1952; Parker 1969)

(8Dns)

5. Macro-Siouan

Iroquoian (Forchheimer 1951)

6. Penutian

Chinook (Boas 1911c; Forchheimer 1951)

Siuslawan (Frachtenberg 1922b)

Tzeltal (Berlin 1963; Yasugi 1980)

Yokuts (Forchheimer 1951)

7. Aztec-Tanoan

Kiowa (Forchheimer 1951)

Shoshoni (Forchheimer 1951)

9. Oto-Manguean

Otomi (Forchheimer 1951)

(6Ds)

5. Macro-Siouan

Dakota (Boas & Swanton 1911; Forchheimer 1951)

Ponca (Boas & Swanton 1911; Forchheimer 1951)

Winnebago (Boas & Swanton 1911; Forchheimer 1951)

6. Penutian

Lacandón (Yasugi 1980)

Yakama (Yakima) (Pandosy 1970(1862))

7. Aztec-Tanoan

Southern Paiute (Forchheimer 1951)

Derivative Types

(5ND-A)

5. Macro-Siouan

Carrier (Forchheimer 1951)

(4Dns-A)

3. Wakashan

Kwakiutl (Boas 1911b, 1976(1947))

(7Dns-pl)

6. Penutian

Coos (Frantenberg 1922a)

(5Ds-pl)

5. Macro-Siouan

Lakota (Buechel 1939; Forchheimer 1951)

Siouan, Assimiboine (Buchler & Freeze 1966)

**V. UNCLASSIFIED**

**V. 1. Basque**

(4ND)

Basque (Shimomiya 1979, 1981)

**V. 2. Burushaski**

(4ND)

Burushaski (Lorimer 1935)

**V. 3. Ainu**

(5Dns)

Ainu (Batchelor 1889; Tamura 1981)

**V. 4. Japanese**

(4ND)

Japanese (n.d.)

(5Dns)

Ryukyuan (n.d.)

**VI. PIDGIN-ENGLISH**

(5Dns)

Melanesian Pidgin (Forchheimer 1951)

New Guinean Pidgin (Coastal & Lowland)  
(Laycock 1974)

(8Dns)

Australian Pidgin (Sharpe 1975)

(11Dns)

New Guinea Pidgin (Highlands) (Wurm  
1971)

## Appendix II: Index of Languages

### I. Classification of Languages;

#### I. Oceanian

##### I. 1. Austronesian

- I. 1.1. Formosan
- I. 1.2. Hesperonesian
  - I. 1.2.1. Philippine
  - I. 1.2.2. C. & S. Celebes
  - I. 1.2.3. West Indonesian
- I. 1.3. East Indonesian
  - I. 1.3.1. Moluccan
  - I. 1.3.2. West Irian
- I. 1.4. Melanesian
  - I. 1.4.1. Papuan Melanesian
  - I. 1.4.2. Melanesian Proper
  - I. 1.4.3. Micronesian

##### I. 1.5. Polynesian

##### I. 2. Papuan (Non-Austronesian)

- I. 2.1. Trans-New Guinea
- I. 2.2. West Papuan
- I. 2.3. East Bird's Head
- I. 2.4. Geelvink Bay
- I. 2.5. Sko
- I. 2.6. Torricelli
- I. 2.7. Sepik-Ramu
- I. 2.8. East Papuan
- I. 2.9. Isolates

##### I. 3. Australian

- I. 3.1. Nyulnyulan
- I. 3.2. Bunaban
- I. 3.3. Wororan
- I. 3.4. Garaman
- I. 3.5. Daly
- I. 3.6. Kakadjuan
- I. 3.7. Tiwian
- I. 3.8. Iwaidjan
- I. 3.9. Gunwinguan
- I. 3.10. Mangarai
- I. 3.11. Nagaran
- I. 3.12. Gunavudjian
- I. 3.13. Bureran
- I. 3.14. Mangerian
- I. 3.15. Andilyaugwan
- I. 3.16. Maran
- I. 3.17. Nungubuyan
- I. 3.18. Karawan
- I. 3.19. Yanyula
- I. 3.20. Pama-Nyungan

- I. 4. Andaman
- II. Eurasian
  - II. 1. Austroasiatic
    - II. 1.1. Mon-Khmer
    - II. 1.2. Aslian
    - II. 1.3. Munda
    - II. 1.4. Nicobarese
  - II. 2. Dravidian
  - II. 3. Sino-Tibetan
    - II. 3.1. Tibeto-Burman
    - II. 3.2. Kam-Tai
    - II. 3.3. Chinese
  - II. 4. Ural-Altai
    - II. 4.1. Uralic
    - II. 4.2. Altaic
  - II. 5. Caucasian
  - II. 6. Indo-European
    - II. 6.1. Indo-Iranian
    - II. 6.2. Germanic
    - II. 6.3. Italic
    - II. 6.4. Slavic
    - II. 6.5. Baltic
    - II. 6.6. Greek
  - II. 7. Paleosiberian
- III. African
  - III. 1. Afroasiatic
    - III. 1.1. Semitic
    - III. 1.2. Chadic
    - III. 1.3. Berber
    - III. 1.4. Cushitic
    - III. 1.5. Omotic
  - III. 2. Nilo-Saharan
    - III. 2.1. Chari-Nile
    - III. 2.2. Saharan
    - III. 2.3. Maba
    - III. 2.4. Koman
    - III. 2.6. Fur
  - III. 3. Niger-Kordofanian
    - III. 3.1. Kordofanian
    - III. 3.2. Niger-Congo
      - III. 3.2.1. Adamawa-Eastern
      - III. 3.2.2. West Atlantic
      - III. 3.2.3. Kwa
      - III. 3.2.4. Mande
      - III. 3.2.5. Benue-Congo
  - III. 4. Khoisan
- IV. American
  - IV. 1. Na-Dene
  - IV. 2. Salish

- IV. 3. Wakashan
- IV. 4. Macro-Algonquian
- IV. 5. Macro-Siouan
- IV. 6. Penutian
- IV. 7. Aztec-Tanoan
- IV. 8. Hokan
- IV. 9. Oto-Manguean
- IV. 10. Andean-Equatorial

V. Unclassified

- V. 1. Basque
- V. 2. Burushaski
- V. 3. Ainu
- V. 4. Japanese

VI. Pidgin

II. Index;

Abui	I. 2.2.	5Dns
Acatec	IV. 6.	4ND
Ache	I. 1.2.3.	5Dns
Achi	IV. 6.	4ND
Acooli	III. 2.1.	4ND
Adnjamathanha	I. 3.20.	5ND-A
Adnyamatana	see Adjamathanha	
Adzera	I. 1.4.1.	5Dns
'ackè	I. 1.4.2.	8Dns
Afar	III. 1.4.	4ND
Afitti	III. 2.1.	4ND
Aghu	I. 2.1.	4ND
Agta	I. 1.2.1.	6Ds
Aguacateco	IV.6.	4ND
Ainu	V. 3.	5Dns
Ajamaru	see Ayamaru	
Ajie	I. 1.4.2.	8Dns
Aka	II. 3.1.	4ND
Akkadian*	III. 1.1.	4ND
Akra	See Gê	
Alagwa	III. 1.4.	4ND
Alawa	I. 3.16.	8Dns
Aleut, Atkan	II. 7.	5ND-L
Aleut, Eastern	II. 7.	5ND-L
Ali	I. 1.4.1.	6ND
Amaheci	I. 1.3.1.	5Dns
Amarag	I. 3.8.	4ND
Amba	III. 3.2.5.	4ND
Ambai	I. 1.3.2.	11Dns
Amber (Northern Waigeo)	I. 1.3.2.	8Dns
Ambonese	I. 1.3.1.	5Dns
Ambrym	I. 1.4.2.	11Dns
Amdo	II. 3.1.	4ND
Amharic	III. 1.1.	4ND

Ami	I. 1.1.	5Dns
Ami	I. 3.5.	8Dns
Ampale	I. 2.1.	6ND
Andakerebina	I. 3.20.	6ND
Andilyaugwa	I. 3.15.	11Dns
Anesù	I. 1.4.2.	8Dns
Angaataha	I. 2.1.	6ND
Angami	II. 3.1.	5Dns
Aniwa	I. 1.5.	11Dns
Ankave	I. 2.1.	6ND
Anaberg	I. 2.7.	4ND
Ansus	I. 1.3.2.	5Dns
Anuki	I. 1.4.1.	5Dns
Anyuak	III. 2.1.	5Dns
Anyula	see Yanyula	
Anywa	see Anyuak	
Ao	II. 3.1.	4ND
Arabic	III. 1.1.	5ND-L
Arabic, Egyptian	III. 1.1.	4ND
Arabic, Iraqi	III. 1.1.	4ND
Arabic, Moroccan	III. 1.1.	4ND
'aragùrè	I. 1.4.2.	8Dns
Aranda, Eastern	I. 3.20	6ND
Aranda, Northern	I. 3.20.	6ND
Aranda, Southern	I. 3.20.	6ND
Aranda, Western	I. 3.20.	6ND
Are	I. 1.4.1.	5Dns
Argobba	III. 1.1.	4ND
Arguni	I. 1.3.2.	5Dns
Arhâ	I. 1.4.2.	8Dns
Aro	I. 1.4.2.	8Dns
Aroma	I. 1.4.1.	5Dns
Arop	I. 1.4.1.	5Dns
Arosi	I. 1.4.2.	8Dns
Arung	II. 3.1.	4ND
Asmat	I. 2.1.	4ND
Assamese	II. 6.1.	4ND
Atta, Pamplona	I. 1.2.1.	6Ds
Auen	III. 4.	6ND
Aulua	I. 1.4.2.	8Dns
'avekè	I. 1.4.2.	8Dns
Awa	I. 2.1.	6ND
Awiya	III. 1.4.	4ND
Awye	see Awyi	
Awyi	I. 2.1.	3ND-A
Ayamaru	I. 2.2.	4ND
Aztec (Milpa-Alta)	IV. 7.	4ND
Baä	I. 1.3.1.	5Dns
Babatana	see Bambatana(1)	
Bafaw	III. 3.2.5.	4ND
Bafo	see Bafaw	

Bagirmi	III. 2.1.	4ND
Baham	see Patimuni	
Bahing	II. 3.1.	8Dns
Bahnar	II. 1.1.	8Dns
Bahramgala	II. 6.1.	4ND
Bai	III. 3.2.1.	6Ds
Baka	III. 2.1.	4ND
Bakhli Khad	II. 6.1.	4ND
Baki	I. 1.4.2	5Dns
Bakosi	III. 3.2.5.	4ND
Bakota	III. 3.2.5.	4ND
Balangaw	I. 1.2.1.	6Ds
Balawa	1.4.	4ND
Balawaia	I. 1.4.1.	5Dns
Bale	III. 3.1.	4ND
Balti	II. 3.1.	5Dns
Bam	I. 1.4.1.	5Dns
Bambatana(1)	I. 1.4.2.	5Dns
Bambatana(2)	I. 1.4.2.	8Dns
Bamileke	III. 3.2.5.	5Dns
Banara	I. 2.7.	6ND
Banda	III. 3.2.1.	5Dns
Bandem	III. 3.2.5.	4ND
Bangandou	III. 3.2.5.	4ND
Banlol	I. 1.3.2.	6Dns-O-du
Banpara	II. 3.1.	4ND
Barai	I. 2.1.	4ND
Barambu	III. 3.2.1.	4ND
Barari	II. 6.1.	4ND
Bari	III. 2.1.	4ND
Baruya	I. 2.1.	6ND
Barya	III. 2.1.	4ND
Basosi	III. 3.2.5.	4ND
Basque	V. I.	4ND
Batak, Dairi	I. 1.2.3.	5Dns
Batak, Karo	I. 1.2.3.	5Dns
Batak, Mandailing	I. 1.2.3.	5Dns
Batak, Palawan	I. 1.2.1.	6Ds
Batak, Toba	I. 1.2.3.	5Dns
Batanta	I. 1.3.2.	6Dns-O-O'
Baygo	III. 2.1.	4ND
Bea	I. 4.	4ND
Beja	III. 1.4.	4ND
Belep (Nenema)	I. 1.4.2.	8Dns
Bella Coola	IV. 2.	4ND
Bemba	III. 3.2.5.	4ND
Bengali	II. 6.1.	4ND
Berber	III. 1.3.	4ND
Berta	III. 2.1.	4ND
Bhramu	II. 3.1.	4ND
Biak	I. 1.3.2.	8Dns



Bideyat	III. 2.2.	4ND
Bikol	I. 1.2.1.	5Dns
Bilaan, Koronadal	I. 1.2.1.	6Ds
Bilaan, Sarangani	I. 1.2.1.	6Ds
Bilaspuri	II. 6.1.	4ND
Bilba	I. 1.3.1.	5Dns
Bilbil	I. 1.4.1.	5Dns
Biliau	I. 1.4.1.	5Dns
Bilin	III. 1.4.	4ND
Bima	I. 1.3.1.	5Dns
Bina	I. 1.4.1.	5Dns
Bintuni	I. 1.3.2.	4Dns-O
Binukid	I. 1.2.1.	6Ds
Bishnupriyas	II. 6.1.	4ND
Bishshau	II. 6.1.	4ND
Bisu	II. 3.1.	6ND
Blackfoot	IV. 4.	5Dns
Boanaki	I. 1.4.1.	5Dns
Bodi	III. 2.1.	5Dns
Bodo	II. 3.1.	4ND
Boewe	I. 1.4.2.	8Dns
Bohutu	I. 1.4.1.	5Dns
Bojigyab	I. 4.	4ND
Bokai	I. 1.3.1.	5Dns
Bolanchi	see Bolewe	
Bolewa	III. 1.2.	4ND
Boloven	II. 1.1.	4ND
Bongo	III. 2.1.	4ND
Bongu	I. 2.1.	8Dns
Bontok, Guinaang	I. 1.2.1	6Ds
Bosilewa	I. 1.4.1.	5Dns
Bosngun	I. 2.7.	6ND
Braj	II. 6.1.	4ND
Bua	III. 3.2.1.	4ND
Buan	I. 3.9.	8Dns
Budibad	I. 1.4.1.	5Dns
Bugis	I. 1.2.2.	4Dns-A
Bugoto	I. 1.4.2.	8Dns
Buka	I. 1.4.2.	5Dns
Bulgarian	II. 6.4.	4ND
Buli	I. 1.3.2.	5Dns
Bunaban	I. 3.2.	5Dns
Bunabun	I. 2.1.	6ND
Bunak	I. 1.3.1.	5Dns
Bunan	II. 3.1.	8Dns
Bundeli	II. 6.1.	4ND
Bunun	I. 1.1.	4ND
Burera	I. 3.13.	9Ds
Burji	III. 1.4.	4ND
Burmese	II. 3.1.	4ND
Burunge	III. 1.4.	4ND

Burushaski	V. 2.	4ND
Busang (Dayak)	I. 1.2.3.	7Dns-A
Bush	I. 1.4.2.	5Dns
Bviri	III. 3.2.1.	6Ds
Bwaidoga	I. 1.4.1.	5Dns
Byelorussian	II. 6.4.	4ND
Caga	III. 3.2.5.	4ND
Cakchiquel	IV. 6.	4ND
Camuki	I. 1.4.2.	8Dns
Car	II. 1.4.	8Dns
Carrier	IV. 5.	5ND-A
Cebuano	I. 1.2.1.	5Dns
Chagatay	II. 4.2.	4ND
Chaha	III. 1.1.	4ND
Chamorro	I. 1.2.1.	5Dns
Chang	II. 3.1.	5Dns
Chaudangsi	II. 3.1.	4ND
Chepang	II. 3.1.	6ND
Cheremis	II. 4.1.	4ND
Chhingtang	II. 3.1.	4ND
Ch'iang	II. 3.1.	8Dns
Chinese	II. 3.3.	5Dns
Chinook	IV. 6.	8Dns
Chippewayan	IV. 1.	4ND
Chitkhuli	II. 3.1.	DD
Chitpavani	II. 6.1.	4ND
Chol	IV. 6.	5Dns
Chontal	IV. 6.	5Dns
Chorti	IV. 6.	4ND
Chourasya	II. 3.1.	4ND
Chrau	II. 1.1.	5Dns
Chuang	II. 3.2.	8Dns
Chuj	IV. 6.	4ND
Chukchee	II. 7.	4ND
Chutiya	II. 3.1.	4ND
Ciri	I. 1.4.2.	8Dns
Coos	IV. 6.	7Dns-pl
Czech	II. 6.4.	4ND
Dabida	III. 3.2.5.	4ND
Daga	I. 2.1.	4ND
Dagur	II. 4.2.	5Dns
Dahalo	III. 1.4.	4ND
Dakota	IV. 5.	6Ds
Dalwongo	I. 3.20	8Dns
Dami	II. 6.1.	4ND
Dani	I. 2.1.	4ND
Darfur	III. 2.1.	4ND
Daribi	I. 2.1.	4ND
Dasenech	III. 1.4.	5Dns
Dawawa	I. 1.4.1.	5Dns
Daza	III. 2.2.	4ND

Dé-jong Ké	II. 3.1.	4ND
Debri	III. 2.1.	4ND
Deduae	I. 2.1.	6ND
Dengka	I. 1.3.1.	5Dns
Dera	I. 2.1.	4ND
Dhimal	II. 3.1.	4ND
Didinga	III. 2.1.	4ND
Digaru	II. 3.1.	4ND
Dimasa	II. 1.1.	4ND
Dinka	III. 2.1.	4ND
Diyari	I. 3.20.	8Dns
Dizi	III. 1.5.	5ND-L
Djadjala	I. 3.20.	8Dns
Djambarbwingo	I. 3.20.	8Dns
Djaru	I. 3.20.	8Dns
Djimba	I. 3.20.	5Dns
Dobu	I. 1.4.1.	5Dns
Dongo	III. 3.2.1.	5Dns
'dongo	III. 3.2.1.	5Dns
Dongola	III. 2.1.	4ND
Dshang	III. 3.2.5.	6Ds
Duala	III. 3.2.5.	4ND
Duau	I. 1.4.1.	5Dns
Dubea	I. 1.4.2.	8Dns
Dumagat, Casiguran	I. 1.2.1.	6Ds
Dumi	II. 3.1.	8Dns
Dutch	II. 6.2.	4ND
Dyirringan	I. 3.20.	8Dns
Efe	III. 2.1.	4ND
Efik	III. 3.2.5.	4ND
Elong	III. 3.2.5.	4ND
Empeo	II. 3.1.	4ND
Enggano	I. 1.2.3.	4Dns-pl
English	II. 6.2.	3ND-A
English, Old*	II. 6.2.	6ND
Eromanga	I. 1.4.2.	8Dns
Eskimo, West Greenland	II. 7.	6ND
Estonia	II. 4.1.	4ND
Evenk	II. 4.2.	5Dns
Ewe	III. 3.2.3.	8Dns
Fadicca	III. 2.1.	4ND
Fante-Akan	III. 3.2.3.	4ND
Faranyao	I. 2.1.	4ND
Fasu	I. 2.1.	6ND
Fataleka	see Fataluku	
Fataluku	I. 1.3.1.	5Dns
Finnish, Suomi	II. 4.1.	4ND
Fiu	I. 1.4.2.	8Dns
Foe	I. 2.1.	6ND
Fordat	I. 1.3.1.	5Dns
Fore	I. 2.1.	6ND

Fox	IV. 4.	5Dns
French	II. 6.3.	4ND
Fulani	see Fulbe	
Fulbe	III. 3.2.2.	5Dns
Fulbe, Adamawa	III. 3.2.2.	5Dns
Fulbe, Senegal	III. 3.2.2.	5Dns
Fur	III. 2.5.	4ND
Futuna	I. 1.5.	11Dns
G/ /abake	see Hiechware	
Gadabi	see Kabadi	
Gadaisu	I. 1.4.1.	5Dns
Gaddang	I. 1.2.1.	5Dns
Gafat	III. 1.1.	4ND
Gagadu	I. 3.6.	6ND
Galbu	I. 3.20.	8Dns
Galela	I. 2.2.	5Dns
Galeya	I. 1.4.1.	5Dns
Galla	III. 1.4.	4ND
Gallong	II. 3.1.	4ND
Galoli	I. 1.3.1.	5Dns
Gamei	I. 2.7.	6ND
Ganda	III. 3.2.5.	4ND
Ganza	III. 2.4.	4ND
Gapapaiwa	see Paiwa	
Garadjeri	I. 3.20.	8Dns
Garama	I. 3.4.	8Dns-tr-pl
Garawa	see Karawa	
Garo	II. 3.1.	5Dns
Garuwahi	I. 1.4.1.	5Dns
Gasaba	II. 1.3.	4ND
Gayo	I. 1.2.3.	5Dns
Gbaya	III. 3.2.1.	4ND
Gbaya Buli	III. 3.2.1.	4ND
Gbaya Kara	III. 3.2.1.	4ND
Gè	III. 3.2.3.	4ND
Ge'ez	III. 1.1.	4ND
Gebela	III. 1.4.	4ND
Gedaged	I. 1.4.1.	5Dns
Gene	III. 1.5.	4ND
Georgian	II. 5.	4ND
German	II. 6.2.	4ND
German, Old Highland*	II. 6.2.	4ND
Gidabal	see Gidabul	
Gidabul	I. 3.20.	4ND
Giiz	III. 1.1.	4ND
Gilyak	II. 7.	5Dns
Gipsy	II. 6.1.	4ND
Giryama	III. 3.2.5.	4ND
Gisu	III. 3.2.5.	4ND
Gobabwingu	I. 3.20.	8Dns
Gogo	III. 3.2.5.	4ND

Golba	I. 3.20.	8Dns
Gomaidj	I. 3.20.	8Dns
Gonga	III. 1.5.	4ND
Gorogone	see Gungorogone	
Gothic*	II. 6.2.	6ND
Grebo	III. 3.2.3.	4ND
Greek	II. 6.6.	6ND
Gudjälavia	I. 3.13.	8Dns
Gugada	I. 3.20.	7Dns-pl
Gugu-Yalanji	I. 3.20.	7Dns-du
Gujarati	II. 6.1.	5Dns
Gumuz	III. 2.4.	5Dns
Gunaidbe	I. 3.13.	8Dns
Gunavidji	I. 3.12	5Dns
Gunbalang	I. 3.9.	6ND
Gundangbon	I. 3.9.	8Dns
Gungorogone	I. 3.13.	8Dns
Gunian	I. 3.2.	5Dns
Gunu	I. 3.6.	6ND
Gurkhali	II. 6.1.	4ND
Gurung	II. 3.1.	4ND
Gutob	II. 1.3.	4ND
Hadiyya	III. 1.4.	4ND
Hadza	III. 4.	4ND
Haida	IV. 1.	4ND
Halbi	II. 6.1.	4ND
Halia	I. 1.4.2.	5Dns
Ham	I. 1.4.1.	5Dns
Hamer	III. 1.5.	4ND
Hanahan	I. 1.4.2.	11Dns
Handuri	II. 6.1.	4ND
Hanunóo	I. 1.2.1.	6Ds
Harari	III. 1.1.	4ND
Hatsa	see Hadza	
Hausa	III. 1.2.	4ND
Hawaiian	I. 1.5.	8Dns
Hawu	I. 1.3.1.	5Dns
Hebrew	III. 1.1.	4ND
Hiechware	III. 4.	5ND-L
Hiligaynon	I. 1.2.1.	5Dns
Hindi	II. 6.1.	4ND
Hindustani	II. 6.1.	4ND
Hopi	IV. 7.	4ND
Horn Is.	I. 1.5.	8Dns
Huasteco	IV. 6.	4ND
Hungarian	II. 4.1.	4ND
Hupa	IV. 1.	4ND
Iai	I. 1.4.2.	8Dns
Ifugao, Amganad	I. 1.2.1.	6Ds
Ifugao, Batad	I. 1.2.1.	6Ds
Ifugao, Bayninan	I. 1.2.1.	6Ds

吉田 会話場面における人の概念の類型論 (II)

Igbo	III. 3.2.3.	4ND
Ilocano	I. 1.2.1.	6Ds
Ilongot, Kakiduge:n	I. 1.2.1.	5Dns
Impo	I. 1.2.2.	5Dns
Inibaloi	I. 1.2.1.	6Ds
Ipiko	I. 2.1.	6ND
Irahutu	see Kaitero	
Iraqw	III. 1.4.	4ND
Iroquoian	IV. 5.	8Dns
Isneg	I. 1.2.1.	6Ds
Italian	II. 6.3.	4ND
Itbayaten, Batanes Is.	I. 1.2.1.	5Dns
Itneg, Binongan	I. 1.2.1.	6Ds
Itzá	IV. 6.	4ND
Ivatan, Batanes Is.	I. 1.2.1.	5Dns
Ivori	I. 2.1.	6ND
Ixil	IV. 6.	4ND
Jacalteco	IV. 6.	4ND
Jahadian	see Yahadian	
Jajala	I. 3.20.	8Dns
Jajawurung	I. 3.20.	8Dns
Jamden	I. 1.3.1.	5Dns
Japanese	V. 4	4ND
Javanese, Old*	I. 1.2.3.	5Dns
Jawe	I. 1.4.2.	8Dns
Jénimu	I. 2.1.	4ND
Jimma	III. 1.5.	4ND
Jirru	III. 2.1.	4ND
Juang	II. 1.3.	6ND
Jui	II. 3.2.	5Dns
Jyarung	II 3.1.	8Dns
Kâte	I. 2.1.	8Dns
Kaa	III. 3.2.5.	4ND
Kabadi	I. 1.4.1.	5Dns
Kachin	II. 3.1.	6ND
Kadaru	III. 2.1.	4ND
Kadugli	III. 3.1.	5Dns
Kaeti	I. 2.1.	4ND
Kagani	II. 6.1.	4ND
Kaicp	I. 1.4.1.	5Dns
Kaigir	I. 2.1.	4ND
Kairi	I. 2.1.	6ND
Kaitero	I. 1.3.2.	5Dns
Kakabai	I. 1.4.1.	5Dns
Kakadu	see Gagadu	
Kalabra	I. 2.2.	4ND
Kalagan	I. 1.2.1.	6Ds
Kalanga	III. 3.2.5.	5Dns
Kaliai-Kove	see Kandoka-Lusi	
Kalinga, Guinaang	I. 1.2.1.	6Ds
Kalkatungu	I. 3.20.	11Dns

Kallahan, Kayapa Proper	I. 1.2.1.	6Ds
Kallahan, Keleyqiq	I. 1.2.1.	6Ds
Kalmük	II. 4.2.	5Dns
Kam	II. 3.2.	5Dns
Kamassian	II. 4.1.	6ND
Kambata	III. 1.4.	4ND
Kamchadal	II. 7	4ND
Kamdang	III. 3.1.	5Dns
Kamilaroi	I. 3.20.	8Dns
Kamor	I. 3.5.	8Dns
Kamoro	I. 2.1.	5ND-L
Kampong Baru	I. 2.1.	7Dns-A
Kanarese	II. 2.	4ND
Kanauri	II. 3.1.	8Dns
Kanauri, Lower	II. 3.1.	7Dns-pl
Kandoka-Lusi	I. 1.4.1.	5Dns
Kanite (Yate D.)	I. 2.1.	6ND
Kanjobal	IV. 6.	4ND
Kankanay, Northern	I. 1.2.1.	6Ds
Kanuri	III. 2.2.	4ND
Kapau	I. 2.1.	6ND
Kapaur	I. 2.1.	4ND
Kapone	I. 1.4.2.	8Dns
Karanga	III. 3.2.5.	5Dns
Karas	I. 2.1.	6Ds
Karawa	I. 3.18.	8Dns
Karôn	I. 2.2.	5ND-A
Karunsi'e	I. 1.2.2.	5Dns
Kashirda	III. 2.2.	4ND
Katcha	III. 3.1.	5Dns
Katla	III. 3.1.	4ND
Katu	II. 1.1.	8Dns
Kaugat	I. 2.1.	4ND
Kawacha	I. 2.1.	6ND
Kawit	I. 1.3.2.	8Dns
Keaka	III. 3.2.5.	4ND
Keapara	I. 1.4.1.	5Dns
Kefa	see Gongga	
Kei	I. 1.3.2.	5Dns
Keiga	III. 3.1.	5Dns
Kekchi	IV. 6.	4ND
Kele	III. 3.2.5.	8Ds-A
Kewa	see Kewe	
Kewe	I. 2.1.	6ND
Kewieng	I. 2.1.	6ND
Khaling	II. 3.1.	8Dns
Khalkha	II. 4.2.	5Dns
Kham	II. 3.1.	6ND
Kharia	II. 1.3.	8Dns
Khasi	II. 1.1.	4ND
Kherwari	II. 1.3.	8Dns

Khmer	II. 1.1.	3ND-A
Kia	I. 1.4.2.	5Dns
Kibiri	I. 2.9.	6ND
Kikuyu	III. 3.2.5.	4ND
Kilivila	I. 1.4.1.	5Dns
Kiowa	IV. 7.	8Dns
Kis	I. 1.4.1.	5Dns
Kisar	I. 1.3.1.	5Dns
Kiwai, Inland	I. 2.1.	8ND
Kjam	II. 3.2.	5Dns
Koalib	III. 3.1.	6Ds
Koci	II. 6.1.	4ND
Koiari	I. 2.1.	4ND
Koiari, Mountain	I. 2.1.	6Ds
Koita	I. 2.1.	4ND
Koli	II. 6.1.	4ND
Kolobafo	I. 1.3.1.	5Dns
Kolokuma (Ijo D.)	III. 3.2.3.	4ND
Koma	III. 2.4.	5Dns
Konda	I. 2.1.	4ND
Konkani	II. 6.1.	4ND
Konzo	III. 3.2.5.	4ND
!kora	III. 4.	6ND
Korafe	I. 2.1.	8Dns
Kordofan, Western	III. 2.1.	4ND
Korean	II. 4.2.	4ND
Korekore	III. 3.2.5.	5Dns
Koryak	II. 7.	6ND
Kottish	II. 7.	4ND
Koumac (Nenema)	I. 1.4.2.	8Dns
Kovai	I. 2.1.	6ND
Koya	II. 2.	5Dns
Kpelle	III. 3.2.4.	4ND
Kreda	III. 2.2.	4ND
Kresh	III. 2.1.	4ND
Krongo	III. 3.1.	5Dns
Kube	I. 2.1.	6ND
Kukuya	I. 1.4.1.	5Dns
Kuliviu	I. 1.4.2.	7Dns-du
Kulung	II. 3.1.	4ND
Kuman (Chimbu D.)	I. 2.1.	6ND
Kunama	III. 2.1.	8Dns
Kung	III. 4.	4ND
Kuni	I. 1.4.1.	5Dns
Kunjen	I. 3.20.	8Dns
Kupang	I. 1.3.1.	5Dns
Kurada	I. 1.4.1.	5Dns
Kuria	III. 3.2.5.	4ND
Kurku	II. 1.3.	8Dns
Kurudu	I. 1.2.3.	8Dns
Kurukh	II. 2.	5Dns



Kusaiean	I. 1.4.3.	5Dns
Kwakiutl	IV. 3.	4Dns-A
Kwama	III. 2.4.	5Dns
Kwamera	I. 1.4.2.	11Dns
Kwegu	III. 2.1.	4ND
Lacandón	IV. 6.	6Ds
Ladil	see Lardil	
Lafofa	III. 3.1.	4ND
Lahu	II. 3.1.	6ND
Lahul	II. 3.1.	4ND
Lai	see Li	
Laiwui	I. 1.2.2.	5Dns
Lakota	IV. 5.	5Ds-pl
Lala	see Pokau	
Lalak	see Laiwui	
Lamalama	I. 3.20.	8Dns
Lampung	I. 1.2.3.	4Dns-A
Lamut	II. 4.2.	5Dns
Langi	III. 3.2.5.	4ND
Lango	III. 2.1.	4ND
Lao	II. 3.2.	4ND
Lappish	II. 4.1.	6ND
Lardil	I. 3.20.	8Dns
Latin*	II. 6.3.	4ND
Lebong	I. 1.2.3.	5Dns
Lendu	III. 2.1.	5Dns
Lepcha	II. 3.1.	6ND
Leti	I. 1.3.1.	5Dns
Leuangiua	see Leuanuia	
Leuanuia	I. 1.5.	2ND
Lhota	II. 3.1.	4ND
Li	II. 3.2.	5Dns
Liambata	I. 1.3.1.	5Dns
Lifu	I. 1.4.2.	8Dns
Liguri	III. 2.1.	5Dns
Lilau	I. 2.6.	6ND
Limbu	II. 3.1.	8Dns
Lissabata	I. 1.3.1.	5Dns
Lisu	II. 3.1.	5Dns
Lithuanian*	II. 6.5.	6ND
Lohiki	I. 2.1.	6ND
Lohorong	II. 3.1.	8Dns
Loinang	I. 1.2.2.	5Dns
Longarim	III. 2.1.	4ND
Lotuho	III. 2.1.	4ND
Lugbara	III. 2.1.	4ND
Luo	III. 2.1.	4ND
Lusatian	II. 6.4.	6ND
Lushei	II. 3.1.	4ND
Ma:una:n	II. 3.2.	5Dns
Ma'a	III. 1.4.	4ND

Ma'di	III. 2.1.	4ND
Maasai	III. 2.1.	4ND
Maba	III. 2.3.	4ND
Macedonian	II. 6.4.	4ND
Madik	I. 2.2.	7Dns-du
Mae	I. 1.5.	8Dns
Magar	II. 3.1.	4ND
Magi	I. 2.1.	6ND
Magobineng	I. 2.1.	6ND
Magori	I. 1.4.1.	5Dns
Mahas	III. 2.1.	4ND
Maidu	IV. 6.	6ND
Maisin .	I. 2.9.	5Dns
Maja (Salawati)	I. 1.3.2.	8Dns
Majang	III. 2.1.	4ND
Makabala	I. 1.3.1.	5Dns
Makarub	I. 2.7.	6ND
Makassar	I. 1.2.2.	4Dns-A
Makassai	I. 1.3.1.	5Dns
Makura	I. 1.4.2.	8Dns
Malagasy	I. 1.2.3.	5Dns
Malakmalak	I. 3.5.	6Ds
Malalamai	I. 1.4.1.	5Dns
Malay	I. 1.2.3.	5Dns
Malay, Palembang	I. 1.2.3.	5Dns
Malay, Penang	I. 1.2.3.	4ND
Malay, Perak	I. 1.2.3.	4ND
Malayalan	II. 2.	5Dns
Malo	I. 2.8.	6Ds
Malu	I. 1.4.2.	8Dns
Mam	IV. 6.	5Dns
Mamanwa	I. 1.2.2.	5Dns
Mamvu	III. 2.1.	4ND
Managalasi	I. 2.1.	4ND
Manam	I. 1.4.1.	5Dns
Manchati	II. 3.1.	8Dns
Manchu	II. 4.2.	5Dns
Manda	I. 3.5.	8Dns
Mandi	III. 2.1.	4ND
Mandinka, Gambian	III. 3.2.4.	4ND
Manem	I. 2.1.	4ND
Mangala	I. 3.20.	8Dns
Mangarai	I. 3.10.	7Dns-du/L
Mangarla	see Mangala	
Mangbetu	III. 2.1.	4ND
Mangeri	I. 3.14	8Dns
Manggalili	I. 3.20.	8Dns
Manggarai	I. 1.3.1.	5Dns
Manikion	I. 2.3.	8Dns
Manobo, Agusan	I. 1.2.1.	6Ds
Manobo, Ata	I. 1.2.1.	5Dns
Manobo, Dibabawon	I. 1.2.1.	6Ds

Manobo, Ilianen	I. 1.2.1.	6Ds
Manobo, Kalamansig Cotabato	I. 1.2.1.	5Dns
Manobo, Sarangani	I. 1.2.1.	6Ds
Manobo, Tigwa	I. 1.2.1.	5Dns
Manobo, Western Bukidnon	I. 1.2.1.	6Ds
Mansaka	I. 1.2.1.	5Dns
Mansibabêr	I. 2.3.	7Dns-pl
Mantembu	I. 2.4.	5Dns
Mantion	I. 2.3.	4Dns-O
Manusela	I. 1.3.1.	5Dns
Manyika	III. 3.2.5.	5Dns
Maori	I. 1.5.	8Dns
Mara	I. 3.16.	8Dns
Maramanandji	I. 3.5.	8Dns
Maranao	I. 1.2.1.	6Ds
Maranunggu	I. 3.5.	8Dns
Mararba	I. 3.20.	8Dns
Mararit	III. 2.1.	4ND
Marathi	II. 6.1.	4ND
Marau Wawa Is.	I. 1.4.2.	4ND
Marengar	I. 3.5.	8Dns
Margi	III. 1.2.	6Ds
Margu	I. 3.8.	5Dns
Maring	II. 3.1.	4ND
Marithiel	I. 3.5.	8Dns
Marshallese	I. 1.4.3.	5Dns
Maru	II. 3.1.	6ND
Masakin	III. 3.1.	5Dns
Masalit	III. 2.3.	4ND
Matngala	I. 3.5.	8Dns
Mattole	IV. 1.	4ND
Matukar	I. 1.4.1.	5Dns
Maung	I. 3.8.	5Dns
Mayogo	III. 3.2.1.	5Dns
Mba	III. 3.2.1.	4ND
Mbati	III. 3.2.5.	4ND
Mbo	III. 3.2.5.	4ND
Mcaun	I. 1.4.2.	8Dns
Meax	see Mansibabêr	
Medebur	I. 1.4.1.	5Dns
Megiar	I. 1.4.1.	5Dns
Meithei	II. 3.1.	4ND
Mekeo	I. 1.4.1.	4Dns-A
Mele	I. 1.5.	8Dns
Melville	I. 3.5.	6Ds
Mentawai	I. 1.2.3.	5Dns
Menya	I. 2.1.	6ND
Midob	III. 2.1.	5Dns
Miju	II. 3.1.	4ND
Mikir	II. 3.1.	5Dns
Mikmaque	IV. 4.	4ND

Minagkabau	I. 1.2.3.	4Dns-A
Minanibai	I. 2.1.	4ND
Mindiri	I. 1.4.1.	5Dns
Mira, Eastern	I. 1.4.2.	11Dns
Miri	II. 3.1.	4ND
Miri	III. 3.1.	5Dns
Misima	I. 1.4.1.	5Dns
'moackè	I. 1.4.2.	8Dns
'moavekè	I. 1.4.2.	8Dns
Mo-iki	I. 1.5.	8Dns
Modunga	see Ndunga	
Moenebeng	I. 1.4.2.	8Dns
Moghol	II. 4.2.	5Dns
Moi	I. 2.1.	7Dns-A
Moiki	I. 1.2.2.	5Dns
Mokilese	I. 1.4.3.	8Dns
Molima	I. 1.4.1.	5Dns
Molio'a	I. 1.2.2.	5Dns
Molongkuni	I. 1.2.2.	5Dns
Mon	II. 1.1.	4ND
Mongolian, Ordos	II. 4.2.	5Dns
Mongour	II. 4.2.	4ND
Mongul	see Moghol	
Mono	I. 1.4.2.	5Dns
Mopán	IV. 6.	4ND
Mor	I. 1.3.2.	8Dns
Moraid	I. 2.2.	7Dns-du
Mordvin	II. 4.1.	4ND
Mori	I. 1.2.2.	5Dns
Moro	III. 3.1.	4ND
Morokodo	III. 2.1.	4ND
Mortlock Is.	I. 1.4.3.	5Dns
Moru	III. 2.1.	4ND
Mosana	I. 1.3.2.	6Dns-O-L
Moshang	II. 3.1.	4ND
Motu	I. 1.4.1.	5Dns
Mudbura	I. 3.20.	8Dns
Muguji	III. 2.1.	4ND
Mukawa	I. 1.4.1.	5Dns
Mullukmulluk	I. 3.5.	8Dns
Mundari	II. 1.3.	8Dns
Mundu	III. 3.2.1.	5Dns
Murle	III. 2.1.	4ND
Murusapa	I. 2.7.	6ND
Murut	I. 1.2.1.	6Ds
Musri	III. 2.1.	4ND
Mutsun	IV. 6.	4ND
Muyuw	I. 1.4.1.	6Ds
Mwatebu	I. 1.4.1.	5Dns
Ñua	I. 1.4.2.	8Dns
Na:n	see Ma:una:n	

Nabak	I. 2.1.	6ND
Nachhereng	II. 3.1.	5Dns
Nagara	I. 3.11.	8Dns
Nagpuri	II. 6.1.	4ND
Nahuatlan	IV. 7.	4ND
Nama	III. 4.	8Dns
Namatote	I. 1.3.2.	4ND
Nanai	II. 4.2.	4ND
Nancowry	II. 1.4.	8Dns
Nanggu	I. 2.8.	6Ds
Nansangia	II. 3.1.	4ND
Napal-Lichin	I. 1.2.3.	5Dns
Nara	see Nera	
Naron	III. 4.	6ND
Nata	III. 3.2.5.	4ND
Navajo	IV.1.	6ND
Ndau	III. 3.2.5.	5Dns
Ndogo	III. 3.2.1.	6Ds
Ndunga	III. 3.2.1.	4ND
Névome	see Pima	
Nèmi	I. 1.4.2.	8Dns
Neku	I. 1.4.2.	8Dns
Nemboi	I. 2.8.	6Ds
Nengone	I. 1.4.2.	8Dns
Nepali	II. 6.1.	4ND
Nera	III. 2.1.	4ND
Newari	II. 3.1.	5Dns
Ngálagan	I. 3.9.	8Dns
Ngad'a	I. 1.3.1.	5Dns
Ngandi	I. 3.9.	8Dns
Ngangikurrungurr	I. 3.5.	8Dns
Ngarinyin	I. 3.3.	11Dns
Ngbaka Gbaya	III. 3.2.1.	4ND
Ngbaka Ma'bo	III. 3.2.1.	5Dns
Ngbandi	III. 3.2.1.	4ND
Ngbaya	III. 3.2.1.	4ND
Ngemba	III. 3.2.5.	9Ds
Ngengomeri	I. 3.5.	8Dns
Nguna	I. 1.4.2.	8Dns
Nias	I. 1.2.3.	5Dns
Nielim	III. 3.2.1.	4ND
Nifilole	I. 1.4.2.	11Dns
Nifiloli	see Nifilole	
Nilyamba	III. 3.2.5.	4ND
Nimboran	I. 2.1.	8Dns
Nimowa	I. 1.4.1.	5Dns
Nineng	III. 3.2.5.	4ND
Njalgulgule	III. 2.1.	4ND
Njigina	I. 3.1.	6Ds
Nkosi	III. 3.2.5.	8Dns
Nocte	II. 3.1.	4ND

Nogugu	I. 1.4.2.	11Dns
Nonumbo	I. 2.7.	6ND
Nooli	I. 2.8.	6Ds
Norse, Old*	II. 6.2.	6ND
Nubia	I. 2.7.	5ND-du
Nuer	III. 2.1.	5Dns
Nufoor	I. 1.3.2.	7Dns-pl
Nukuoro	I. 1.5.	8Dns
Nunggubuyu	I. 3.17.	8Dns
Nyimang	III. 2.1.	4ND
Nyulnyul	I. 3.1.	6Dns-A-du
Nzakara	III. 3.2.1.	4ND
Obi	I. 2.1.	4ND
Oirat	II. 4.2.	4ND
Oirata	I. 1.3.1.	5Dns
Ojibwa	IV. 4.	5Dns
Ok	I. 2.1.	4ND
Oke'bu	III. 2.1.	4ND
Ometo	III. 1.5.	4ND
Ómie	I. 2.1.	4ND
Onjob	I. 2.1.	5Dns
Ono	I. 2.1.	6ND
Oriya	II. 6.1.	4ND
Orokaiva	I. 2.1.	6Ds
Orokolo	I. 2.1.	7Dns-du
Oromo	III. 1.4.	4ND
Ostyak	II. 4.1.	6ND
Otomi	IV. 7.	8Dns
Otoro	III. 3.1.	5Dns
Ouma	I. 1.4.1.	4Dns-L
Oyan	I. 1.4.1.	5Dns
Paama	I. 1.4.2.	9Dns-D-A
Padü	I. 1.2.2.	5Dns
Pahri	II. 3.1.	4ND
Paiute, Southern	IV. 7.	6Ds
Paiwa	I. 1.4.1.	5Dns
Paiwan	I. 1.1.	5Dns
Päkot	III. 2.1.	4ND
Palauan	I. 1.2.1.	5Dns
Palaung	II. 1.1.	8Dns
Pambia	III. 3.2.1.	4ND
Panayati	I. 1.4.1.	5Dns
Pangasinan	I. 1.2.1.	6Ds
Papuma	I. 1.3.2.	5Dns
Pareng	II. 1.3.	5Dns
Parimankutinma	I. 3.20.	8Dns
Patani	I. 1.3.2.	5Dns
Pati	I. 1.4.2.	8Dns
Patimuni	I. 2.1.	4Dns-O
Paulohi	I. 1.3.1.	5Dns
Pawaian	I. 2.9.	6ND

Persian	II. 6.1.	4ND
Pidgin, Australian	VI.	8Dns
Pidgin, Melanesian	VI.	5Dns
Pidgin, New Guinea (Highlands)	VI.	11Dns
Pidgin, New Guinean (Coastal & Lowland)	VI.	5Dns
Pilheni	I. 1.5.	8Dns
Pima	IV. 7.	4ND
Pinje	I. 1.4.2.	8Dns
Pisa	I. 2.1.	4ND
Pitjantjatjara	I. 3.20.	6ND
Poi	I. 1.4.2.	8Dns
Poamei	I. 1.4.2.	8Dns
Poapoâ	I. 1.4.2.	8Dns
Pocomam	IV. 6.	4ND
Pocomchi	IV. 6.	4ND
Pokau	I. 1.4.1.	5Dns
Pokomo	III. 3.2.5.	4ND
Polish	II. 6.4.	4ND
Polopa	I. 2.1.	4ND
Pom	I. 1.3.2.	5Dns
Ponca	IV. 5 .	6Ds
Porome	see Kaire	
Portuguese	II. 6.3.	4ND
Pular	see Fulbe, Senegal	
Puluwat	I. 1.4.3.	5Dns
Pungupungu	I. 3.5.	8Dns
Punjabi	II. 6.1.	4ND
Puragi	I. 2.1.	5Dns
Purik	II. 3.1.	5Dns
Puyuma	I. 1.1.	5Dns
Quechua	IV. 10.	5Dns
Quiché	IV. 6.	4ND
Rainbarngo	I. 3.9.	8Dns
Rajasthani	II. 6.1.	4ND
Rangkas	II. 3.1.	4ND
Rashad	III. 3.1.	4ND
Rawa	I. 2.1.	6ND
Rawang	II. 3.1.	6ND
Reefs	I. 2.8.	9Ds
Ridarngo	I. 3.20.	8Dns
Rimi	III. 3.2.5.	4ND
Ringgou	I. 1.3.1.	5Dns
Riraidjango	I. 3.20.	8Dns
Rodong	II. 3.1.	5Dns
Rogea	I. 1.4.1.	5Dns
Roindji	I. 1.4.1.	5Dns
Roma	I. 1.3.1.	5Dns
Ronga	III. 3.2.5.	5Dns
Roti	I. 1.3.1.	5Dns
Rotuman	I. 1.5.	8Dns
Roviana	I. 1.4.2.	5Dns

Rukai	I. 1.1.	4ND
Russian	II. 6.4.	4ND
Ryukyuan	V. 4.	5Dns
Sa'a	I. 1.4.2.	11Dns
Saa	see Sa'a	
Sabari	I. 1.4.1.	5Dns
Safeyoka	see Ampale	
Saho	III. 1.4.	4ND
Saibalgai	I. 3.20.	8Dns
Sakao	I. 1.4.2.	11Dns
Salt-Yui (Chimbu D.)	I. 2.1.	DD
Samal	I. 1.2.1.	6Ds
Sambal, Botolan	I. 1.2.1.	6Ds
Samo (Nomad D.)	I. 2.1.	7Dns-pl
Samoan	I. 1.5.	8Dns
Sandawe	III. 4.	4ND
Sangil, Sarangani Is.	I. 1.2.1.	8Dns
Sangir	I. 1.2.1.	6Ds
Sango	III. 3.2.1.	4ND
Sani	II. 3.1.	5Dns
Sanskrit*	II. 6.1.	6ND
Santali	II. 1.3.	8Dns
Sara Mbai	III. 2.1.	4ND
Savosavo	I. 2.8.	8Dns
Sawuy	I. 2.1.	4ND
Saxon, Old*	II. 6.2.	6ND
Serbo-Croatian	II. 6.4.	4ND
Sedang	II. 1.1.	7Dns-A
Sekar	I. 1.3.2.	5Dns
Seleman	I. 1.3.1.	5Dns
Selepet	I. 2.1.	6ND
Selish	IV. 2.	4ND
Selkup	II. 4.1.	6ND
Sema	II. 3.1.	4ND
Senesip	I. 1.4.2.	7Dns-du
Sentani	I. 2.1.	5Dns
Sepa	I. 1.4.1.	5Dns
Sepoe (Toaripi D.)	I. 2.1.	7Dns-du
Sera	I. 1.4.1.	6ND
Sere	III. 3.2.1.	6Ds
Serer	III. 3.2.2.	4ND
Serui-Laut	I. 1.3.2.	5Dns
Sewa Bay	I. 1.4.1.	4ND
Shambaa	III. 3.2.5.	4ND
Shatt	III. 2.1.	5Dns
Shilluk	III. 2.1.	5Dns
Sho	II. 3.1.	6ND
Shoshoni	IV. 7.	8Dns
Shuswap	IV. 2.	5Dns
Sidamo	III. 1.4.	4ND
Sierra Popoluca	IV. 6.	5Dns



Sikiana	I. 1.5.	8Dns
Sikka	I. 1.3.1.	5Dns
Sila	III. 2.1.	5Dns
Simalur	I. 1.2.3.	5Dns
Simbari	I. 2.1.	5ND-A
Sinagoro	I. 1.4.1.	5Dns
Sinaki	I. 1.4.1.	5Dns
Sindhi	II. 6.1.	4ND
Siouan, Assimiboine	IV. 5.	5Ds-pl
Siraiki	II. 6.1.	4ND
Sirhë	I. 1.4.2.	8Dns
Sisano	see Sissano	
Sissano	I. 1.4.1.	6ND
Siuslawan	IV. 6.	8Dns
Sko	I. 2.5.	4ND
Slavic, Old*	II. 6.4.	6ND
Slovak	II. 6.4.	4ND
Slovenian	II. 6.4.	6ND
Solor	I. 1.3.1.	5Dns
Somali	III. 1.4.	5Dns
Sora	II. 1.3.	5Dns
Sotho, Northern	III. 3.2.5.	S. Bantu
Sotho, Southern	III. 3.2.5.	S. Bantu
Spanish	II. 6.3.	4ND
Squeamish	IV. 2.	4ND
SS. Philip. & James	I. 1.4.2.	11Dns
Suau	I. 1.4.1.	5Dns
Subanun, Sindangan	I. 1.2.1.	5Dns
Subanun, Siocon	I. 1.2.1.	5Dns
Sud-Est	I. 1.4.1.	5Dns
Suena	I. 2.1.	8Dns
Sui	II. 3.2.	5Dns
Suket Siraji	II. 6.1.	4ND
Suketi, Eastern	II. 6.1.	4ND
Sukuma	III. 3.2.5.	4ND
Sumba	I. 1.3.1.	5Dns
Sungor	III. 2.1.	4ND
Sunwar	II. 3.1.	6ND
Suri	III. 2.1.	4ND
Suroi	I. 2.1.	6ND
Swahili	III. 3.2.5.	4ND
Swazi	III. 3.2.5.	S. Bantu
Syiagha	I. 2.1.	4ND
Syriac	III. 1.1.	4ND
Tabaru	I. 2.2.	5Dns
Tabi	III. 2.1.	4ND
Tableng	II. 3.1.	4ND
Tagabili	I. 1.2.1.	6Ds
Tagalog	I. 1.2.1.	6Ds
Tagbanwa, Aborlan	I. 1.2.1.	6Ds
Tagbanwa, Kalamian	I. 1.2.1.	5Dns

Tagoi	III. 3.1.	4ND
Tai-Lu	II. 3.2.	8Dns
Tairora	I. 2.1.	6ND
Takelma	IV. 6.	4ND
Tama	III. 2.1.	4ND
Tamagório	I. 2.1.	4ND
Taman	II. 3.1.	5Dns
Tambee	I. 1.2.2.	5Dns
Tamil	II. 2.	5Dns
Tamlu	II. 3.1.	4ND
Tanggum	I. 2.7.	6ND
Tangkhul	II. 3.1.	4ND
Tao-Suamoto	I. 2.1.	6ND
Tasiko	I. 1.4.2.	5Dns
Tasiriki	I. 1.4.2.	5Dns
Tausug	I. 1.2.1.	6Ds
Tawai	I. 4.	4ND
Tawala	I. 1.4.1.	5Dns
Tawara	see Tawai	
Teco	IV. 6.	4ND
Teda	III. 2.2.	4ND
Tehit	I. 2.2.	8Dns
Telefol	I. 2.1.	4ND
Telugu	II. 2.	5Dns
Temein	III. 2.1.	4ND
Temiar	II. 1.2.	8Dns
Teop	I. 1.4.2.	5Dns
Teri	III. 3.2.5.	4ND
Termanu	I. 1.3.1.	5Dns
Teso	III. 2.1.	5Dns
Tettum	I. 1.3.1.	5Dns
Teuso	III. 2.1.	5Dns
Thaksya	II. 3.1.	6ND
Thulung	II. 3.1.	5Dns
Ti	I. 1.3.1.	5Dns
Tiddim	II. 3.1.	5Dns
Tifal	I. 2.1.	4ND
Tigre	III. 1.1.	4ND
Tigrinya	III. 1.1.	4ND
Tikar	III. 3.2.5.	4ND
Tikia	I. 1.4.1.	5Dns
Tima	III. 3.1.	4ND
Tinombo	see Tinompo	
Tinompo	I. 1.2.2.	5Dns
Tira	III. 3.1.	4ND
Tiu	I. 1.2.2.	5Dns
Tiv	III. 3.2.4.	4ND
Tiwi	I. 3.7.	6Ds
Tlingit	IV. 1.	4ND
Toaripi	I. 2.1.	7Dns-du
Tobelo	I. 2.2.	5Dns

Togbo	III. 3.2.1.	5Dns
Tojolabal	IV. 6.	5Dns
Tolomako	I. 1.4.2.	11Dns
Tonga	I. 1.5.	8Dns
Tonga	III. 3.2.5.	5Dns
Tongoa	I. 1.4.2.	8Dns
Tonkawa	IV. 4.	6ND
Tooro	III. 3.2.5.	4ND
Toraja, Bada'	I. 1.2.2.	5Dns
Toraja, Bare'e	I. 1.2.2.	5Dns
Toraja, Bcsu	I. 1.2.2.	5Dns
Toraja, Leboni	I. 1.2.2.	5Dns
Toraja, Napu	I. 1.2.2.	5Dns
Toraja, Sa'dan	I. 1.2.2.	5Dns
Trung	II. 3.1.	4ND
Tshwau	III. 4.	6ND
Tsimshian	IV. 6.	4ND
Tsonga	III. 3.2.5.	5Dns
Tswa	III. 3.2.5.	5Dns
Tswana	III. 3.2.5.	S. Bantu
Tubetube	I. 1.4.1.	5Dns
Tubu	III. 2.2.	4ND
Tumleo	I. 1.4.1.	4ND
Tunica	IV. 4.	4ND
Tunya	III. 3.2.1.	4ND
Turkish, Osmanli	II. 4.2.	4ND
Turkmen	II. 4.2.	4ND
Twi	III. 3.2.3.	4ND
Tyeraity	I. 3.5.	8Dns
Tzeltal	IV. 6.	8Dns
Tzotzil	IV. 6.	5Dns
Tzutujil	IV. 6.	4ND
Ubir	I. 1.4.1.	5Dns
Udihe	II. 4.2.	5Dns
Uduk	III. 2.4.	5Dns
Uhei-Kachlakin	I. 1.3.1.	7Dns-du/L
Ukrainian	II. 6.4.	4ND
Ulau-Suain	I. 1.4.1.	4ND
Ulingan	I. 2.1.	6ND
Ulithian	I. 1.4.3.	5Dns
Ulu Uwoi	I. 1.2.2.	5Dns
Unale	I. 1.3.1.	5Dns
Uningangk	I. 3.14.	8Dns
Uri	I. 2.1.	6ND
Uripiv	I. 1.4.2.	8Dns
Urningangk	see Uningangk	
Usarufa (Auyana D.)	I. 2.1.	6ND
Uspanteco	IV. 6.	4ND
Utupua	I. 1.4.2.	8Dns
Uvea	I. 1.5.	8Dns
Vai	III. 3.2.4.	4ND

Vanémbere	I. 2.7.	4ND
Vanikolo	I. 1.4.2.	8Dns
Vanuma	III. 3.2.5.	4ND
Varhadi Kundi	II. 6.1.	4ND
Varise	I. 1.4.2.	5Dns
Yayu	II. 3.1.	8Dns
Vei	see Vai	
Venda	III. 3.2.5.	5Dns
Vietnamese	II. 1.1.	5Dns
Votyak	II. 4.1.	4ND
Wab	I. 1.4.1.	5Dns
Wadaman	I. 3.20.	5Dns
Wadjiginy	I. 3.5.	8Dns
Wagawaga	I. 1.4.1.	5Dns
Wahgi	I. 2.1.	8Dns
Wahinama	I. 1.3.1.	5Dns
Waipu	I. 2.1.	4Dns-O
Waka	III. 1.5.	4ND
Waling	II. 3.1.	5Dns
Wallis Is.	I. 1.5.	8Dns
Wambon	I. 2.1.	4ND
Wamesa	I. 1.3.2.	6Dns-A-pl
Wamoang	I. 1.4.2.	8Dns
Wandarang	I. 3.16.	8Dns
Wandamen	I. 1.3.2.	5Dns
Wango	I. 1.4.2.	8Dns
Wan'guri	I. 3.20.	8Dns
Wantoat	I. 2.1.	6ND
Warameri	I. 3.20.	8Dns
Waramunga	I. 3.20.	7Dns-pl
Waramungu	see Waramunga	
Waris	I. 2.1.	4ND
Waropen	I. 1.3.2.	11Dns
War:aw	I. 3.1.	8Dns
Wataluma	I. 1.4.1.	5Dns
Watam	I. 2.7.	2ND
Watu	I. 1.2.2.	5Dns
Weda	I. 1.3.2.	5Dns
Wedau	I. 1.4.1.	5Dns
Welamo	see Wolamo	5Dns
Wemale	I. 1.3.1.	5Dns
Werizoid	III. 1.4.	4ND
Widekum	III. 3.2.5.	4ND
Wigeria	see Margi	
Wik-Mulkan	I. 3.20.	7Dns-L
Windesi, Vogelkop	I. 1.3.2.	5Dns
Windesi, Wandamen Bay	I. 1.3.2.	8Dns
Winnebago	IV. 5.	6Ds
Wiru	I. 2.1.	6ND
Wiyot	IV. 4.	4ND
Wo:gaidj	I. 3.5.	8Dns

Wogeo	I. 1.4.1.	4ND
Woi	I. 1.3.2.	4ND
Wolamo	III. 1.5.	4ND
Woleaian	I. 1.4.3.	5Dns
Wolmeri	I. 3.20.	8Dns
Wolof	III. 3.2.2.	4ND
Wolu	I. 1.3.1.	5Dns
Worora	I. 3.3.	11Dns
Wute	III. 3.2.5.	4ND
Xaayo	III. 3.2.5.	4ND
/xam	III. 4.	5Dns
Xhosa	III. 3.2.5.	S. Bantu
Yafpan	see Waipu	
Yagaria	I. 2.1.	6ND
Yahadian	I. 2.1.	7Dns-A
Yakama	IV. 6.	6Ds
Yakan	I. 1.2.1.	6Ds
Yakha	II. 3.1.	4Dns-L
Yakima	see Yakama	
Yalasu (Nenema)	I. 1.4.2.	8Dns
Yami	I. 1.1.	3ND-A
Yanango	I. 3.20.	8Dns
Yanyula	I. 3.19.	8Dns
Yapese	I. 1.4.3.	8Dns
Yareba	I. 2.1.	6ND
Yava	see Mantenbu	
Yele	see Yeletnye	
Yeletnye	I. 2.8.	6ND
Yidin	I. 3.20.	5ND-A
Yoba	I. 1.4.1.	5Dns
Yogwoia	I. 2.1.	6ND
Yokuts	IV. 6.	8Dns
Yoruba	III. 3.2.3.	4ND
Yucatec	IV. 6.	5Dns
Yuma	IV. 8.	4ND
Yunggor	I. 3.5.	8Dns
Yurak	II. 4.1.	6ND
Zaghawa	III. 2.2.	4ND
Zande	III. 3.2.1.	4ND
Zezuru	III. 3.2.5.	5Dns
Zhu/oase (Kung D.)	III. 4.	6ND
Zigula	III. 3.2.5.	4ND
Ziryene	II. 4.1.	4ND
Zulu	III. 3.2.5.	S. Bantu

## 文 献

- AALTO, Pentti  
1964 Schrift-Oiratisch. In Peppo *et al*, *Mongolistik*, Leiden, E. J. Brill, pp. 185-199.
- 安部明義  
1930 『蕃語研究』台北, 蕃語研究会。
- ACHEBECK, B.  
1973 The Adnjamathanha Personal Pronoun and the "Walipi Kinship System." Pacific Linguistics A-36, *Paper in Australian Linguistics* 6: 1-45.
- ADAMS, R. F. G.  
1932 *A Modern Ibo Grammar*. London, Oxford University Press.
- ALLAN, Edward J.  
1976a Kullo. In Marvin Lionel Bender (ed.), *the Non-Semitic; Languages of Ethiopia*, East Lansing, African Studies Center, Michigan State University, pp. 324-350.  
1976b Dizi. In Marvin Lionel Bender (ed.), *the Non-Semitic; Languages of Ethiopia*, East Lansing, African Studies Center, Michigan State University, pp. 377-392.
- ANCEAUX, J. C.  
1961 *The Linguistic Situation in the Islands of Yapen, Kurudu, Nau and Miosnum, New Guinea*. Ver. KITLV 35, 's-Gravenhage, Martinus Nijhoff.  
1965 *The Nimboran Language: Phonology and Morphology*. Ver. KITLV 44, 's-Gravenhage, Martinus Nijhoff.
- ANDREWS, Lorrin  
1978 (1854) *Grammar of the Hawaii Language*. New York, AMS Press.
- APPLEGATE, Joseph R.  
1971 The Berber Languages. In Carleton T. Hodge (ed.), *Afroasiatic: A Survey*, The Hague, Mouton, pp. 96-118.
- ARNOTT, D. W.  
1970 1st and 2nd Person Pronominal Forms in Fula. *African Language Studies* 11: 35-47.
- ARROYO DELA CUESTA, Felipe  
1970(1861) *Grammar of the Mutsun Language*. New York, AMS Press.
- ASHTON, E. O.  
1976(1944) *Swahili Grammar*. London, Longman.
- AUSTERLITZ, Robert  
1969 Semantic Components of Pronoun: Gilyak. *Word* 15(1): 102-109.
- AUSTING, John and Randolph UPIA  
1975 Highlights of Ömie Morphology. In T. E. Button (ed.), *Studies in Languages of Central and South East-Papua*, Pacific Linguistics C-29, Canberra, the Australian National University, pp. 513-598.
- AUSTIN, Peter  
1981 *A Grammar of Diyari, South Australia*. Cambridge, Cambridge University Press.
- BAARDA, M. J. VAN  
1908 *Leidraad bij het bestudeeren van 't Galelasch dialect, op het eiland Halmaheira*. The Hague, Martinus Nijhoff.
- BAILEY, T. Grahame  
1975(1915) *Linguistic Studies from the Himalayas*. New Delhi, Asian Publication Services.
- BALMER, W. T. & F. C. F. GRANT  
1942 *A Grammar of the Fante-Akan Language*. London, the Atlantis Press.
- BATCHELOR, John  
1889 *An Ainu-English-Japanese Dictionary and Grammar*. Tokyo, Kumata.

- BAUMAN, James John  
 1975 *Pronouns and Pronominal Morphology in Tibeto-Burman*. Unpublished Ph. D. Dissertation Paper of University of California, Berkeley.
- BEAMES, John  
 1970(cf 1871) *A Comparative Grammar of the Modern Aryan Languages of India*. New Delhi, Munshiram Manoharlal.
- BEE, Darlene  
 1973 *Usarufa: A Discriptive Grammar*. In Mckaughan (ed.), *The Languages of the Eastern Family of the East New Guinea Highland Stock*, Seattle, University of Washington Press, pp. 225-323.
- BELL, Alan  
 1978 *Language Samples*. In Joseph H. Greenberg (ed.), *Universals of Human Language, Vol. 1, Method and Theory*, Stanford, Stanford University, pp. 123-156.
- BENDER, Byron W.  
 1969 *Spoken Marshallese: An Intensive Language Course with Grammatical Notes and Glossary*. Honolulu, University of Hawaii Press.
- BENDER, Marvin Lionel  
 1976 *Nilo-Saharan Overview*. In Marvin Lionel Bender (ed.), *the Non-Semitic Languages of Ethiopia*, East Lansing, African Studies Center, Michigan State University, pp. 439-483.
- BENDER, Marvin Lionel, Mulugeta ETEFFA & D. Lloyd STINSON  
 1976 *Two Cushitic Languages*. In Marvin Lionel Bender, J. D. Bowen, R. L. Cooper & C. A. Ferguson, *Language in Ethiopia*, London, Oxford University Press, pp. 130-154.
- BENDER, Marvin Lionel, Hailu FULASS & Roger COWLEY  
 1976 *Two Ethio-Semitic Languages*. In Marvin Lionel Bender, J.D. Bowen, R.L. Cooper & C.A. Ferguson, *Language in Ethiopia*, London, Oxford University Press, pp. 99-119.
- BENEDICT, Paul K.  
 1972 *Sino-Tibetan: A Conspectus*. Cambridge, University Press.
- BENJAMIN, Geoffrey  
 1976 *An Outline of Temiar Grammar*. In Philip N. Jenner, Laurence C. Thompson & Stanley Starosta (eds.), *Austroasiatic Studies Part. 1*, Oceanic Linguistics Special Publications No. 13, Honolulu, the University Press of Hawaii, pp. 129-187.
- BENTON, P. A.  
 1968(1912) *The Languages and Peoples of Bornu*. London, Frank Cass.
- BENTON, Richard Anthony  
 1971 *Pangasian Reference Grammar*. Honolulu, University of Hawaii Press.
- バンヴェニスト・エミール  
 1983 『一般言語学の諸問題』河村正夫ら訳, 東京, みすず書房。
- BERGSLAND, Knut & Moses DIRKS  
 n.d. *Eastern Aleut Grammar and Lexicon*. n.p., University of Alaska.  
 n.d. *Introduction to Atkan Aleut Grammar and Lexicon*. n.p., University of Alaska.
- BERLIN, Brent  
 1963 *A Possible Paradigmatic Structure for Tzeltal Pronominals*. *Anthropological Linguistics* 5(2): 1-5.
- BERLING, Robbins  
 1970 *Man's Many Voices*. Holt, Rinehart and Winston.
- BIRK, D. B. W.  
 1976 *The Malakmalak Language, Daly River (Western Arnhem Land)*. Pacific Linguistic B-45, Canberra, the Australian National University.
- BLACK, Paul  
 1976 *Werizoid*. In Marvin Lionel Bender (ed.), *the Non-Semitic Languages of Ethiopia*, East Lansing, African Studies Center, Michigan State University, pp. 222-231.

- BLAKE, Barry J.  
1969 *The Kalkatungu Language*. Australian Aboriginal Studies 20, Linguistic Series 8, Canberra, Australian Institute of Aboriginal Studies.
- BLAKE, F. R.  
1967(1925) *A Grammar of the Tagalog Language*. New York, Kraus Reprint Co.
- BLIESE, Loren  
1976 Afar. In Marvin Lionel Bender (ed.), *the Non-Semitic Languages of Ethiopia*, East Lansing, African Studies Center, Michigan State University, pp. 133-165.
- BOAS, Franz  
1911a Tsimshian. In Franz Boas (ed.), *Handbook of American Indian Languages Part 1*, Washington, Government Printing Office, pp. 283-422.  
1911b Kwakiutl. In Franz Boas (ed.), *Handbook of American Indian Languages Part 1*, Washington, Government Printing Office, pp. 423-557.  
1976(1947) *Kwakiutl Grammar*. New York, AMS Press.
- BOAS, Franz & John R. SWANTON  
1911 Siouan (Dakota). In Franz Boas (ed.), *Handbook of American Indian Languages Part 1*, Washington, Government Printing Office, pp. 875-965.
- BOGORAS, Waldemar  
1922 Chukchee. In Franz Boas (ed.), *Handbook of American Indian Languages Part 2*, Washington, Government Printing Office, pp. 631-903.
- BRICHOUX, Robert M.  
1977 Semantic Components of Pronoun Systems: Subanon and Samoan. *Studies in Philippine Linguistics* 1(1): 163-165.
- BRICHOUX, Robert M. & Felicia BRICHOUX  
1977 A Sketch of Ilianen Manobo Inflection. *Studies in Philippine Linguistics* 1(1): 166-172.
- BROWN, H. A.  
1975 The Eleman Language Family. In K. J. Franklin (ed.), *the Linguistic Situation in the Gulf District and Adjacent Areas, Papua New Guinea*, Pacific Linguistics C-26, Canberra, the Australian National University, pp. 279-376.
- BRUGMANN, Karl  
1972(cf 1892) *A Comparative Grammar of the Indo-Germanic Languages*. Trans. by R. S. Conway & W. H. D. Rouse. Varanasi, Chowkhamba Sanskrit Series Office.
- BUCHLER, Ira R. & R. FREEZE  
1966 The Distinctive Features of Pronominal Systems. *Anthropological Linguistics* 8(8): 78-105.
- BUCHEL, Eugene  
1939 *A Grammar of Lakota*. St. Louis, John S. Swift Co.
- BUNYE, Maria Victoria & Elsa Paula YAP  
1971 *Cebuano Grammar Notes*. Honolulu, University of Hawaii Press.
- CALDWELL, Robert  
1974(1913) *A Comparative Grammar of the Dravidian or South-Indian Family of Languages*. New Delhi, Oriental Books Reprint.
- CAPELL, A.  
1940 The Classification of Languages in North and North-West Australia. *Oceania* 10: 3-4.  
1941-1942 Languages of Arnhem Land, North Australia. *Oceania* 12: 464-392.  
1942-1943 Languages of Arnhem Land, North Australia. *Oceania* 13: 24-50.  
1951-1952 Languages of Bogia District, New Guinea. *Oceania* 22: 130-147, 178-207.  
1952-1953 Notes on the Waramunga Language, Central Australia. *Oceania* 23: 297-311.  
1967 Pronominalisation in Australian Languages. Pacific Linguistics A-11, *Papers in Australian Linguistics* 2: 21-41.  
1969 Non-Austronesian Languages of the British Solomons. Pacific Linguistics A-21, *Papers in Linguistics of Melanesian* 2: 1-16.



- 1971a *Arosi Grammar*. Pacific Linguistics B-20, Canberra, the Australian National University.
- 1971b Austronesian Languages of Australian New Guinea. In Sebeok (ed.), *Current Trends in Linguistics Vol. 8, Linguistics in Oceania*, The Hague, Mouton, pp. 240-340.
- 1976a Austronesian and Papuan "Mixed" Languages: General Remarks. In S. A. Wurm (ed.), *New Guinea Area Languages and Language Study Vol. 2. Austronesian Languages*, Pacific Linguistics C-39, Canberra, the Australian National University, pp. 527-580.
- 1976b General Picture of Austronesian Languages, New Guinea Area. In S.A. Wurm (ed.), *New Guinea Area Languages and Language Study Vol 2. Austronesian Languages*, Pacific Linguistics C-39, Canberra, the Australian National University, pp. 5-52.
- CAPELL, C. & H. E. HINCH  
1970 *Maung Grammar*. The Hague, Mouton.
- CHURCHWARD, Clerk Maxwell  
1978(1940) *Rotuman Grammar and Dictionary*. New York, AMS Press.
- CLAASSEN, O. R. & K. A. McELHANON  
1970 Languages of the Finisterre Range, New Guinea. Pacific Linguistics A-23, *Papers in New Guinean Linguistics* 11: 45-78.
- COATE, H. H. J. & Lynette OATES  
1970 *A Grammar of Ngarinjin*. Australian Aboriginal Studies 25, Linguistic Series 10, Canberra, Australian Institute of Aboriginal Studies.
- COLLINDER, Björn  
1957 *Survey of the Uralic Languages*. Stockholm, Almqvist & Wiksell.
- COMRIE, Bernard  
1981 *The Languages of the Soviet Union*. Cambridge, Cambridge University Press.
- CONKLIN, Harold C.  
1962 Lexicographical Treatment of Folk Taxonomies. *International Journal of American Linguistics* 28(2) Part IV, pp. 119-141.
- COUNTS, David R.  
1969 *A Grammar of Kaliai-Kore*. Oceanic Linguistics Publications No. 6, Honolulu, University of Hawaii Press.
- COWAN, H. K. J.  
1953 *Voorlopige Resultaten van een Ambtelijk Taalonderzoek in New-Guinea*. 's-Gravenhage, Martinus Nijhoff.  
1955-1956 Notes on Windesi Grammar. *Oceania* 26: 42-58.  
1965 *Grammar of the Sentani Language*. Ver. KITLV 47, 's-Gravenhage, Martinus Nijhoff.
- COWLEY, Roger, M. L. BENDER, C. A. FERGUSON, H. FULASS & G. HAILE  
1976 The Amharic Language. In Marvin Lionel Bender, J. D. Bowen, R. L. Cooper & C. A. Ferguson, *Language in Ethiopia*, London, Oxford University Press, pp. 77-98.
- CRAZZOLARA, J. P.  
1955(1938) *A Study of the Acooli Language: Grammar and Vocabulary*. London, Oxford University Press.  
1960 *A Study of the Logbara (Ma'di) Language: Grammar and Vocabulary*. London, Oxford University Press.
- DAS Gupta and Bidhu BHUSAN  
1980 *Oriya Self-Taught*. Calcutta, Das Gupta Prakashan.  
1981 *Learn Hindi Yourself*. Calcutta, Das Gupta Prakashan.  
n.d. *Assamese Self-Taught*. Calcutta, Das Gupta Prakashan.
- DE BRAY, R. G. A.  
1969 *Guide to the Slavonic Languages*. London, J. M. Dent & Sons.
- DELANO, Oleye Issaco  
1958 *Atúmq ede Yoruba: A Short Yoruba Grammar and Dictionary*. London, Oxford University Press.

- DIAGNE, Pathé  
1971 *Grammaire de Wolof Moderne*. Paris, Présence Africaine.
- DIXON, Roland B.  
1911 Maidu. In Franz Boas (ed.), *Handbook of American Indian Languages* Part 1, Washington, Government Printing Office, pp. 679-734.
- DIXON, R. M. W.  
1977 *A Grammar of Yidiñ*. Cambridge, Cambridge University Press.
- DOKE, C. M.  
1967 *The Southern Bantu Languages*. London, International African Institute, Dawsons of Pall Mall.
- DRABBE, P.  
1953 *Spraakkunst van de Kamoro-Taal*. 's-Gravenhage, Martinus Nijhoff.  
1957 *Spraakkunst van hel Aghu-Dialecten van de Awju-Taal*. 's-Gravenhage, Martinus Nijhoff.  
1959 *Kaeti en Wambon, Twee Awju-Dialecten*, 's-Gravenhage, Martinus Nijhoff.  
1963 *Drie Asmat-Dialecten*. 's-Gravenhage, Martinus Nijhoff.
- DUTTON, T. E.  
1969 *The Peopling of Central Papua: Some Preliminary Observations*. Pacific Linguistics B-9. Canberra, the Australian National University.  
1975 A Koita Grammar Sketch and Vocabulary. In Dutton, T. E. (ed.), *Studies in Languages of Central and South-East Papua*, Pacific Linguistics C-29, Canberra, the Australian National University, pp. 281-412.  
1976 Magor and Similar Languages of South-East Papua. In S. A. Wurm (ed.), *New Guinea Area Languages and Language Study Vol. 2. Austronesian Languages*, Pacific Linguistics C-39. Canberra, the Australian National University, pp. 581-636.
- FASTLACK, Charles L.  
1972 The Personal Pronouns of Ngemba. *Journal of African Languages* 11(1): 62-68.
- ECKMANN, János  
1966 *Chagatay Manual*. Bloomington, Indiana University.
- ELBERT, Samuel H.  
1974 *Puluwat Grammar*. Pacific Linguistics B-29. Canberra, the Australian National University.  
1979 *Hawaiian Grammar*. Honolulu, University of Hawaii Press.
- ELDERKIN, E. Derek  
1976 Southern Cushitic. In Marvin Lionel Bender (ed.), *the Non-Semitic Languages of Ethiopia*, East Lansing, African Studies Center, Michigan State University, pp. 278-297.
- EMWIN, W. M.  
1963 *A Short Reference Grammar of Iraqi Arabic*. Washington, Georgetown University Press.
- FAIDHENBE, L.  
1963 Étude sur la langue kéguem ou Sérère-sine. In Gabriel Manessy et Serge Sauvageot (eds.), *Wolof et Sérère*. Dakar, Univ. de Dakar, Faculté des Lettres et Science Humanies, pp. 162-224.
- FARR, James & Cynthia FARR  
1975 Some Features of Korafe Morphology. In T. E. Dutton (ed.), *Studies of Languages of Central and South-East Papua*, Pacific Linguistics C-29, Canberra, the Australian National University, pp. 731-770.
- FLASSY, Don A. L. & W. A. L. STOKHOF  
1979 A Note on Tehit (Bind's Head—Irian Jaya). *NUSA* 7: 36-83.
- FLEMING, Harold C.  
1976 Kefa (Gonga) Languages. In Marvin Lionel Bender (eds.), *the Non-Semitic Languages*

- of *Ethiopia*, East Lansing, African Studies Center, Michigan State University, pp. 351-376.
- FORCHHEIMER, Paul  
 1951 *Category of Person in Language*. Unpublished Ph. D. Dissertation Paper of Columbia University, Cambridge.
- FORTGENS, J.  
 1928 Grammatikale aantekeningen van het Tabaroesch, Tabaroeshe Volksverhalen en Raadsels. *Bijdragen tot de Taal-, Land- en Volkenkunde* 84: 300-544.
- FRACHTENBERG, Leo J.  
 1922a Coos. In Franz Boas (ed.), *Handbook of American Indian Languages*, Part II, Washington, Government Printing Office, pp. 279-429.  
 1922b Siuslawan. In Franz Boas (ed.), *Handbook of American Indian Languages*, Part II, Washington, Government Printing office, pp. 431-629.
- FRANKLIN, K. J.  
 1971 *A Grammar of Kewa, New Guinea*. Canberra, the Australian National University.  
 1975 Other Language Groups in the Gulf District and Adjacent Areas. In K. J. Franklin (ed.), *the Linguistic Situation in the Gulf District and Adjacent Areas, Papua New Guinea*, Pacific Linguistics C-26, Canberra, the Australian National University, pp. 261-278.
- FRANKLIN, K. L. & Clemens L. VOORHOERE  
 1975 Languages Near the Intersection of the Gulf, Southern Highlands and Western Districts. In K. J. Franklin (ed.), *the Linguistic Situation in the Gulf District and Adjacent Areas, Papua New Guinea*, Pacific Linguistics C-26, Canberra, the Australian National University, pp. 149-188.
- FUCHS, W., Ivan A. LOPATIN, Karl H. MENGES and Denis SINOR  
 1968 *Tungusologie*. Leiden, E. J. Brill.
- FURBY, Christine E.  
 1972 The Pronominal System of Garawa. *Oceanic Linguistics* 91(1): 1-31.
- GAMBLE, D. P.  
 1963 Elementary Wolof Grammar. In Gabriel Manessy et Serge Sauvageot (eds.), *Wolof et Sérèr*, Dakar, Univ. de Dakar, Faculté des Lettres et Sciences Humaines, pp. 131-163.
- GARLAND, Roger & Susan GARLAND  
 1975 A Grammar Sketch of Mountain Koiali. In T. E. Dutton (ed.), *Studies in Languages of Central and South-East Papua*, Pacific Linguistics C-29, Canberra, the Australian National University, pp. 413-470.
- GEYTENBEEK, Brian & Helen GEYTENBEEK  
 1971 *Gidabal Grammar and Dictionary*. Australian Aboriginal Studies 43, Linguistic Series 17, Canberra, Australian Institute of Aboriginal Studies.
- GEYTENBEEK, Helen  
 1964 Personal Pronouns of Gidabul. In Pittman & Kerr (eds.), *Papers on the Languages of the Australian Aborigines*, Canberra, Australian Institute of Aboriginal Studies, pp. 91-100.
- GLASGOW, Kathleen  
 1964 Four Principal Contrasts in Burera: Personal Pronouns. In Pittman & Kerr (eds.), *Papers on the Languages of the Australian Aborigines*, Canberra, Australian Institute of Aboriginal Studies, pp. 109-117.
- GODDARD, Pliny Earle  
 1911 Athapascan (Hupa). In Franz Boas (ed.), *Handbook of American Indian Languages Part I*, Washington, Government Printing Office, pp. 85-158.
- GODFREY, Marie  
 1964 Outline Description of the Alphabet and Grammar of Wik-Munkan, Spoken at Loen, North Queensland: A Tentative Outline Grammer (cis) of Wik-Munkan. In William Oates et al, *Gugu-Yalanji and Wik-Munkan languages Studies*, Occasional Papers in Aboriginal Studies No. 2, Canberra, Australian Institute of Aboriginal Studies, pp. 57-78.

- GODFREY, Marie A. & H. B. KERR  
 1964 Personal Pronouns in Wik-Munkan. In Pittman & Kerr. (eds.), *Papers on the Languages of the Australian Aborigines*, Canberra, Australian Institute of Aboriginal Studies, pp. 13-34.
- GOODWIN, William  
 1892 *A Greek Grammar*. Boston, Ginn and Comp.
- GRAGG, Gene  
 1976 Oromo of Wellegga. In Marvin Lionel Bender (ed.), *the Non-Semitic Languages of Ethiopia*. East Lansing, African Studies Center, Michigan State University, pp. 166-195.
- GREEN, M. M.  
 1962 *A Descriptive Grammar of Igbo*. Rev. by G. E. Igwe. Berlin, Akademie-Verlag.
- GREENBERG, Joseph H.  
 1971 The Indo-Pacific Hypothesis. In Sebeok (ed.), *Current Trends in Linguistics vol. 8, Linguistics in Oceania*, The Hague, Mouton, pp. 807-871.
- GRIERSON, G. A. (ed.)  
 1968(1905) *Linguistic Survey of India, vol. VII, Indo-Aryan Family, Southern Group*. Delhi, Motilal Banarsidass.  
 1968(1908) *Linguistic Survey of India, vol. IX, Indo-Aryan Family, Central Group, Part II*. Delhi, Motilal Banarsidass.  
 1973(1906) *Linguistic Survey of India, vol. IV, Munda and Dravidian Languages*. Delhi, Motilal Banarsidass.
- GROZDIĆ, Oton  
 1969 *Serbo-Croatian Grammar and Reader*. New York & London, Hafner Pub. Co.
- GUY, J. B. M.  
 1974 *A Grammar of the Northern Dialect of Sakao*. Pacific Linguistics B-33, Canberra, the Australian National University.
- HAAKSMA, Rémy  
 1933 *Inleiding tot de Studie der Vervoegde Vormen in de Indonesische Talen*. Leiden, E. J. Brill.
- HANSER, Oskar  
 1977 *Turkmen Manual*. Wien, Verlag des Verbandes der Wissenschaftlichen Gesellschaften Österreichs.
- HARRELL, Richard S.  
 1962 *A Short Reference Grammar of Moroccan Arabic*. Washington, Georgetown University Press.
- HARRIS, Joykinslow  
 1969 Preliminary Grammar of Gunbalang. Pacific Linguistics A-17, *Papers in Australian Linguistics* 4: 1-49.
- HARRISON, Sheldon P.  
 1976 *Mokilese Reference Grammar*. Honolulu, University of Hawaii Press.
- HAYWOOD, J. A. & H. M. NAHMAD  
 1962 *A New Arabic Grammar of the Written Language*. London, Lund Humphries.
- HEADLAND, Thomas N. & Alan HEALEY  
 1979 Grammatical Sketch of Casiguran Dumagat. Pacific Linguistics A-43, *Papers in Philippine Linguistics* 6: 1-54.
- HEALEY, Phyllis M.  
 1965 Telefol Clause Structure. Pacific Linguistics A-5, *Papers in New Guinean Linguistics* 3: 1-26.
- HEALEY, Alan, Ambrose ISOROEMBO & Martin CHITTLEBOROUGH  
 1969 Preliminary Notes on Orakaiva Grammar. Pacific Linguistics A-18, *Papers in New Guinean Linguistics* 9: 33-64.

- HENDERSON, J. E.  
 1975 Yeletnye, the Language of Rossel Island. In T. E. Dutton (ed.), *Studies of Languages of Central and South-East Papua*, Pacific Linguistics C-29, Canberra, the Australian National University, pp. 817-834.
- HERSHBERGEN, Ruth  
 1964 Personal Pronouns in Gugu-Yalanji. In Pittman & Kerr (eds.), *Papers on the Languages of the Australian Aborigines*, Canberra, Australian Institute of Aboriginal Studies, pp. 55-68.
- HINCH, H. E.  
 1964 The Maung Personal Pronoun. In Pittman & Kerr (eds.), *Papers on the Languages of the Australian Aborigines*, Canberra, Australian Institute of Aboriginal Studies, pp. 129-138.
- HOFEMAN, Carl  
 1963 *A Grammar of the Margi Language*. London, Oxford University Press.
- HOLZKNECHT, K. G.  
 1973 Morphophonemics of the Adzera Language. Pacific Linguistics A-3, *Papers in New Guinean Linguistics* 17: 13-19.
- HOOKE, Betty  
 1975 Some Nominal Phrases in Yakan. Pacific Linguistics A-44, *Papers in Philippine Linguistics* 7: 1-12.
- HOSPITALIER, J. J.  
 1937 *Grammaire Laotienne*. Paris, Imprimerie Nationale.
- HOUSEHOLDER, Fred W.  
 1955 Review of The Category of Person in Language by Paul Fochheimer. *Language* 30 (1-2): 93-100.
- HUDSON, Grover  
 1976 Highland East Cushitic. In Marvin Lionel Bender (ed.), *the Non-Semitic Languages of Ethiopia*, East Lansing, African Studies Center, Michigan State University, pp. 232-277.
- HUDSON, Richard A.  
 1976 Beja. In Marvin Lionel Bender (ed.), *the Non-Semitic Languages of Ethiopia*, East Lansing, African Studies Center, Michigan State University, pp. 97-132.
- HUETING, A.  
 1936 Iets over de spraakkunst van de Tobeloreesche Taal. *Bijdragen tot de Taal-, Land- en Volkenkunde* 94: 294-407.
- HYMES, Dell H.  
 1955 Review of The Category of Person in Language by Paul Fochheimer. *International Journal of American Linguistics* 21: 294-300.  
 1972 On Personal Pronouns: 'Fourth' Person and Phonesthematic Aspects. In M. Estelle Smith (ed.), *Studies in Linguistics in Honor of George L. Trager*, The Hague, Mouton. pp. 100-121.
- INGRAM, David  
 1978 Typology and Universals of Personal Pronouns. In J. H. Greenberg (ed.), *Universals of Human Language, vol. 3, Word Structure*, Stanford, Stanford University Press, pp. 213-247.
- IRWIN, Barry  
 1974 *Salt-Yui Grammar*. Pacific Linguistics B-35, Canberra, the Australian National University.
- ITTMANN, Johannes  
 1939 *Grammatik des Duala*. Hamburg, Friederichsen, de Gruyter Co.
- JACOB, Judith M.  
 1968 *An Introduction to Cambodian*. London, Oxford University Press.
- JENSEN, John Thayer  
 1977 *Yapese Reference Grammar*. Honolulu, The University Press of Hawaii.

JONES, William

- 1911 Algonquian (Fox). In Franz Boas (ed.), *Handbook of American Indian Languages*, Part I, Revised by Truman Michelson, Washington, Government Printing Office, pp. 735-873.

JOSEPHS, Lewis S.

- 1975 *Palauan Reference Grammar*. Honolulu, The University Press of Hawaii.

KERR, Harland B.

- 1964 Specific and Generic Lexical Contrast in Pronominal Systems. In Pittman & Kerr (eds.), *Papers on the Languages of the Australian Aborigines*, Canberra, Australian Institute of Aboriginal Studies, pp. 157-166.

KHALAFALLAH, Abdelghany A.

- 1969 *A Descriptive Grammar of SAET:DI Egyptian Colloquial Arabic*. The Hague, Mouton.

KIRTON, Jean F.

- 1964 Anyula Person Pronouns. In Pittman & Kerr (eds.), *Papers on the Languages of the Australian Aborigines*, Canberra, Australian Institute of Aboriginal Studies, pp. 139-148.

- 1971 Yanyula Noun Modifiers. *Pacific Linguistics A-27, Papers in Australian Linguistics* 5: 1-14.

KOELLE, S. W.

- 1854 *Outlines of a Grammar of the Vei Language*. London, Church Missionary House.

KOLIA, J. A.

- 1975 A Balawaia Grammar Sketch and Vocabulary. In T. E. Dutton (ed.), *Studies of Languages of Central and South-East Papua*. *Pacific Linguistics C-29*, Canberra, the Australian National University, pp. 107-226.

KUIPERS, Aert H.

- 1967 *The Squeamish Language*. The Hague, Mouton.

LA BARRE, Weston

- 1970 Old and New World Narcotics: A Statistical Question and an Ethnological Reply. *Economic Botany* 24: 73-80.

LAWES, William George

- 1979(1896) *Grammar and Vocabulary of Language Spoken by Motu Tribe (New Guinea)*. New York, AMS Press.

LAYCOCK, Don

- 1969 Three Lamalamic Languages of North Queensland. *Pacific Linguistics A-17, Papers in Australian Linguistics* 4: 71-94.

- 1974 *Materials in New Guinea Pidgin (Coastal and Lowlands)*. *Pacific Linguistics D-5*, Canberra, the Australian National University.

- 1976 Austronesian Languages: Sepik Provinces. In S. A. Wurm (ed.), *New Guinea Area Languages and Language Study Vol. 2. Austronesian Languages*. *Pacific Linguistics C-39*, Canberra, the Australian National University, pp. 399-418.

LEE, Kee-dong

- 1975 *Kusaiean Reference Grammar*. Honolulu, The University press of Hawaii.

LEENHARDT, Maurice

- 1946 *Langues et dialectes del' Austro-Mélanésie*. Paris, Institut D'Ethnologie, Musée De L'Homme.

LESLAU, Wolf

- 1966 The Ethiopia Languages. In Tucker & Bryan, *Linguistic Analyses: The Non-Bantu Languages of North-Eastern Africa*, London, International African Institute, Oxford University Press, pp. 593-613.

梁 敏

- 1980a 『侗語簡志』北京, 民族出版社。

- 1980b 『毛难語簡志』北京, 民族出版社。

- LITHGOW, David R.  
 1976 Austronesian Languages: Milne Bay and Adjacent Islands (Milne Bay Province). In S. A. Wurum (ed.), *New Guinea Area Languages and Language Study Vol. 2. Austronesian Languages*, Pacific Linguistics C-39, Canberra, the Australian National University, pp. 441-524.
- LLOYD, Richard G.  
 1969 Gender in New Guinea Language: Baruya Nouns and Noun Phrases. Pacific Linguistics A-22, *Papers in New Guinean Linguistics* 10: 25-68.  
 1975 The Angan Language Family. In K. J. Franklin (ed.), *the Linguistic Situation in the Gulf District and Adjacent Areas, Papua New Guinea*, Pacific Linguistics C-26, Canberra, the Australian National University, pp. 31-110.
- LORIMER, D. L. R.  
 1935 *The Burushaski Language vol. 1, Introduction and Grammar*. Oslo, H. Aschehoug & Co.
- LOVE, J. R. B.  
 1945-1946 The Pronoun in Worora and Pitjantjatjara. *Oceania* 16: 70-86.
- LOVING, Pichard and A. HOWARD  
 1973 Awa Verbs, I: The Internal Structure of Independent Verbs. In Howard Mckaughan (ed.), *the Languages of the Eastern Family of the East New Guinea Highland Stock*, Seattle & London, University of Washington Press, pp. 36-55.
- LUSTED, Marie  
 1976 Anywa. In Marvin Lionel Bender (ed.), *the Non-Semitic Languages of Ethiopia*, East Lansing, African Studies Center, Michigan State University, pp. 495-512.
- LYDALL, Jean  
 1976 Hamar. In Marvin Lionel Bender (ed.), *the Non-Semitic Languages of Ethiopia*, East Lansing, African Studies Center, Michigan State University, pp. 393-438.
- MAAN, G.  
 1951 *Proeve van een Bulische spraakkunst*. Ver. KITLV 10, 's-Gravenhage, Mantinus Nijhoff.
- MCDONALD, George E.  
 1975 The Teberan Language Family. In K. J. Franklin (ed.), *the Linguistic Situation in the Gulf District and Adjacent Areas, Papua New Guinea*. Pacific Linguistics C-26, Canberra, the Australian National University, pp. 111-148.
- MAHAPATRA, B. P.  
 1976 Comparative Notes on Juang and Kharia Finite Verbs. In Thompson Jenner & Strarosta (eds.), *Austroasiatic Studies Part II*, Oceanic Linguistics Special Publications No. 13, Honolulu, the University Press of Hawaii, pp. 801-814.
- MAILLARD, M. L'Abbe  
 1970(1864) *Grammaire de la Langue Mikmaque*. New York, AMS Press.
- MAINWARING, G. B.  
 1971 *A Grammar of the Lepcha Language*. New Delhi, Manjusri Publishing House.
- MANNHEIM, Bruce  
 1982 Person, Number and Inclusivity in Two Andean Languages. *Acta Linguistica Hafniensia* 17(2): 139-156.
- MARSACK, C. C.  
 1962 *Teach Yourself Samoan*. London, the English Universities Press.
- MATISOFF, J. A.  
 1973 *The Grammar of Lahu*. Berkeley, University of California Press.
- MCELANON, K. A.  
 1972 *Selepet Grammar, Part I: From Root to Phrase*. Pacific Linguistics B-21, Canberra, the Australian National University.  
 1973 *Towards a Typology of the Finisterre-Huon Languages, New Guinea*. Pacific Linguistics B-22, Canberra, the Australian National University.

- McKAUGHAN, Howard  
1959 Semantic Components of Pronoun System: Maranao. *Word* 15(1): 101-102.
- MEERENDONK, M.  
1971(1949) *Basic Gurkhari Grammar*. Singapore, Sen Wah Press & Co.
- MENGARINI, Gregory  
1861 *A Selish or Flat-Head Grammar*. New York, Cramoisy Press.
- MENGES, Karl H.  
1968 Die Tungusischen Sprachen. In W. Fuchs et al., *Tungusologie*, London, E. J. Brill, pp. 21-256.
- MINTZ, Malcolm W.  
1971 *Bikol Grammar Notes*. Honolulu, University of Hawaii Press.
- MÖLLENDORFF, P. G.  
1892 *A Manchu Grammar with Analysed Texts*. Shanghai, the American Presbyterian Mission Press.
- MOSCATI, Sabatino (ed.)  
1969 *An Introduction to the Comparative Grammar of Semitic Languages*. Wiesbaden, Otto Harrassowitz.
- MURANE, Elizabeth  
1974 *Daga Grammar*. Norman, Summer Institute of Linguistics of the University of Oklahoma.
- NEFFGEN, H.  
1978(1918) *Grammar and Vocabulary of the Samoan Language*. New York, AMS Press.
- NEWMAN, Stanley  
1969 Bella Coola Paradigms. *International Journal of American Linguistics* 35: 299-306.
- NGATA, Apirana Turupa  
1973(1939) *Complete Manual of Maori Grammar and Conversation*. New York, AMS Press.
- NISIDA, Tatsuo  
1973 Preliminary Study of the Bisu Language—A Language of Northern Thailand. *Pacific Linguistics A-30, Papers in South East Asian Linguistics* 3: 55-82.
- 西田龍雄  
1978 「チベット・ビルマ語と日本語」『岩波講座12, 日本語の系統と歴史』東京, 岩波書店, pp. 227-300.
- OATES, William & Lynette OATES  
1964 Gugu-Yalanji Linguistic and Anthropological Data. In William Oates et al., *Gugu-Yalanji and Wik-Munkan Language Studies*, Occasional Papers in Aboriginal Studies No. 2, Australian Institute of Aboriginal Studies.
- OHMAN, Walter A, Hailu FULASS, James KEEFER, Aurelia KEEFER, Charles V. TAYLOR & Habte-Mariam MARGOS  
1976 Three Other Ethiopian Languages. In Marvin Lionel Bender, J. D. Bowen, R. L. Cooper & C. A. Ferguson, *Language in Ethiopia*, London, Oxford University Press, pp. 155-180.
- OLSON, Mike  
1975 Barai Grammar. In T. E. Dutton (ed.), *Studies of Languages of Central and South-East Papua*, Pacific Linguistics C-29, Canberra, the Australian National University, pp. 471-512.
- OSBORNE, C. R.  
1974 *The Tiwi Language*. Australian Aboriginal Studies No. 55, Linguistic Series No. 21, Canberra, Australian Institute of Aboriginal Studies.
- 欧阳觉, 郑贻青  
1980 『黎語簡志』北京, 民族出版社。



- PARKER, Gary John  
 1969 *Ayacucho Quechua Grammar and Dictionary*. The Hague, Mouton.
- PARKER, G. W.  
 1883 *A Concise Grammar of the Malagasy Language*. London, Trübner & Co.
- PATON, W. F.  
 1971 *Ambrym (Lonwolwol) Grammar*. Pacific Linguistics B-19, Canberra, the Australian National University.
- PHILLIPS, Donald J.  
 1976 *Wahgi Phonology and Morphology*. Pacific Linguistics B-36, Canberra, the Australian National University.
- PINNOW, H. J.  
 1965 Personal Pronouns in the Austroasiatic Languages: A Historical Study. *Lingua* 14: 3-42.  
 1966(1960) A Comparative Study of the Verb in the Munda Languages. In Norman H. Zide (ed.), *Studies in Comparative Austroasiatic Linguistics*, The Hague, Mouton, pp. 96-193.
- PLATT, John T.  
 1972 *An Outline Grammar of the Gugada Dialect: South Australia*. Australian Aboriginal Studies No. 48, Canberra, Australian Institute of Aboriginal Studies.
- POPPE, Nikolaus  
 1964 Die Dagurische Sprache. In Poppe *et al*, *Mongolistik*, Leiden, E. J. Brill, pp. 137-142.
- POPPE, Nikolaus, Udo POSCH, Gerhard DOERFER, Pentti AALTO, Dominik SCHRÖDER, Omeljan PRITSAK and Walter HEISSIG  
 1964 *Mongolistik*. Leiden, E. J. Brill.
- POSCH, Udo  
 1964a Khalkha und Verwandtes. In Poppe *et al* *Mongolistik*, Leiden, E. J. Brill, pp. 115-133.  
 1964b Das Kalmükische und Verwandte Dialekte. *Mongolistik*, pp. 200-226.
- PRENTICE, D. J.  
 1971 *The Murut Languages of Sabah*. Pacific Linguistics C-18, Canberra, the Australian University.
- PRITSAK, Omeljan  
 1964 Das Mogholische. In Poppe *et al*, *Mongolistik*, Leiden, E. J. Brill, pp. 159-184.
- PROKOSCH, E.  
 1939 *A Comparative Germanic Grammar*. Philadelphia, Linguistic Society of America, University of Pennsylvania.
- RAMSTEDT, G. J.  
 1939 *A Korean Grammar*. Oosterhout (Netherlands), Anthropological Publication, Humanities Press.
- RAY, Sidney Herbert  
 1919-1920 The Polynesian Languages in Melanesia. *Anthropos* 14-15: 46-96.  
 1926 *A Comparative Study of the Melanesian Island Languages*. Cambridge, Cambridge University Press.
- REESINK, Ger P.  
 1976 Languages of the Aramia River Area. Pacific Linguistics A-45, *Papers in New Guinean Linguistics* 19: 1-37.
- REICHARD, Gladys Amanda  
 1974(1951) *Navaho Grammar*. New York, AMS Press.
- REID, Lawrence A.  
 1971 *Philippine Minor Languages: Word Lists and Phonologies*. Oceanic Linguistic Special Publications No. 8, Honolulu, University of Hawaii Press.

RENCK, G. L.

1975 *A Grammar of Yagaria*. Pacific Linguistics B-40, Canberra, the Australian National University.

RICHARDSON, Irvine

1957 *Linguistic Survey of the Northern Bantu Borderland*, Vol. 2. London, International African Institute, Oxford University Press.

ROWLANDS, E. C.

1969(1959) *A Grammar of Gambian Mandinka*. London, School of Oriental and African Studies, University of London.

1969 *Yoruba*. London, English University Press.

SAIHGAL, M. C.

1945(1917) *Saihgals Hindustani Grammar*. Simla Hills (Punjab), M. C. Saihgals & Son.

坂本恭章

1981 「オーストロ・アジア諸語」北村甫編『講座言語6, 世界の言語』東京, 大修館書店, pp. 171-196。

SAMARIN, William J.

1967 *A Grammar of Sango*. The Hague, Mouton.

SAPIR, Edward

1922 The Takelma Language of South-Western Oregon. In Franz Boas (ed.), *Handbook of American Indian Languages*, Part II, Washington, Government Printing Office, pp. 1-296.

SASSE, Hans-Jürgen

1976 Dasenech. In Marvin Lionel Bender (ed.), *the Non-Semitic Languages of Ethiopia*, East Lansing, African Studies Center, Michigan State University, pp. 196-221.

SCHACHTER, Paul & F. T. OTANES

1972 *A Tagalog Reference Grammar*. Berkeley, University of California Press.

SCHAPER, Issac (HRAF)

1930 *The Khoisan People of South Africa: Bushmen and Hottentots*. London, George Routledge & Sons.

SCHRÖDER, Dominik

1964 Der Dialect der Monguor. In Poppe *et al*, *Mongolistik*, Leiden, E. J. Brill, pp. 143-158.

SCHÜTZ, Albert J.

1969 *Nguna Grammar*. Oceanic Linguistics Special Publications No. 5, Honolulu, University of Hawaii Press.

SCOTT, Graham

1973 *Higher Levels of Fore Grammar*. Pacific Linguistics B-23, Canberra, the Australian National University.

SHACKLE, C.

1976 *The Siraiki Language of Central Pakistan: A Reference Grammar*. London, School of Oriental and African Studies, University of London.

SHAFER, Robert

1974 *Introduction to Sino-Tibetan*. Weisbaden, Otto Harrassowitz.

SHARMAN, J. C.

1963 Nominal and Pronominal Prefixes in Bemba. *African Language Studies* 4: 99-127.

SHARPE, Margaret C.

1972 *Alwa Phonology and Grammar*. Australian Aboriginal Studies No. 37, Canberra, Australian Institute of Aboriginal Studies.

1975 Notes on the "Pidgin English" Creole of the Ropen River. *Pacific Linguistics A-39, Papers in Australian Linguistics* 8: 1-20.

SHAW, R. Daniel

1975 The Tentative Classification of the Languages of the Mt. Bosavi Region. In K. J. Franklin (ed.), *the Linguistic Situation in the Gulf District and Adjacent Areas, Papua New*

- Guinea, Pacific Linguistics C-26, Canberra, the Australian National University, pp. 187-216.
- 下宮忠雄  
 1979 『バスク語入門』東京, 大修館書店。  
 1981 「コーカサス諸語・バスク語」北村甫編『講座言語6, 世界の言語』東京, 大修館書店。
- SINHA, K. P.  
 1981 *Bishnupriya Manipuri Languages*. Calcutta, Firma KLM Private Ltd.
- SMITH, Buckingham (ed.)  
 1970(1862) *Grammar of the Pima or Nevome, A Language of Sonora, from a Manuscript of the 18 Century*. New York, AMS press.
- SOHN, Hon-Min  
 1975 *Woleaian Reference Grammar*. Honolulu, the University Press of Hawaii.
- SOHN, Ho-Min & B. W. BENDER  
 1973 *A Ulithian Grammar*. Canberra, the Australian National University.
- SOMMER, B. A. & E. G. SOMMER  
 1967 Kunjen Pronouns and Kinship. Pacific Linguistics A-10, *Papers in Australian Linguistics* 1: 53-59.
- STAFFORD, R. L.  
 1967 *An Elementary Luo Grammar*. London, Oxford University Press.
- STREHLOW, T. G. H.  
 1942-43 Aranda Grammar. *Oceania* 13: 177-200.
- 孙宏开  
 1981 『羌語簡志』北京, 民族出版社。
- SWANTON, John R.  
 1911a Tlingit. In Franz Boas (ed.), *Handbook of American Indian Languages Part I*, Washington, Government Printing Office, pp. 159-204.  
 1911b Haida. In Franz Boas (ed.), *Handbook of American Indian Languages Part I*, Washington, Government Printing Office, pp. 205-282.
- 田村すず子  
 1981 「アイヌ語」北村甫編『講座言語6, 世界の言語』東京, 大修館書店。
- TEMPLE, Richard E. (HRAF)  
 1903 *The Andaman and Nicobar Islands*. Calcutta, Office of the Superintendent of Government Printing.
- THALBITZER, William  
 1919 Eskimo. In Franz Boas (ed.), *Handbook of American Indian Languages Part I*, Washington, Government Printing Office, pp. 967-1069.
- THOMAS, David  
 1955 Three Analysis of the Ilocano Pronoun System. *Word* 11(2): 204-208.
- THOMAS, David D.  
 1971 *Chrau Grammar*. Oceanic Linguistics Special Publications No. 7, Honolulu, University of Hawaii Press.
- THOMPSON, E. David  
 1976 Nera. In Marvin Lionel Bender (ed.), *the Non-Semitic Languages of Ethiopia*, East Lansing, African Studies Center, Michigan State University, pp. 484-494.
- THOMPSON, Laurence C.  
 1965 *A Vietnamese Grammar*. Seattle, University of Washington Press.
- THOMSON, N. P.  
 1975 Magi Phonology and Grammar—Fifty Years Afterwards. In T. E. Dutton (ed.), *Studies of Languages of Central and South-East Papua*, Pacific Linguistics C-29, Canberra, the Australian National University, pp. 599-666.

- TISDALL, William St. Clair  
1961(cf 1892) *A Simplified Grammar of the Gujarati Language*. New York, Fredenick Ungar Pub.
- TOPPING, Donald M.  
1973 *Chamorro Reference Grammar*. Honolulu, University Press of Hawaii.
- TREFRY, D.  
1969 *A Comparative Study of Kunan and Pawaian*. Pacific Linguistics B-13, Canberra, the Australian Naitonal University.
- TRIULZI, A., A. A. DAFALLAH & M. L. BENDER  
1976 Berta. In Marvin Lionel Bender (ed.), *the Non-Semitic Languages of Ethiopia*, East Lansing, African Studies Center, Michigan State University, pp. 513-532.
- TRUDINGER, Ronald M.  
1943 Grammar of the Pitjantjatjara Dialect, Central Australia. *Oceania* 13(3): 205-223.
- TRYON, D. T.  
1970 *An Introduction to Maranungku (Northern Australia)*. Pacific Linguistics B-15, Canberra, the Australian National University.  
1974 *Daly Family Languages, Australia*. Pacific Linguistics C-32, Canberra, the Australian National University.
- 张 均 如  
1980 『水語簡志』北京, 民族出版社。
- TUCKER, A. N. & M. A. BRYAN  
1956 *The Non-Bantu Languages of North-Eastern Africa Part III*. London, International African Institute, Oxford University Press.  
1966 *Linguistic Analyses: The Non-Bantu Languages of North-Eastern Africa*. London, International African Institute, Oxford University Press.
- TURTON, David & M. L. BENDER  
1976 Mursi. In Marvin Lionel Bender (ed.), *the Non-Semitic Languages of Ethiopia*. East Lansing, African Studies Center, Michigan State University, pp. 533-561.
- TYLER, Stephen A.  
1969 *Koya: An Outline Grammar, Gomu Dialect*. Berkeley, University of California Press.
- UHLENBECK, C. C.  
1978(1938) *A Concise Blackfoot Grammar*. New York, AMS Press.
- VINCENT, Alex  
1973 Notes on Tacrora Noun Morphology. In McKaughan (ed.), *the Languages of the Eastern Family of the Eastern New Guinea Highland Stock*, Seatle, University of Washington, pp. 530-546.
- VOEGELIN, C. F. & F. M. VOEGELIN  
1977 *Classification and Index of the World's Languages*. Amsterdam, Elsevier.
- VOORHOEVE, C. L.  
1965 *The Flamingo Bay Dialect of the Asmat Language*. 's-Gravenhage, Martinus Nijhoff.  
1967 Personal Pronouns in Bamileke. *Lingua* 17: 421-430.  
1971 Miscellaneous Notes on Languages in West Irian, New Guinea. Pacific Linguistics A-28, *Papers in New Guinean Linguistics* 14: 47-115.
- 王 均, 郑 国 乔  
1980 『么語簡志』北京, 民族出版社。
- WEAVER, Dan & Marilou WEAVER  
1969 Ranking of Personal Pronouns in Agusan Manobo. *Oceanic Linguistics* 3: 161-170.
- 韦 庆 稳, 覃 国 生  
1980 『壮語簡志』北京, 民族出版社。
- WEIMER, Harry & Natalia WEIMER  
1975 A Short Sketch of Yareba Grammar. In T. E. Dutton (ed.), *Studies of Languages of*

*Central and South-East Papua*. Pacific Linguistics C-29, Canberra, the Australian National University, pp. 667-730.

WELMERS, W. E.

1976 *A Grammar of Vai*. Berkeley, University of California Press.

WESTERMANN, Diedrich

1974 *A Short Grammar of the Shilluk Language*. Nendeln, Kraus Reprint.

WESTERMANN, Diedrich & M. A. BRYAN

1970 *Languages of West Africa*. London, International African Institute, Dawsons of Pall Mall.

WESTERMANN, Diedrich & H. J. MELZIAN

1974 *The Kpelle Language in Liberia: Grammatical Outline Colloquial Sentences and Vocabulary*. Nendeln, Kraus Reprint.

WESTPHAL, E. O. J.

1956 The Non-Bantu Languages of Southern Africa. In A. N. Tucker & M. A. Bryan, *The Non-Bantu Languages of North-Eastern Africa Part III*, London, International African Institute, Oxford University Press.

WHITNEY, W. D.

1973(1889) *Sanskrit Grammar*. Cambridge, Mass.

WILLIAMSON, Kay

1965 *A Grammar of the Kolokuma Dialect of IJO*. Cambridge, The University Press.

WILSON, Darryl

1969 Suená Grammar Highlights. Pacific Linguistics A-18, *Papers in New Guinean Linguistics* 9: 95-110.

WOLFENDEN, Elmer P.

1971 *Hiligaynon Reference Grammar*. Honolulu, University of Hawaii Press.

WONDERLY, William

1952 Semantic Components in Kechua Person Morphemes. *Language* 28(3): 366-376.

WRIGHT, W.

1977(1859) *A Grammar of the Arabic Language* Vol. 1. Revised by W. R. Smith & M. J. de Goeje, Cambridge, Cambridge University Press.

WURM, S. A.

1969 The Linguistic Situation in the Reef and Santa Crus Islands. Pacific Linguistics A-21, *Papers in Linguistics of Melanesian* 2: 47-105.

1971 *New Guinea Highlands Pidgin: Course Materials*. Pacific Linguistics D-3, Canberra, the Australian National University.

1972a *Languages of Australian and Tasmania*. The Hague, Mouton.

1972b Notes on the Indication of Possession with Nouns in Reef and Santa Crus Languages. Pacific Linguistics A-35, *Papers in Linguistics of Melanesian* 3: 85-113.

1975 The Kiwaian Language Family. In K. J. Franklin (ed.), *the Linguistic Situation in the Gulf District and Adjacent Areas, Papua New Guinea*, Pacific Linguistics C-26, Canberra, the Australian National University, pp. 217-260.

1976 The Reef Islands-Santa Cruz Family. In S. A. Wurm (ed.), *New Guinea Area Languages and Language Study Vol. 2, Austronesian Languages*, Pacific Linguistics C-39, Canberra, the Australian National University, pp. 637-674.

WURM, S. A. & L. HERCUS

1976 Tense-Marking in Gunu Pronouns. Pacific Linguistics A-47, *Papers in Australian Linguistics* 10: 35-55.

WURM, S. A. & Shirô HATTORI (ed.)

1981 *Language Atlas of the Pacific Area*. Canberra, the Australian Academy of the Humanities.

吉田 会話場面における人の概念の類型論(Ⅱ)

八杉佳穂

1980 「マヤ諸語の助詞核の比較研究」『ラテン・アメリカ研究』10: 121-173。

吉田集而

1982 「会話場面における人の概念の類型論Ⅰ」『国立民族学博物館研究報告』7(3): 550-584。

喻翠容

1980 『布依語簡志』北京, 民族出版社。

喻翠容, 罗美珍

1980 『傣語簡志』北京, 民族出版社。

YUEN, Ren Chao

1970 *A Grammar of Spoken Chinese*. Berkeley, University of California Press.

Z'GRAGGEN, John A.

1976 *Austronesian Languages: Madang Province*. In S. A. Wurm (ed.), *New Guinea Area Languages and Language Study Vol. 2, Austronesian Languages*, Pacific Linguistics C-39, Canberra, the Australian National University, pp. 285-300.

ZIMMERMANN, J.

1972(1858) *A Grammatical Sketch and Vocabulary of the Akra or Gã Language*. Westmead, Gregg International Publishers.